

[令和2年度]

就職・転職支援のための大学リカレント教育推進事業

就職・転職支援のためのリカレント教育プログラムの開発・実施（文部科学省）

ふくい型アプレントイス
地域共創リカレント教育推進事業

産学官金連携による
「ふくい型アプレントイス」プログラム
(企業IT人材養成)

成果報告書

令和4年2月

格致によりて 人と社会の未来を拓く

国立大学法人



福井大学

UNIVERSITY OF FUKUI

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、国立大学法人福井大学が実施した令和2年度「就職・転職支援のための大学リカレント教育推進事業（就職・転職支援のためのリカレント教育プログラムの開発・実施）」の成果をとりまとめたものです。

はじめに

大学リカレント教育推進事業の取組を振り返り、今後を展望する

1. 事業の概要について

本学ではこれまで様々なリカレント教育に取り組んできましたが、今年度、文部科学省の採択を受け、「就職・転職支援のための大学リカレント教育推進事業」に関するプログラムを初めて実施しました。

当事業・プログラムは、新型コロナウイルス感染症の影響により、リモートワーク等の企業内の働き方など雇用構造の転換が進展する中、特に高度 IT 技術を習得した

人材の確保が地域産業界から強く求められていることを受け、その基礎となるデータサイエンスやビジネススキルをベースとして、就業に直結するサイバーセキュリティやシステム開発といった高度スキルまでを段階的・体系的に習得するカリキュラムを通じ、地域産学官金が連携協力して、UI ターン希望者を含む失業者、非正規雇用労働者、転職希望者等の地域への定着を図り、地域共創に寄与することを目的として実施したものです。

プログラムはの募集人員は 30 名、実施時期は 10～11 月の 2 か月、授業はコア科目、スキル養成科目、アプレンティス科目（サイバーセキュリティコースまたはシステム開発コース）の他、就業体験 24 時間以上（地域企業へのインターンシップまたは企業視察・実証型の事業化可能性調査）から構成され合計152時間以上となります。

2. 事業を振り返って

このプログラムを実施するにあたり、産（福井県経営者協会、福井大学産学官連携本部協力会、福井大学同窓経営者の会）・学（県内高等教育機関）・官（厚生労働省福井労働局・ハローワーク、福井県）・金（福井県銀行協会）で構成する事業実施委員会を中心として、各々の機関が役割を果たしつつ、事業実施委員会で各取組状況に関する情報共有を密に行い運営の調整や改善を行うなど、事業の効率的かつ円滑な運営に努めました。その上で、達成を目指す数値目標として(1)受講者数 30 名、(2)就職率 80%、(3)受講者満足度 80%、就業先企業満足度 80%の 3 つを掲げました。

(1)受講者数については、労働局・ハローワークと福井県による地域の失業者・転職希望者や都市圏の UI ターン希望者等への幅広い呼びかけ、テレビ・新聞・Web・SNS 等による広報、対面とオンラインを活用した個別説明・相談会の実施などにより、また(3)受講者満足度、就業先企業満足度については、受講者の情報技能習熟度など初期スキルに幅があるためワード、エクセル等のソフトのオンデマンドコンテンツを作成しつつでも視聴できる環境を構築し、情報リテラシーに関する講義アシスタント



(学生)を配置するとともに、「企業インターンシップ」に係る受講者と受入企業の丁寧なマッチングを行うなどの工夫を図った結果、目標値を達成することができました。(2)就職率については、選考面接時に企業担当者の同席を依頼し雇用する側の視点を取り入れた選考の実施、少人数クラス分けのメンター制を取り入れた「キャリア概論」におけるキャリアコンサルティングの実施、労働局・ハローワークと連携した受講者一人一人の要望・事情に配慮した就職支援の実施などにより現時点(2月15日)で44%となっており、プログラム修了後3か月以内の目標値の達成に向けて今後も手厚い就職支援を継続していく予定です。なお、就職率算定の対象にはなりません。正規雇用労働者9名のうち5名が本プログラムの成果を活かして転職しており、この点も踏まえれば本事業の趣旨に沿った一定の成果が得られたものと考えています。

3. リカレント事業の今後を考える

本学では、今回の貴重な経験を活かして、今後さらにリカレント教育を推進し、地域社会に貢献していく所存です。その地盤固めとして、令和3年5月にリカレント教育推進本部を設置し、今回実施したプログラムを含め、地域自治体、各種関係機関・団体と連携しリカレント教育を推進しています。また、福井県では、令和3年11月に県を中心とし県内高等教育機関、経済団体等による「未来協働プラットホームふくい」が設立され、6つの実行部門の中で社会人教育もテーマに挙げられており、今回のプログラムで得られた知見を活用し活動を発展させる意義は非常に大きいと考えています。

そのためには、リカレント教育を実施するための財源の確保とともに、退職教員活用制度の確立など教員リソースの確保の道筋を確立する必要があります。学内教員の活用は通常業務への負荷となるため、インセンティブ供与やバイアウト制度による財源を含めた支援策の具体的検討を行っていく予定です。ただ「8. 今後の展望」でも述べたように、今回の事業は事業採算性の点で課題があるため、雇用・地方共創政策として公的な財政支援の継続が必要であると感じているところです。プログラム実行にあたっては職員の支援も必須であり教職協働という観点からも職員に対するインセンティブも併せて考慮する必要があると考えています。

また、今回の事業の継続とともに、「企業インターンシップ」受入等に関する企業との協議の場において、本学に対して企業内の就業者に対するリスキルプログラムの実施の要望が強く、今後、地域共創としての観点からも、就業先企業アンケートで特に要望の多かったIT系などを中心に積極的に取り組むことが必要と考えています。

最後に、最後まで粘り強く授業を受講しプログラムを修了された受講者の皆さん、また、事業に多大なるご協力・ご支援を賜った各機関や企業の関係者の皆様には改めて感謝申し上げます。

福井大学理事／副学長
事業総括責任者 末 信一郎

CONTENTS

はじめに	1
1. 事業概要	5
2. 連携体制	9
3. プログラムの内容	13
4. 地域ニーズの把握	30
5. 事業の広報、受講者募集、申込者数及び受講者数	35
6. プログラムの実施・運営及び修了率	51
7. 就職支援及び就職率	69
8. 成果と課題	77
9. 今後の展望	101

1. 事業概要

(1) 事業の目的

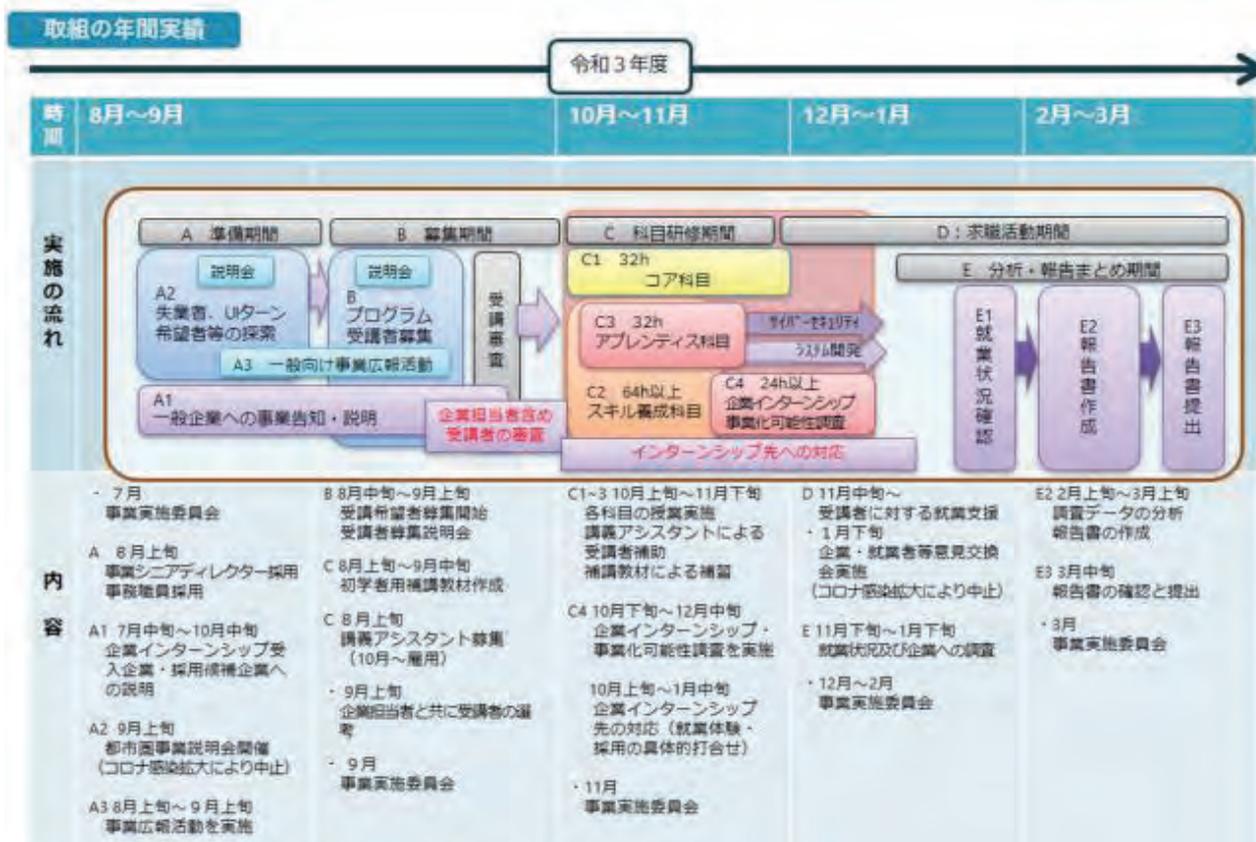
米国の失業者対策において成功を収めたアプレントイス制度（高度技術習得制度）を、地域産学官金エコシステムとして成功を収めてきた「ふくい型」に落とし込む。新型コロナウイルス感染症の影響により、リモートワーク等の企業内の働き方の変化など雇用構造の転換が進展する中、とりわけ高度 IT 技術を習得した人材の確保が地域産業界から強く求められている。

本プログラムではその基礎となるデータサイエンスやビジネススキルをベースとし、就業に直結するサイバーセキュリティやシステム開発などの高度スキルまでを段階的・体系的に習得するカリキュラムを通じ、UI ターン希望者を含む、失業者、非正規雇用労働者、転職希望者等の地域への定着を図り、地域共創に寄与することを目的とする。

資料 1-1 : 事業の概念図



資料 1 - 2 : 取組の年間実績



(2) 事業を通じて達成を目指す定量的な数値目標 (アウトプットとアウトカム) とその達成状況

①開設するプログラム数：1プログラム (目標)

「産学官金連携による「ふくい型アプレンティス」プログラム (企業IT人材養成)」1プログラムを、計画どおり令和3年10月1日から実施し令和4年1月21日に修了した。

②受講者数：30名 (目標)

事業実施委員会が労働局・ハローワークや福井県産業労働部と連携し、地域の失業者や転職希望者へ呼びかけを行うとともに、福井県交流文化部を通じて都市圏のU・Iターン希望者などを幅広く募った結果、募集人員30名を大幅に上回る57名の応募があった。受講申込者には、受講者としての意欲・資質等を確認するため厳正な選考面接を行い、最終的に事業実施委員会で32名の受講者を決定し、目標を達成した (うち1名は、プログラム開始前に辞退したため、結果として受講者は31名となった)。なお、受講者31名のうち27名がプログラムを修了した (修了率87%) (詳細は「5. 事業の広報、受講者募集、申込者数及び受講者数」、「6. プログラムの実施・運営及び修了率」参照)。

③就職率：80%（目標）

受講者の選考面接では、受講者の就業を見据えて企業の人事担当者5名の同席を依頼し、雇用する側の視点を反映した受講者の選考を行った。また、プログラムでは、地域企業や福井県担当部署からの講師による地域の産業や企業理解を促す科目を多く取り入れるとともに、地域企業での就業体験や企業事情に沿った事業化可能性調査を取り入れるなど、プログラム終了後の円滑な就業を見据えた工夫を行った。労働局・ハローワークとも密接に連携し、プログラム受講者一人一人の要望や事情に寄り添った手厚い就職支援を展開した。この結果、就職率算定の対象となる修了者18名のうち8名（44%）の就職（2月15日現在）が決定しており、プログラム修了後3か月以内における目標値の達成に向けて今後も手厚い就職支援を継続していく予定である。なお、就職率算定の対象にはならないが、正規雇用労働者9名のうち5名が本プログラムの成果を活かして転職しており、この点も踏まえれば本事業の趣旨に沿った一定の成果が得られたものと考えている。（詳細は「7. 就職支援及び就職率」参照）。

④受講者満足度（任意指標）：80%（目標）、就業先企業満足度（任意指標）：80%（目標）

受講者の情報技能習熟度など初期のスキルに幅があるため、全員がプログラムを円滑に受講できるように、ワード、エクセル、パワーポイント等スキルを高めるオンマンドコンテンツを事前に準備し、いつでも視聴できる環境を構築するとともに、情報リテラシーに関する講義アシスタントを本学学生が担当し、「キャリア概論」では少人数クラス分けを実施した。また、アプレンティス科目では「サイバーセキュリティコース」と「システム開発コース」の2コースに分け専門性を磨いた。このようにスキルの確実な定着を図り、受講者と企業の双方の満足度を高める取組を展開した結果、プログラム終了後の受講者及び就業先企業に対する満足度アンケート調査では、受講者は回答者27名中「プログラム全体に対する満足度」について「満足した」11名、「ほぼ満足した」14名、計25名（93%）が、また、就業先企業は回答9社（2月15日現在）中「このプログラムの受講によりITスキル、ビジネスマナー等の総合的な人間力が育まれたことが、今回の雇用に至った重要な要因となったか」について「非常に重要であった」3社、「重要であった」5社、計8社（89%）が、それぞれ満足（重要）と認識していることが判明し、目標を達成した（詳細は「6. プログラムの実施・運営及び修了率」、「7. 就職支援及び就職率」参照）。

（3）新型コロナウイルス感染症感染予防の観点で実施したこと（学内の衛生環境の整備やオンライン授業の活用等）（詳細は「6. プログラムの実施・運営及び修了率」参照）

①受講者への注意喚起

9月24日（金）に実施した受講者オリエンテーションの「受講者に係る生活上の留意点」の中で、新型コロナウイルス感染症拡大防止に向け、注意喚起を行った。

②3密の回避

○「密閉」の回避（換気の徹底）

- ・授業中の講義室の換気は、気候上可能な限り常時、困難な場合はこまめに（30分に1回以上、数分間程度、窓を全開）行うとともに2方向の窓を同時に開けて行った。また、講義室に換気扇等が備わっている場合は、常時稼働させた。
- ・窓のない講義室は、常時出入口を開ける、換気扇（扇風機・サーキュレーター）を用いるなどして十分に換気に努めた。

○「密集」の回避（身体的距離の確保）

- ・講義室では、受講者の間隔を可能な限り空ける（最低1メートル・一つおき着席）など「密室」を回避し、収容可能人数以下での授業実施を行った。

○「密接」の回避（マスクの着用）

- ・講義室には、教卓用アクリル板を設置した。
- ・授業担当教員等及び受講者は、基本的に常時マスクを着用した。教員等は、必要に応じてフェイスシールドによる代替も行った。

③オンライン授業の活用等

受講者には情報技能習熟度など初期のスキルに幅があるため、事前学習用に準備したワード、エクセル、パワーポイント等のスキルを高めるオンデマンドコンテンツをいつでも視聴できる環境を構築して、感染予防と教育の質の保証とを並行して担保した。

（4）開発したプログラムや形成したネットワークの発展的かつ継続的な活動内容

本学は、令和3年5月にリカレント教育推進本部を設置し、今回開発したプログラムを含め、地域自治体、各種関係機関・団体と連携し、リカレント教育を推進している。また、福井県では、令和3年11月に県を中心とし県内高等教育機関、経済団体等による「未来協働プラットホームふくい」が設立され、6実行部門の中で社会人教育もテーマに挙げられており、本プログラムの成果を活かしつつ今後の議論などを通して活動を発展させる意義は非常に大きいと考えている。

2. 連携体制

(1) 事業体制及び事業実施委員会の位置付け

産学官金を中心とした各機関が事項に示す役割を行うが、連携、情報共有し事業を協働するために（個々の動きを調整し、統一性を持たせる）ふくい型アプレンティス事業実施委員会（以下「事業実施委員会」という。）を設けた。その位置付けは次のとおりである。

①目的・役割

- 事業の主幹機関は福井大学であるが、本事業では各機関の連携の下で事業実施委員会を設置し、情報共有、協働した取組により、従来の個々の活動に比してより高度で専門的な技術習得に有効で効率的な運営（産学官金連携による「ふくい型アプレンティス」プログラム）を行った。
- 事業実施委員会の設置により、受講者に対して有効に事業が推進されているかについての検討が容易になり、受講者の達成度検証を多面的に評価できた。
- 事業実施委員会のメンバーは、より現場に近い各機関の役職者で構成され、事業の推進について柔軟かつ即応的に対応した。

②検討内容

- 受講者確保の方策
 - ・求職者を受け入れる企業のニーズの確認方法、及び労働局・ハローワークの持つ再就職のノウハウの活用方法について検討した。
 - ・労働局・ハローワーク、福井県、産業界、大学広報担当部局と連携したプログラムの効果的な周知方法及び受講者の募集方法について検討し、とりわけマスコミを活用した効果的な周知方法を確認した。
- プログラムの開発、実施
 - ・企業等のニーズを踏まえ、実務家教員や福井県及び企業派遣による講師を活用し、かつ大学の持つノウハウを活かしたプログラムの開発、及び就業体験の具体的実施方法について検討した。
 - ・キャリアコンサルティングとしてメンター制度の有効活用とプログラムの円滑な実施方法について検討し、グループ制の下で講義の振り返り、企業紹介、受講者個々の修業状況の把握等、必ず実施すべきことを確認した。なお、必要に応じプログラムを修正する等、受講者に配慮した柔軟な対応を行った。
- 就職支援・成果物の検証
 - ・就職支援のため、企業のニーズ動向、マッチングの可能性等について随時情報共有し、必要な対応について検討した。
 - ・事業の成果を検証し、今後の事業展開に資する情報（企画内容・実施方法・検証結果・就職支援方法等）を成果物として提供した。

③ 構成員

- 福井大学理事（研究、産学・社会連携担当）／副学長（事業総括責任者）
- 福井大学地域創生推進本部教授（プログラム開発・事業実施責任者）
- 厚生労働省福井労働局職業安定部長
- 福井県産業労働部副部長
- 福井県経営者協会専務理事
- 福井県銀行協会事務局長
- 福井大学同窓経営者の会理事長
- 福井大学産学官連携本部協力会事務局長（福井経済同友会専務理事）

（２）各機関が果たした役割及びプログラムの開発・実施に当たって協力を得られた事項

福井大学が主幹機関となり、②～⑥の各機関から多方面にわたる協力を得て、雇用者側の求める能力、活躍してほしい分野に応じた内容で、求職者にとってより就業に繋がることが期待できる教育プログラムを構築し実施した。

① 福井大学【学】

主幹機関として大学の有するハード、ソフトの活用とともに、各機関の協力を得て本事業推進全体の責任母体として、受講者、地域のニーズに有効かつ効率的対応を行うために、事業実施委員会をリードする役割を担った。

② 福井労働局（各地区ハローワーク）【官】

福井大学は今まで、失業者、非正規雇用労働者に対するリカレント教育に主体的に取り組んだ経験がなく、本事業の実施にあたり、福井労働局・ハローワークの有する受講者募集、プログラムの開発、キャリアコンサルティングの実施、再就職等への対応等について積極的な支援を得た。

③ 福井県（産業労働部、交流文化部 他）【官】

福井県内の産業構造、雇用状況等を踏まえ、本事業の構築に密接に関与した。県内における今後の課題を念頭において検証することに加え、事業実施においても、講師の派遣、UIターン希望者の紹介、受講者に対する住居交通の支援等強力な支援を得た。

④ 福井県経営者協会【産】

福井県内の主要な経済団体の一つ。特に、雇用・労働関係、またインターシップ等を主なテーマとして活動しており、福井労働局との関係も深く、本事業への関心も高かったこともあり、労働局との対応等をはじめとして様々な面での協力を得た。

⑤ 福井県銀行協会【金】

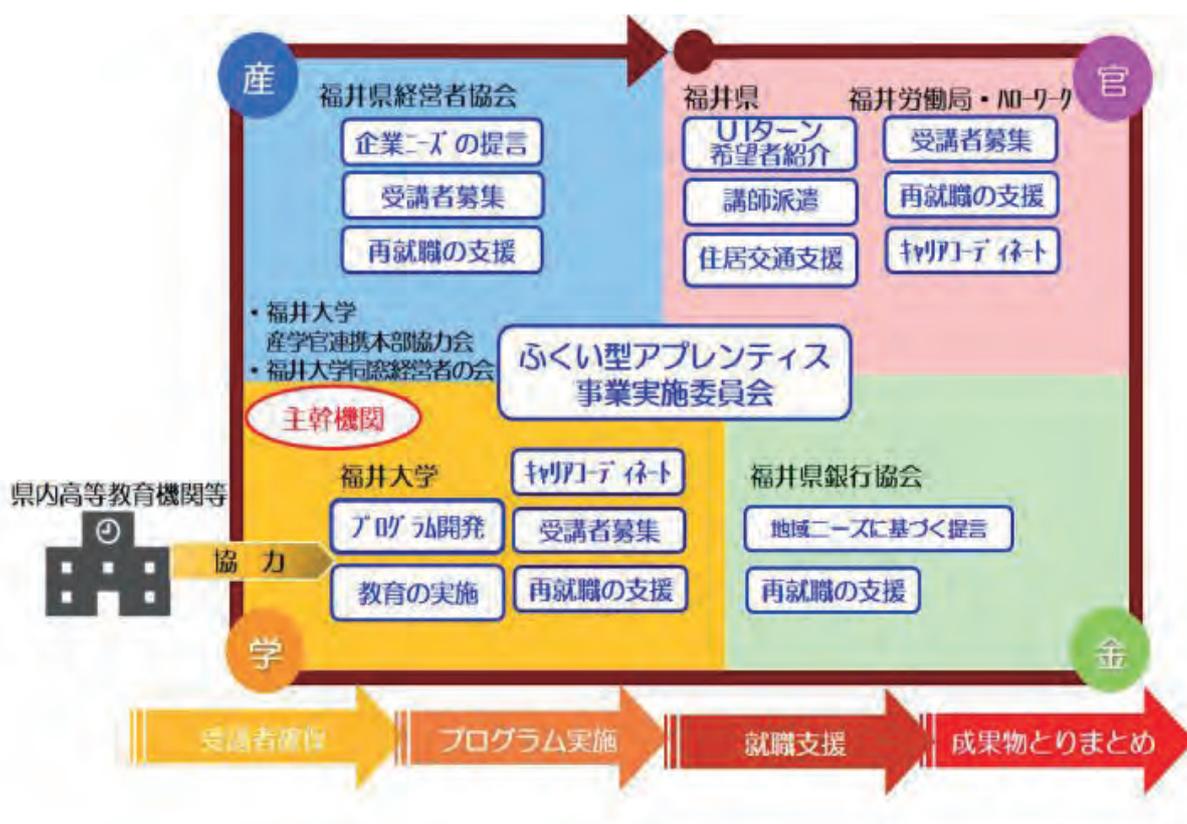
地元の金融機関で組織されている団体で、地元経済の動向、個別企業の情報に密接に関わっており、その中心である福井銀行には、地域のニーズに基づく

提言、インターンシップ先や再就職先の紹介について大きな協力を得た。

⑥福井大学産学官連携本部協力会、福井大学同窓経営者の会【産】

両組織は、福井大学を支援する企業で構成されており、日頃から学生の就職、技術相談等密接な関係にある。リカレント教育、技術者の途中採用という視点で本事業に非常に注目しており、講師の派遣、インターンシップ先、再就職先の紹介について協力を得た。

資料 2-1 : 実施体制



(3) 地方自治体が当該事業と連携して行った受講者及び福井大学への支援・協力

福井県は全庁体制で、市町や関係団体と連携しながら、福井大学が行う事業の円滑な実施とその受講者への支援を行った。

○産業労働部労働政策課

産業界との連携、労働局・ハローワークとの連携、受講者募集等の支援

○交流文化部定住交流課

U I ターンや移住を希望する受講者への移動交通費や住居支援

○総務部大学私学課

地域内大学間連携などの円滑な推進支援

(具体的な支援策)

①事業の効果的・円滑な計画や運営に対する支援

- 県内産業界の動向や人材ニーズに対する情報の提供、共有及び事業計画、運営等に対する助言
- 地域の大学間協力による効果的なりカレント教育プログラム実施のための円滑な連携を支援
- ②受講者募集に対する支援
 - 県内商工関連団体、労働局・ハローワーク、移住関係事業の登録者等への事業周知案内
 - 市町の関連部署との連携による事業周知案内
 - 県の県外事務所（東京、大阪、京都）等や密接な連携体制を築いてきた各地域の県出身経済人等で構成する県人会、全国に設置する福井Uターンセンターの各オフィス（東京・名古屋・京都・大阪・福井）におけるU I ターン希望者を含めた積極的な事業P R活動
 - 県の就職活動サイト（291JOBS）や移住サイト（ふくい移住ナビ）への掲載や登録者へのメール配信 など
- ③受講者の移動経費に対する支援
 - 移住を前提とした就職活動のための移動交通費に対する補助制度の活用（東京からの場合 14,000 円/1 往復）
- ④受講者の住居確保に対する支援
 - 市町との連携によるUターンセンター移住相談員による相談実施
 - 受講者の要望を受け、県職員住宅の貸し出し（近隣の県職員住宅（貸付料約 1～2 万円台後半））を受講者の住居用として活用することを検討

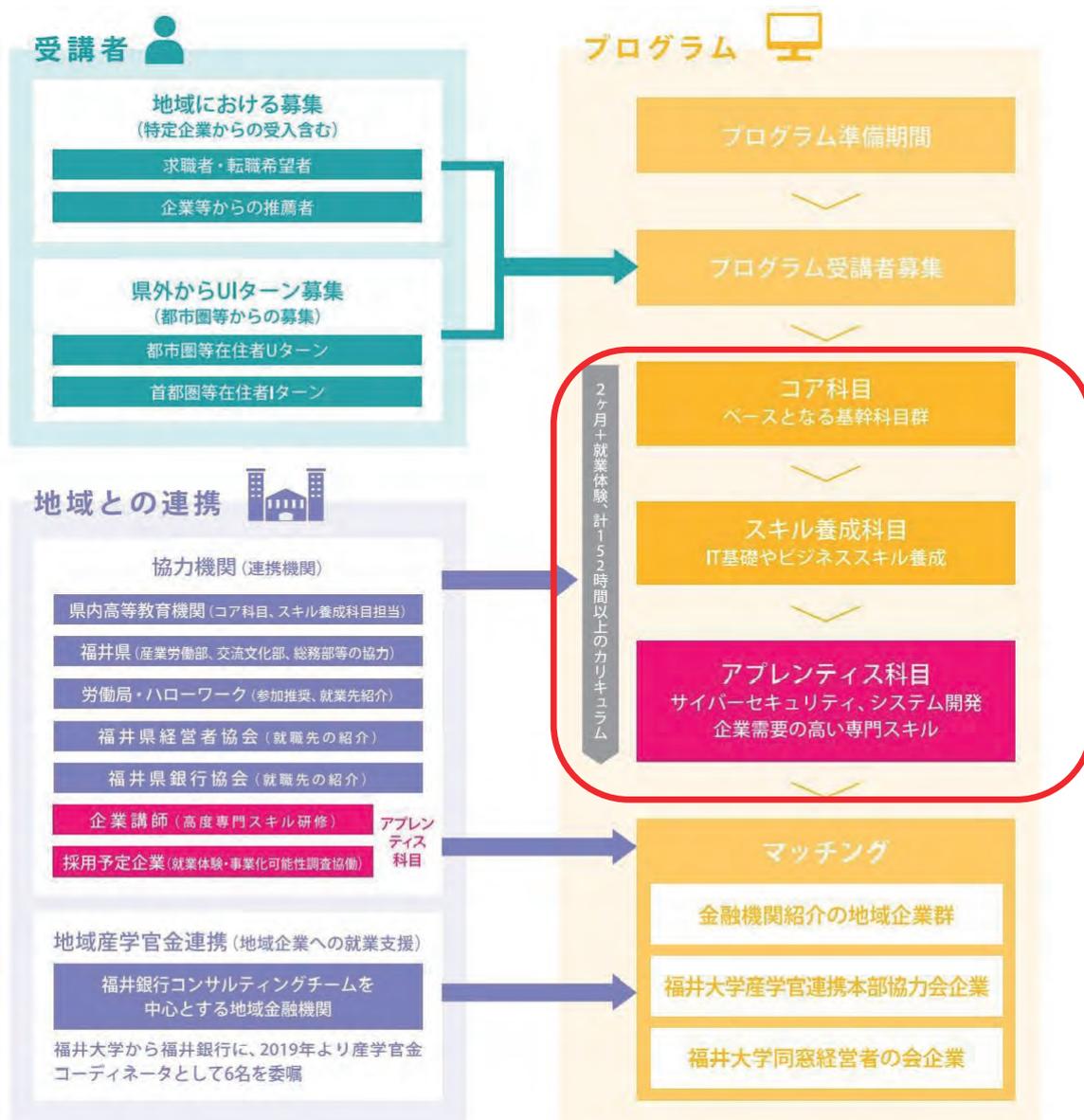
（４）成果検証の実施方法について

- プログラムの科目担当者として実務家教員、企業派遣による講師を多数配置し、実務に即した教育を行いつつ受講者の反応を随時検証し（ヒヤリング、中間アンケート等）、内容の修正に柔軟に対応した。
- 受講者数は31名であり、5～6名の少人数クラス分けによるメンター制度で、きめ細かく、受講者に寄り添ったキャリアコンサルティングや支援・検証を行うと同時に、成果を確認することができた。
- 上記の恒常的な検証結果を、事業実施委員会に報告し、議論を重ね、方向性の修正、継続した協力・支援の確保に努めた。
- 受講者や就業先企業に対するアンケートを実施し、結果の検証を行った。
- これらの一連のプロセスを総合的に検証して成果物として取りまとめ、今後活かすこととした。

3. プログラムの内容

(1) プログラムの趣旨・概要

本事業では、令和3年10月、11月の2カ月間を、就業活動前の教育期間として、選択科目を含め1人当たり152時間の教育プログラムを実施した。



本教育プログラムでは米国のアプレンティス (Apprentice) 制度に倣い、次のような方針でカリキュラムを設計した。

※アプレンティス (Apprentice) 制度

「人々に仕事を与えたい。労働者の力で国を再建」をスローガンに米国トランプ政権が取り組んだ高度技術習得制度。過去の学歴等に関係なく、技術を一から学び、“Find Something New” を掲げ、新しいキャリア、新しい仕事を見つけることを受講者の目標とした。

(2) 輩出する人物像

30名の募集人員のうち、15名をサイバーセキュリティコースとして、もう15名をシステム開発コースとして、それぞれ次のような人物像を目標とした。



(3) 設置科目一覧

コア科目は全受講者が必修とし、スキル養成科目では必修 32 時間に加え受講者が磨きたいスキルを 7 科目の中から 4 科目 32 時間を選択できる形にした。アプレンティス科目では自身の就業を見据え、サイバーセキュリティコースとシステム開発コースのいずれか 32 時間と、企業インターンシップまたは事業化可能性調査のいずれか 24 時間を選択できる形にした。

		科 目	講義時間	講義形態	担当教員・実務家
コア科目	必 修	キャリア概論	8	対面	福井大学地域創生推進本部 末・竹本・川上 他
	必 修	地域産業論	8	対面	福井大学、福井県(地域戦略部) 峠岡 伸行 他
	必 修	データサイエンス基礎	8	対面	福井大学工学部 長谷川 達人
	必 修	リサーチ&プレゼンテーション	8	遠隔	ジャートム株式会社 光成 章
スキル養成科目	必 修	データリテラシー	8	対面	福井大学国際地域学部 井上 博行
	必 修	ビジネスマナー	8	対面	一般社団法人オルタナイト 松木 海穂
	必 修	サイバーセキュリティ基礎Ⅰ・Ⅱ	16	対面	NPO法人エル・コミュニティ
	選 択	プログラミング応用	8	対面	福井工業高等専門学校 斉藤 徹
	選 択	プログラミング基礎	8	対面	福井工業高等専門学校 青山 義弘
	選 択	簿記	8	対面	福井工業大学環境情報学部 田中 真由美
	選 択	知的財産	8	対面	赤松特許事務所 赤松 善弘
	選 択	国際コミュニケーション論	8	対面	福井大学国際地域学部 King Kelly
	選 択	English Communication	8	対面	福井大学国際地域学部 Hennessy Christopher
	選 択	サイバーセキュリティ理論	8	対面	福井工業大学環境情報学部 北上 真二
アプレンティス科目	選択必修	サイバーセキュリティⅠ～Ⅳ	32	対面	富士通Japan株式会社
	選択必修	システム開発Ⅰ～Ⅳ	32	対面	株式会社アフレル
	選択必修	企業インターンシップ	24	対面・実地	福井大学地域創生推進本部 末・竹本・川上 他
	選択必修	事業化可能性調査	24	対面・実地	福井大学・東亜大学 竹本・川上・平松

(4) 授業時間割表

(10月)

10月				
		必修：24時間	選択必修：24時間	選択科目：16時間(2科目)以上必要
1～4週目				
	金 [1週目：10/1 2週目：10/8 3週目：10/15 4週目：10/22]	土 [1週目：10/2 2週目：10/9 3週目：10/16 4週目：10/23]		日 [1週目：10/3 2週目：10/10 3週目：10/17 4週目：10/24]
		第1教室	第2教室	
9:50 - 10:50		サイバーセキュリティ基礎 (クラスB:15名)	ビジネスマナー (クラスA:10名)	サイバーセキュリティ基礎 (クラスB:15名)
11:00 - 12:00				
昼休憩				
12:40 - 13:40	サイバーセキュリティ基礎 (クラスA:15名)	サイバーセキュリティ基礎 (クラスA:15名)	ビジネスマナー (クラスB:10名)	簿記 (選択)
13:50 - 14:50				
15:00 - 16:00	ビジネスマナー (クラスC:10名)	データリテラシー (30名)		データサイエンス基礎 (30名)
16:10 - 17:10				
17:20 - 18:20	プログラミング基礎 (選択)	サイバーセキュリティ理論 (選択)		English Communication (選択)
18:30 - 19:30			2科目以上を選択	
19:40 - 20:40	地域産業論 (30名)			
20:50 - 21:50	キャリア概論 (A～E:各6名)			
5週目～				
月～金		月～日		
企業インターンシップ(15名)		選択必修	事業化可能性調査(15名)	

(11月)

11月							
		■ 必修:48時間		■ 選択必修:24時間		■ 選択科目:16時間(2科目)以上推奨	
1~4週目							
	金 [1週目:11/5 2週目:11/12 3週目:11/19 4週目:11/26]	土 [1週目:11/6 2週目:11/13 3週目:11/20 4週目:11/27]		日 [1週目:11/7 2週目:11/14 3週目:11/21 4週目:11/28]			
		第1教室	第2教室	第1教室	第2教室		
9:50 - 10:50		サイバーセキュリティ (15名)	システム開発 (15名)	サイバーセキュリティ (15名)	システム開発 (15名)		
11:00 - 12:00							
昼休憩							
12:40 - 13:40							
13:50 - 14:50		選択必修		選択必修			
15:00 - 16:00		リサーチ&プレゼンテーション (30名)		プログラミング応用 (選択)			
16:10 - 17:10							
17:20 - 18:20		知的財産 (選択)		国際コミュニケーション論 (選択)			
18:30 - 19:30		2科目以上を選択					
19:40 - 20:40	地域産業論 (30名)						
20:50 - 21:50	キャリア概論 (A~E:各6名)						
~11月末							
月~金							
企業インターンシップ (15名)		選択必修		事業化可能性調査 (15名)			

(5) 各科目の紹介

各科目紹介 コア科目

キャリア開発(個人数ターンリング体験)や地域産業部により、各地域の産業の知識を得るとともに、データサイエンス基礎にて視察研修、リサーチ&プレゼンテーションにてビジネスに関するプレゼン能力を養成。

キャリア概論

担当/米 悠一朗・竹本 宏治・川上 祥代・船木 一輝・舟木 幸雄

キラリと光る強みを持って、あなたのキャリアをより戦略的に！



プログラム全体では、「ビジネスの各場面」に必要なスキルとその土台となる知識から、「サイバーセキュリティ」または「システム開発」の専門性まで身につける内容になっています。しかしそれらを得たとしても、活かす場面がなければ、宝の持ち腐れになってしまうかもしれません。一方で専門性を身につけたとしても、学校時代の学びが仕事に直結していないと感じることがあるように、そのまま活かすことができる業種や職種は多くないかもしれません。しかし、どのような仕事に就くによらず、日々の業務をこなす中で、これらの知識が役に立つ場面も出てくる可能性があります。

この科目では、「キャリアの考え方」や「キャリアのデザイン」の学びを通じ、受講者みなさんが受講後にも自身のキャリアを主体的に構築できることを目指します。

地域産業論

担当/科岡 伸行・福井県(地域戦略課) 他

幸福度日本一を支えるのは産業の力！成長する福井の企業を知ろう！



福井県は「幸福度日本一」(日本総合研究所調査)とランキングされていますが、それを支えているのが「産業の力」です。福井県内には、日本のトップクラスの技術力を持ち、自動車や電子機器、航空宇宙産業などの先端産業を支える企業が多くありますが、そのほとんどが皆さんの普段の生活の中では出会わない企業です。このような成長する企業の実際の姿を知り、また今後の更なる成長に向けて必要とされる人材について知ることで、皆さんが将来、成長する企業の中で活躍する姿をイメージすることができそうです。

また、授業の中では、福井県の産業ビジョンにも触れていきますので、皆さん自身の将来の生活の姿も想像していきましょう。

データサイエンス基礎

担当/長谷川 達人

データから真実を見抜くための力。



現在、企業や国などの様々なシーンでデータの重要性が叫ばれています。本講義では「データから真実を見抜くための力」を身につけるために、データの加工手法、集計手法、可視化手法、そして機械学習を用いた分析手法に関する説明をします。機械学習は人工知能(AI)技術の一種です。例えば、写真を入力して与えられたタグを自動で認識する技術や、ウェブのログ情報から顧客を自動でグループ分けする技術などがあります。受講後には、東社会にあるデータに対して、どのように集約することで、どのような課題改善が行えるのかといった、問題定義とその分析の一助が行えるようになります。

リサーチ&プレゼンテーション

担当/光成 尊

データに傾かせ、説明で唖らせる。あなたの事業を「説得力」で切り開く！



どんな事業も、お客様がなければ成り立ちません。相手に強いの消費者である企業であれば、その方たちに提供する製品やサービスを購入してもらうには①できるだけ優れたものを売る②それが選ばれること(お客様(になりそな)に伝わる)③認知度を上げて相手に選ばれる④気持ちよく納得(安心してもらう)⑤ここが買わない必要です。そのため、製品やサービスを企画する段階でお客様の要望を収集(リサーチ)し、それに沿ったものを考えることも必要です。また、新たなお客様を獲得するには、様々な材料を用意し、それをわかりやすく伝えること(プレゼンテーション)が大切です。その際も、相手の状況等に応じて的確な質問(リサーチ)ができていれば、より効果的な説明を行うことができます。リサーチとプレゼンテーションは、あなたの説明力の向上に大きく関係します。これらの力を磨きかけ、影に自信をつけていきましょう。

各科目紹介 スキル養成科目

サイバーセキュリティ基礎、データリテラシーにて全受講者が各自のレベルを高めることにもつなげたい。プログラミング基礎(個人数人参加)ではスキルを養成し、起業実践、集計、ビジネススマナー(個人数人参加)にて各自のスキルを伸ばすことを目指す。

サイバーセキュリティ基礎

担当/特選非営利活動法人エルコムユニティ

あなたのパソコン・スマホは、こうやって狙われている！ サイバー攻撃からの身の守り方。



その写真、SNSに投稿しても大丈夫ですか？普段利用するパソコン・スマートフォンの約7割は脆弱に陥れている。サイバーセキュリティのチェックポイントを、ゲーム形式で確認しましょう。Windowsをつかって、ホームページを見ながら、CTFというゲームを行います。問題を多く解いて、高得点をゲット。攻撃者の視点を見ながら学ぶことで、自分や家族がインターネットを利用する時に気をつけるポイントを身につけることができます。

ビジネススマナー

担当/松本 海輝

また会いたい人になる。



知っているようで知らない、今さら人に聞けないのがビジネススマナー。ビジネススマナーを身につけていなければ、職場、取引先などに不愉快な感情を抱かせることがあります。また、ビジネス上、コミュニケーションが円滑に行われたいは重大な課題にも繋がります。相手に不愉快な思いをさせない、迷惑をかけないための基本ルールを理解した上で、すぐに役立つ実践可能な応用編は、冠婚葬祭、接待マナーなど多岐におよび、必要不可欠な対人関係におけるスキルは強い能力となり「また会いたい人」「選ばれる人」になります。知性、感性を併せもった表現力と存在感、人間力をも高めたいことを目指します。

データリテラシー

担当/井上 伸行

データを正しく扱い、情報の宝を見つけよう。



ネット社会になり、様々なデータを容易に利用できるようになってきています。それらのデータから様々な情報を取り、ビジネスに利用したり政策立案に役立てたりすることが今後ますます重要になってきます。一方で、個人情報などの問題が発生しており、データを扱う上での危険性を理解した上で、正しい取扱いを身に付ける必要があります。本講義では収集したデータを適切に処理し、それらから様々な読み取る能力を身につけることを目指します。また、それらを安全に利用する方法についても触れます。具体的には、個人情報などを中心にデータの適切な扱い方、オープンデータなどの収集や可視化方法、情報の読み取り方などを学びます。

プログラミング基礎

担当/香山 義弘

AIにこき使われないために、プログラムとは何かを知らう。



最初にごめんさい、AIはやりません。最近、巷を騒がすAI(人工知能)しかし、所詮はプログラムです。では、プログラムっていったい何でしょうか？この科目ではコンピュータの成り立ちから、プログラミングの基礎を学びます。Scratchをはじめ、JavaScriptやPythonなどのプログラミング言語やHTMLといったホームページを作成する言語の紹介をし、簡単なプログラムを作成します。

各科目紹介 スキル養成科目

プログラミング応用

担当/高橋 謙

Webページでプログラミング体験。



最近のWebでは、様々な技術を組み合わせでサービスが組み合わさって動いています。そこで、ブラウザで動くJavaScriptやサーバで動くPHPのプログラミングの基本を体験しながら、仕組みを理解し簡単なプログラムを作ってみましょう。

簿記

担当/田中 真由美

備かっているってどういこと? 経理担当者の業務の一部を学んでみましょう!



会社は、日々(他社から)商品を輸入し、輸入した商品を販売するという業務を反復して行っています。これを商品売買取引と言います。商品売買取引を行う理由は「儲ける」ためです。一言に「儲け」と言われる言葉を簿記では「利益」を意味すると言います。会社は利益をどのように計算しているのでしょうか? そのメカニズムを個人や家庭のケースと対比させながら分かりやすく説明していきます。

また、業務の成果は損益計算書や貸借対照表といった表形式で示されます。実在する企業の事例を使って上記の表の意味やその見方をお教えいたします。

知的財産

担当/赤松 彰

活かそう知的財産 ー企業の武器ー



企業人にとって知的財産は、必須の知識です。この知的財産という言葉を知っているが、その中身がよくわからないという方にとって知的財産を理解する絶好のチャンスです。この科目では、知的財産の意味内容はもとより、新製品の開発から特許権などの知的財産種の取得に至るまでのプロセスのなかで知的財産に関し、重要なポイントとなる事項を重点的に説明いたします。また、講義中に疑問、質疑応答の時間を設けられているので、知的財産について不明点、疑問点などをその場で解決することができます。知的財産を扱っている方は資格の場として、知的財産をあまり知らない方は知的財産に関する知識を取得する場として講義を活用し、講義で習得した知識が企業活動で役立つことを祈念いたします。

国際コミュニケーション論

担当/ King Kelly

異文化間コミュニケーションを身近に、より良いコミュニケーションを図りましょう!



異文化コミュニケーションについて聞いたことがあると思いますが、異文化コミュニケーションって何?という疑問の他にもコミュニケーションや海外旅行に必要なスキルは?では?ありません。でも、ますます多様化する職場の場でより効果的にコミュニケーションをとるためには、このスキルが必要で、この科目では、チャットやコミュニケーション活動への参加を通じてアクティブラーニングを実施します。アメリカ人のエリクソン・メイヤーの本「異文化理解力」を読み、個々のコミュニケーションスタイルを理解し、コミュニケーションの壁を打ち、アクティブラーニングとコミュニケーションの演習を併進させ、30年以上日本に住んでいるアメリカ人として、私自身も日本語でより効果的にコミュニケーションする方法を学びたいと思います。異文化間コミュニケーションについて何が新しいことを学ぶために私と一緒に勉強しませんか?

各科目紹介 スキル養成科目

各科目紹介 アプレンティス科目

サイバーセキュリティの知識と実践で企業活動を支えよう! 近年、サイバー攻撃やランサムウェアなどの様々なセキュリティ脅威が健全な企業活動を妨げるようになってきており、多くの企業では、セキュリティ意識から企業を守るサイバーセキュリティ管理者となる人材を求めています。この科目では、実践的なサイバーセキュリティ管理者になることを目指して、サイバーセキュリティの基本的な考え方、暗号や認証などのセキュリティ技術、個人と組織におけるセキュリティ対策およびセキュリティ関連の法律などについて学びます。また、最先端のIoTやクラウドコンピューティングにおけるセキュリティだけでなく、セキュリティ技術を活用して安全な取引を行うブロックチェーンについても学びを深めます。

English Communication

担当/Hennessy Christopher

英語で広がるビジネスと世界。



英語は、グローバル化が進んだビジネス現場で使われている言語です。慶應にいうと、共通言語としての英語(ELF)は、国と文化の違いを越え、20億人もの人々、しかもその多くは英語母語話者ではない人々が、ビジネス活動を行うための言語として、確立されてきています。このコースでは、世界言語としての英語に重点を置き、このグローバル化時代において効果的にコミュニケーションができる人材育成を目指します。英語のスピーキングとライティング両方の基本的なコミュニケーション能力を伸ばすことを目的とし、CEFR(Common European Framework of References for Languages)におけるA2レベルに上げ、学生が「基礎段階の言語」が習得できることを目標とします。

サイバーセキュリティ理論

担当/宮上 義二

サイバーセキュリティの知識と実践で企業活動を支えよう!



近年、サイバー攻撃やランサムウェアなどの様々なセキュリティ脅威が健全な企業活動を妨げるようになってきており、多くの企業では、セキュリティ意識から企業を守るサイバーセキュリティ管理者となる人材を求めています。この科目では、実践的なサイバーセキュリティ管理者になることを目指して、サイバーセキュリティの基本的な考え方、暗号や認証などのセキュリティ技術、個人と組織におけるセキュリティ対策およびセキュリティ関連の法律などについて学びます。また、最先端のIoTやクラウドコンピューティングにおけるセキュリティだけでなく、セキュリティ技術を活用して安全な取引を行うブロックチェーンについても学びを深めます。

企業インターンシップ

担当/森 慎一朗・竹本 拓治・川上 祥代・藤木 一誠・舟木 幸雄

企業の雰囲気を経験してみよう! 想定外の発見があるかも?



「最初は苦手」だと思っていたけど、そんな奴が「今の親友」などという話は時折耳にしませんか? 人間関係は第一印象が大きく左右すると言いますが、話してみると印象が変わることあるかも卒業のようです。企業と働く人の関係も同じかもしれません。知らないから「自分に合わない」と思い込んでいるのかも。みなさんには、ぜひ積極的に、これまで関わってこなかった企業に属する企業にも興味を示していただきたいと思います。もちろん「第一印象で決めてました!」という企業があれば、そこを体験してみてもいいですね!

事業化可能性調査

担当/竹本 拓治・川上 祥代・平松 隆平

あなたは新規事業担当者! 新部署を成功させるには?



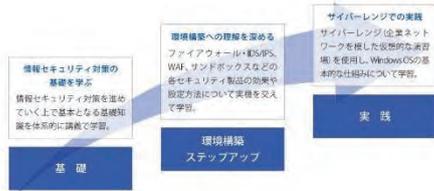
日々の業務はそこそこ精通、しかしあなたが所属する会社では今の主力事業に先陣の可能性がある。そんなある日、あなたは企業の新規事業プロジェクトのメンバーに後援されました。この科目では「5年後に自社事業の一部門としての存在を出す」ことを目標として、福井県下の市場調査、新規事業計画作成を行います。福井県の1企業を想定し、実質はその企業の開発から新規事業をプレインテグレーションします。想定企業にはヒアリングを行い、調査はペルソナ(架空で想定する具体的なユーザー像)の設定、オープンデータ分析やアンケート調査を駆使して、市場の可能性を探ります。事業計画書での工程、事業開始後の中期計画(ロードマップと呼ばれる予定)を作成し、授業で協議とブラッシュアップを重ね、ビジネスの成功確率を高めていきます。

各科目紹介 アプレntィス科目

サイバーセキュリティ1～IV

担当/富士通Japan株式会社

企業の情報を守るエキスパートになる。



Step1: 基礎から学ぶセキュア環境構築・運用入門

情報セキュリティ上のリスクは、企業や組織、団体に大きな被害や影響をもたらすため、適切な予防と事後対応が事業活動の中で必要不可欠となっています。本研修では、情報セキュリティ対策を進めていく上で基本となる、アクセス制御技術、認証技術、暗号利用技術、ウイルス対策技術などの基礎知識を体系的に講義で学習します。また、それらの各実技術を応用したセキュアな環境を構築・運用するための留意点をシミュレーター実習およびグループ演習を交えながら学習します。

目 標
<ul style="list-style-type: none"> 企業や組織、団体に与える情報セキュリティの必要性と、リスクに応じた対策の考え方を理解する。 情報セキュリティを確保するための主な対策技術について特徴を理解する。 セキュア環境を構築・運用するための流れと留意点を理解する。

Step2: さわって学ぶセキュア環境構築ステップアップ

セキュリティ製品は数多くの種類があり、どの製品がどのような効果を実現するのかが異なる場合があります。また、自由に構築されたセキュリティの環境を歩き当たりばりたりに変更するわけにはいき、「なぜこの製品を導入したのだろう」「なぜこの設定になっているのだろう」と疑問に思っても解決する術がない場合が多いです。そこで本コースでは、実際に構築された環境にのりこむことで、ファイアウォール・IDS/IPS、WAF、サンドボックスなどの各セキュリティ製品がどのような効果を実現するのか、各セキュリティ製品の設定を変更することによる効果を実験することで、自社のセキュア環境構築・運用に役立てることができま。

目 標
<ul style="list-style-type: none"> ファイアウォールの効果とその設定を理解する。 IDS/IPSの効果とその設定を理解する。 WAF (Web Application Firewall) の効果とその設定を理解する。 サンドボックスの効果を理解する。

Step3: サイバーレンジで学ぶ! セキュリティ担当者なら知っておきたいWindows OS基礎

セキュリティ担当者としてインシデント対応をしていくためには、サイバー攻撃で悪用されやすい弱点や脆弱性がある場所をあらかじめ理解しておくことが必要です。本コースでは、サイバーレンジ(企業ネットワークを模した仮想的な演習場)を使用し、セキュリティ担当者なら知っておきたいWindows OSの基本的な仕組みについて講義と実習で学習します。

目 標
<ul style="list-style-type: none"> サイバー攻撃の環境について把握する。 サイバー攻撃で狙われるWindows OSの仕組み(プロセスが動作する仕組み、ファイル共有の仕組み、認証の仕組み)について理解できる。 攻撃者の狙った脆弱性確認につながるWindows OSの仕組み(レジストリの仕組み、ファイルシステムの仕組み)について理解できる。 Windows環境のセキュリティを強化する主な運用機能(グループポリシー、監査ログ)について把握する。

各科目紹介 アプレntィス科目

システム開発1～IV

担当/株式会社アフレ

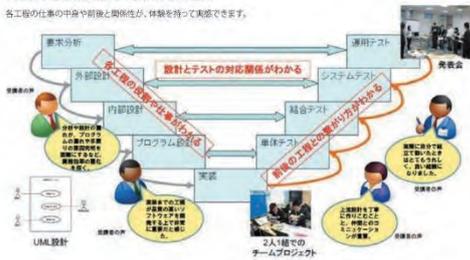
システム開発における「全体を俯瞰する目」を養い、品質意識を高く持てる人材に。



ポイント
<ol style="list-style-type: none"> 各工程の役割や仕事が終わる。 前後の工程の繋がりがわかる。 例) 外部設計の担当者は、次工程である内部設計担当者がインプットとして欲しいモノを、アウトプットできる。 V字の設計部分と、テスト部分との対応関係がわかる。 例) テスト工程ではほぼ自動の「テスト項目表」を渡された場合、自身が完結した設計ドキュメントから必要なテスト項目を抽出してテストを実施できる。

開発プロセスの全工程を5日間で体験する。

ソフトウェアによる開発の流れを一週間で体験することにより、各工程の仕事の仕方や前後と関係性が、体験を持って実感できます。



ビジュアル化して、楽しみながら開発を理解する。

システム開発を俯瞰するための一つの例として、「ロボットを使って実作業を自動化するシステム開発を二人一組のチームで疑似体験します。モノを作り上げる喜びや達成感を得ることができ、また、ロボットを使い体験することでの自信と深い学びが得られます。

実習・自動搬送システム開発

開発の流れ

要件分析

外部設計

内部設計

プログラム設計

実装

結合テスト

システムテスト

運用テスト

発表会

要件分析の目的は、顧客の要望を明確にし、開発の方向性を定めることである。

外部設計の目的は、顧客との間で要件を明確にし、開発の方向性を定めることである。

内部設計の目的は、システム全体の構造を設計することである。

プログラム設計の目的は、各モジュールの設計を行うことである。

実装の目的は、設計に基づいてプログラムを実装することである。

結合テストの目的は、各モジュール間の連携を確認することである。

システムテストの目的は、システム全体の動作を確認することである。

運用テストの目的は、システムが実際の環境で動作することを確認することである。

発表会の目的は、開発したシステムを顧客に発表することである。

①企業インターンシップ

○講義内容・時間等

就業体験として、アプレンティス科目の選択必修科目に位置付け、10月第5週以降11月末までの平日を利用して24時間以上（概ね3日間）実施・受講した。

○受入企業の募集

福井大学産学官連携本部協力会会員企業を始め関係団体の企業に、受講ガイド等を添えて依頼した結果、25社から受入の承諾を得た。

資料3-1：受入依頼文書（一般社団法人福井県情報システム工業会会員企業宛）

令和3年8月17日

一般社団法人 福井県情報システム工業会会員企業 様

国立大学法人福井大学理事（研究、産学・社会連携担当）／副学長

末 信一郎

文部科学省委託事業「就職・転職支援のための大学リカレント教育推進事業」

におけるインターンシップ受入れに関するご協力をお願い

平素は、福井大学の教育研究活動について格別のご理解とご協力を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

さて、本学は、本年度、文部科学省の採択を受け、標記事業に係るプログラムを実施することといたしました。当事業・プログラムは、新型コロナウイルス感染症の影響により、リモートワーク等の企業内の働き方など雇用構造の転換が進展する中、特に高度IT技術を習得した人材の確保が地域産業界から強く求められていることを受け、実施するものです。データサイエンスやビジネススキルをベースとし、サイバーセキュリティやシステム開発といった高度スキルまでを段階的・体系的に習得するカリキュラムを通じ、地域産学官金が連携協力して、UIターン希望者を含む失業者、非正規雇用労働者、転職希望者等の地域への定着を図り、地域共創に寄与することを目的としています。

プログラムは、募集定員は30名、実施時期は10～11月の2か月、授業の内容はコア科目、スキル養成科目、アプレンティス科目（サイバーセキュリティコースまたはシステム開発コース）のほか、就業体験等24時間以上（地域企業へのインターンシップまたは企業視察、実証型の事業化可能性調査）、合計152時間以上です。（事業・プログラムの詳細は、「福井大学 私の職業再構築支援プログラム受講ガイド」をご参照願います。）

会員企業の皆様におかれましては、上記プログラムのうち「インターンシップ（24時間以上）」の受入れについてご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

なお、インターンシップおよび受講後の就業については、ITスキルが企業内のどのような部署においても必要であると考えられることから、情報関連部署への配属にこだわるものではなく、製造部門、企画部門、事務部門など、幅広くお考えいただき受け入れていただければ幸いです。

つきましては、お忙しいところ誠に恐縮ですが、別添「文部科学省委託事業に係るインターンシップ受入れアンケート」にて、受入れの可否、条件等をご回答いただきたくお願い申し上げます。

記

1. 受講者

受講者（受講申込期間は8月17日（火）～9月6日（月）正午、定員は30名ですが、申込者数が定員に満たない場合も想定されます。）は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大等に伴い就業に影響を受けた失業者・非正規雇用労働者のほか、希望する就職ができていない若者、転職希望者等（UI ターン希望者を含み、就職活動中の正規学生を除きます。）が対象となります。

実際のインターンシップ受入れに当たっては、受入れ会員企業様と受講者とのマッチングの機会を設け、十分な話し合いを行っていただいた上で、可否を判断していただく予定です。

なお、インターンシップの受入れ後、双方の合意により社員雇用（正社員・契約社員）に至ることが望ましいですが、採用義務はございません。

2. 受入れ期間

10月25日（月）から11月末まで（月曜日～金曜日）の間に24時間以上の受入れをお願いいたします。ただし、当期間中の受入れが困難な場合は、12月初～中旬の受入れでもかまいません。

3. 給与支給の有無

不支給

4. 交通費

受講者の自己負担

5. 保険料

受講者の自己負担

6. ご回答期限

8月31日（火）までに別添アンケートをメールでご返送ください。

7. お問合せ・ご返送先

福井大学地域連携推進課 担当 坂井

電 話：0776-27-9760

メール：rcp@ad.u-fukui.ac.jp

文部科学省委託事業に係るインターンシップ受入れアンケート

- ・ 選択欄の□は該当する箇所にチェック印をお付けください。
- ・ ご回答は、令和3年8月31日（火）までにメールにてお願いいたします。
- ・ 送付先：福井大学地域連携推進課 担当：坂井 TEL：0776-27-9760 e-mail:rcp@ad.u-fukui.ac.jp

1. 貴社名			
2. 所在地	〒		
3. インターンシップ受入の有無	<input type="checkbox"/> 有（“有”の場合、以下の事項にお答えください） <input type="checkbox"/> 無（無しの場合、アンケートは以上で終了です。ありがとうございました。）		
4. 研修期間（受入可能期間）	【10/25～11/30（月～金）の期間内（困難な場合は、12月初～中旬でもかまいません）で24時間以上の受入れをお願いいたします】		
5. ご担当部署・ご担当者名	TEL		
	e-mail		
6. 研修予定場所			
	TEL		
7. 業種（主な製品等）			
8. 研修内容			
9. 研修時間帯（貴社就業規則に準拠）	<土日祝日の就業 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 >		
10. 日本語が理解できる外国人受入の有無	<input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可		
11. 受入可能人数	名		
12. 配属予定部門	<input type="checkbox"/> 製造	<input type="checkbox"/> 設計	<input type="checkbox"/> 情報処理
	<input type="checkbox"/> 企画	<input type="checkbox"/> 研究開発	<input type="checkbox"/> 事務
	<input type="checkbox"/> その他（ ）		<input type="checkbox"/> 未定
13. 利用可能な宿泊施設	男子用： <input type="checkbox"/> 有（ ） <input type="checkbox"/> 無		
	女子用： <input type="checkbox"/> 有（ ） <input type="checkbox"/> 無		
14. 作業服・靴の貸与の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無（特に不要）		
15. 応募締め切り			
16. その他（特記事項等）			

資料 3-2 : 企業インターンシップ受入承諾企業 (全 25 社)

(五十音順)

企 業 名	住 所	受入予定部署
株式会社アイジーイー	越前市矢放町	
井上商事株式会社	福井市日之出	開発
非公表 (販売代理業、MVNO 事業、EC/メディア事業)	福井市梅野町	(未定)
清川メッキ工業株式会社	福井市和田中	製造、技術
グラス IT フィールズ株式会社	吉田郡永平寺町けやき台	設計、研究開発
株式会社 crew-design	坂井市丸岡町北横地	
コマツサービスエース株式会社	福井市主計中町	情報処理
酒井化学工業株式会社	鯖江市川去町	(未定)
株式会社 SHINDO	あわら市伊井	製造、研究開発
セーレン株式会社	福井市毛矢	情報処理
大電産業株式会社	福井市春山	設計、事務、営業
テックワン株式会社	石川県能美市浜町	製造、設計、情報処理、その他
株式会社ネスティ	福井市羽水	情報処理
株式会社福井銀行	福井市順化	システム部門
株式会社福井新聞社	福井市大和田	情報処理、事務、その他
株式会社福井新聞 PR センター	福井市大和田	
福井ネット株式会社	福井市春日町	情報処理
株式会社ビジュアルソフト	福井市八重巻町	(未定)
株式会社ホクシン	福井市経田	製造、設計
株式会社ほくつう福井支社	福井市間屋町	設計、情報処理、技術部
前田工織株式会社	坂井市春江町沖布目	情報処理
松原産業株式会社	越前市矢放	製造、設計、企画、事務
三谷コンピュータ株式会社	坂井市丸岡町熊堂	情報処理
山田技研株式会社	福井市花堂南	製造、設計、情報処理、研究開発
ユニコシステム株式会社	福井市和田東	製造、設計、企画

○受講者に対する企業インターンシップ受入先希望アンケートの実施

受講者と受入企業とのマッチングを円滑に進めるための参考材料とするため、9月19日(日)に受講者に対し、当日現在で受入を承諾している21社の名簿を添付して「企業インターンシップ」受講者に係る意向調査票の回答を求めた。これに対し、現在、正規雇用職員として勤務しており企業側にとって他社の社員の受入に支障があると考えられる等の理由により事業化可能性調査を選択した者9名を除く22名が企業インターンシップを選択し、企業インターンシップの受講を希望する企業名を回答した。

資料3-3:「企業インターンシップ」受講者に係る意向調査票

(表面)

氏名 _____

1. アプレントイス科目の「企業インターンシップ」又は「事業化可能性調査」(どちらか1科目を選択)の受講については、基本的に次のとおりです(ご確認ください)。

(1)「事業化可能性調査」の受講予定者

以下の①～③に該当する方。本科目は10月第5週以降の平日夜、土・日中心に実施します。

①現在職業に就いている方(パートタイム雇用を除く)

企業側にとって他社の社員のインターンシップ受入れには支障があると考えられます。また、現時点で他社等への就業の意志が明確ではなく将来的な就業を目指している方については、企業側にとってインターンシップ受入れのメリットが見出せないと考えられます。

現時点で他社等への就業の意志が強い方については、企業インターンシップの受講を妨げるものではありませんが、実施日・時間・可否については、受入れ企業が定めます。

②現在職業に就いていない方のうち、現時点で就業の意志が明確ではない方

企業側にとってインターンシップ受入れのメリットが見出せないと考えられます。

③「企業インターンシップ」の受入れ企業と条件が合わなかった方

(2)「企業インターンシップ」の受講予定者

上記(1)①～③に該当しない方。本科目は企業の勤務形態に合わせ、基本的に平日に行われること、及びインターンシップ受入れは、企業側と受講者との合意の下で可能となりますので、希望する企業での受講が必ずできるものではないことをご承知おきください。

2. 「企業インターンシップ」を受講希望の方は、次の問いに回答ください(ご記入ください)。

(1)裏面の「インターンシップ受入予定企業」の中から、希望する企業名を順番に5つ記入してください(希望する企業がない場合は、下記の(2)に回答ください)。

第一希望 _____ 第二希望 _____

第三希望 _____ 第四希望 _____

第五希望 _____

また、上記5つの企業への受入れが困難な場合に、その他の企業への受入れを希望する方は、希望する企業名を記入してください（複数可）。

- (2) 裏面の「インターンシップ受入予定企業」以外で、ご自身でインターンシップ受入先を見つける予定がある場合は、その企業名を記入してください（複数可。まだ決定していない場合は「未定」と記入）。

(裏面)

**産学官金連携による「ふくい型アプレンティス」プログラム（企業 IT 人材養成）
インターンシップ受入予定企業**

（21社：五十音順）

（省 略）

○受講者と受入企業とのマッチング

「企業インターンシップ」受講者に係る意向調査票の結果や選考面接時に同席した受入承諾企業の担当者の意見（自社への企業インターンシップ受入の可否等）及び受講者の職歴等を参考に、各受講者に最も相応しいと考えられる企業インターンシップ受入企業を割り振り、必要に応じ当該企業と本人との事前面談を経て、受入企業を決定した。なお、マッチングの結果、企業インターンシップ受入企業と条件が合わない等の理由により3名が事業化可能性調査に切り替え、反対に、事業化可能性調査を選択していた1名が受入企業の意向により企業インターンシップに切り替えた。また、当初、事業化可能性調査を希望していたものの、日程の都合により当該授業を受講できなくなったため、自分で企業インターンシップ受入企業を探してきた受講者が1名おり、結果として21名が企業インターンシップを受講することとなった。

○企業インターンシップ実施状況

企業インターンシップは、10月25日（月）を皮切りに順次開始され、12月9日（木）をもって終了した。

受講者に対しては、受入企業への就職も視野に受講に当たっての心構え ①

なぜその企業を希望したのか、②当該企業に雇用された場合、自分のこれまでの経歴がどのように活かせるのか、③現在、プログラムではどのような授業を受講しているのか等を質問された場合の回答を整理しておくこと。)を全員に説明するとともに、受講直前にもメールにより再度指導した。また、職歴の浅い又はない受講者に対しては、事前に本学関係者による模擬面談を行った。

終了後には、受講者に企業インターンシップの内容、感想、受入企業側からの雇用選考への応募案内の有無等を報告させた。

また、企業インターンシップ受入企業には、終了後、次の受入証明書の提出を要請した。

資料3-4：企業インターンシップ受入証明書

1. 受講者氏名		
2. 受入企業名		
3. 所在地（研修場所）		
4. 受入日時・時間・研修内容	日時・時間	研修内容
	月 日 時 ～ 時（時間）	
	合計	時間

上記内容に相違ないことを証明する。

令和 年 月 日

担当部署・職名・氏名

○成果発表会の実施

企業インターンシップは、成果を発表し審査に合格することをもって認定（合格）することとされているため、次のとおり成果発表会を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染状況の急激な悪化により中止した。

なお、授業評価については、提出済の成果報告書を基に各クラス担当教員が行うとともに、担当クラス以外の受講者に係る成果報告書も相互に確認した上で、成果報告書提出者17名全員の認定を行った。

資料3-5：成果発表会の概要

1. 日時

令和4年1月21日（金）
19時20分～20時45分

2. 場所

アカデミーホール集会室（文京キャンパス）

3. 次第

(1) プログラム開発・事業実施責任者挨拶

(2) スケジュール

①発表者

17名（サイバーセキュリティコース7名、システム開発コース10名）

②方法

パワーポイント資料に基づき、受入企業順に一人2分の発表

③順番（受入企業順（五十音順））

（省略）

4. 参加者

- ・プログラム修了者（21名）
- ・事業総括責任者、事業実施委員会委員、プログラム開発・事業実施責任者、キャリア概論クラス担任（4名）
- ・就業先・企業インターンシップ受入先企業の担当者（7名）

資料3-6：「企業インターンシップ」成果報告書例

ソフトウェア開発・運用。全国の地方自治体向けの業務用パッケージシステム、和洋菓子専門店向けPOSシステム、物流倉庫向け在庫管理システム

事業内容

◆架空のWEBショップのデザインをお客様の要望を加味して使いやすいページに修正する 【使用ソフト：EXCEL】

◆高齢者支援サービスシステムをお客様の要望を加味してフォーム、プログラムを変更する 【使用ソフト：ACCESS】

研修内容

◆複数に分かれていた検索画面を1画面で検索できるように、またジャンル別でも検索できるようデザインした。ランキングやおススメなど売上UPにつながるよう画面設計を工夫した。そのままHTMLで表現できるようリアリティにこだわり修正した。

◆ACCESSの設定の変更や、既存のプログラム内の変数の定義を調べ修正した。2つのコンボボックスの選択肢が連動して変更できるようにプログラムを修正したり、注意喚起メッセージボックスがでるようWEB等で調べプログラムを修正した。

得られた成果

◆エンドユーザーにとっての使いやすさ、エンジニア側の後の運用を考慮すると画面数は極力少なくするほうが良い。またアクセシビリティ対応、読み上げ機能についても考慮し、ハンディのある人にも使いやすいシステムにすることが大切である。

気づき

◆新たな開発案件より、既存システムの修正の割合が多いので他の人に読みやすいコードを書くこと、自分の技術不足の点や新たなプログラミング言語を学び仕事の幅を広げていく姿勢がエンジニアには大切である。

②事業化可能性調査

地域の企業を多面的に分析し、その企業における新規事業を市場規模、ペルソナ、実現可能性、中期事業計画までの一連の提案を行うものであり、10名が受講した。受講者は1名または2～3名で提案内容をおよそ1か月で作成する。

資料3-7：提案書例

1 ★★ 対象企業の決定

		製品	
		既存	新規
市場	既存	市場浸透 既存の市場×既存の製品 購買力・購入金額・リピート率を高める(既存製品の改良・改良)	新商品開発 既存の市場×新規の製品 関連製品や関連品・類似品を開発(既存製品に新しい機能を追加)
	新規	新市場開拓 新規の市場×既存の製品 追加市場や顧客層への浸透を行う(新市場向けに既存製品を変更)	多角化 新規の市場×新規の製品 全く異なる市場を開拓する(新規顧客に新しい製品を開発)

多角的展開に関しての必要性と可能性、将来的な成長性、資本余力などを検討する

2 ★ 対象企業の強み、弱み、機会、脅威の洗い出し

SWOT分析で的確な打ち手を!

		内部環境	
		強み-Strength-	弱み-Weakness-
外部環境	機会-Opportunity-	強み×機会	弱み×機会
	脅威-Threat-	強み×脅威	弱み×脅威

技術・商品・サービス・市場などを多面的に考察する

3 ★★★ 対象企業の戦略を知る

1. 企業がその行動(戦略)を決定し、実行し、評価するプロセスを扱う学問
- 市場、競合他社、環境変化、自社財務、インベーションなどの策定・実行・評価の繰り返し
2. 多岐にわたる学際性のある領域
- 全社戦略: 資源配分、国際化・多角化
- 事業戦略: 事業部門単位での競争優位
- 製品戦略: 自社製品・サービスの優位性の追求
- 機能戦略: マーケティング、研究開発などの機能別の戦略

全社戦略を把握したうえで、4につながる事業戦略、製品戦略につなげる

4 ★★★ 新規事業コンセプトの作成

チーム(個人で取り組む場合も協力)で20アイデア以上を目安に数を出す

5 ★★ アイデアの絞り込みと優先順位の決定

アイデア	市場	競合	実現性	優先度
1. 新規市場への参入	○	○	○	○
2. 既存市場でのシェア拡大	○	○	○	○
3. 新規製品の開発	○	○	○	○
4. 既存製品の改良	○	○	○	○
5. サービスの付加	○	○	○	○
6. 価格の引き下げ	○	○	○	○
7. 販路の拡大	○	○	○	○
8. 顧客サービスの向上	○	○	○	○
9. 新規顧客層の開拓	○	○	○	○
10. 既存顧客へのアプローチ	○	○	○	○
11. 競合他社との提携	○	○	○	○
12. 新規技術の導入	○	○	○	○
13. 人材の育成	○	○	○	○
14. 設備投資	○	○	○	○
15. その他	○	○	○	○

「市場の成長性」や「競合他社の状況」「アイデアの実現性」について評価し決定する

6 ★★ 提供価値の頭在化

一般的なターゲット作成とペルソナ作成の違い

	一般的なターゲット	ペルソナ
顧客像	ぼんやり	具体的な
提供される内容	業種や売上規模、部署、役職などのスペック	経緯やライフスタイル、ライフスタイル
注になる情報	過去の経歴からの情報	定置調査や定性調査などの事実
主な手法	・ 業界関係や経歴等へのヒアリング ・ 過去の事業情報からのデータマイニング分析	・ ユーザインタビュー ・ ユーザ観察 ・ アンケート調査 ・ データマイニング
発想への影響	企業中心の発想	ユーザー中心の発想

「顧客がだれか」「顧客が満足する価値はあるか」「詳細な顧客像」を描く

7 ★★★ マーケティングと仕組みづくり

どのように顧客に認知してもらい、購入させ、リピートさせるのか、そのための仕組みも描く

8 ★★ 財務計画

3. 新事業にかかる経営計画 (千円)

	年 月 ~ 年 月	年 月 ~ 年 月	年 月 ~ 年 月	年 月 ~ 年 月
①売上高				
②売上原価				
③売上総利益 (①-②)				
④販元費及び一般管理費				
⑤営業利益 (③-④)				
⑥売上高内訳				

5年間のロードマップを、投資額と売上、費用、利益面から説明する

4. 地域ニーズの把握

福井大学では令和元年から行っていたリカレント教育実施に至るニーズ調査（地域企業において必要な人材の調査）をもとに、地域ニーズの把握に努めてきた。その経緯は以下のとおりである。ニーズ調査は、福井大学同窓経営者の会会員企業、福井大学産学官連携本部協力会企業に対し広く行った。

その後、本事業の公募が行われるに至り、主な教育受講者を企業社会人から失業者・転職希望者へ変更した場合における企業ニーズ調査（地域企業が新たに採用したい人材の調査）を行い、本事業計画の提案に至った。

<p>(令和元年)</p> <p>11月</p> <p>12月</p>	<p>定例会でリカレント教育に係るアンケート調査実施の承認 アンケート依頼（同窓経営者の会、産学官連携本部協力会計 346 社） アンケート調査の取りまとめ (資料 4-1 参照)</p>
<p>(令和2年)</p> <p>2月</p> <p>6月</p> <p>10月</p> <p>11月</p>	<p>アンケート結果も踏まえ、同窓経営者の会と大学役員がリカレント教育の進め方を協議</p> <p>リカレント教育の推進について、総会です承</p> <p>定例会において、全国的にも著名な講師を招き、DXとは何か、何故、今、求められるのかについて講演会開催、講演終了後にアンケート調査実施 (資料 4-2 参照)</p> <p>同窓経営者の会と大学関係者、企業も交えて、DX関連リカレント教育の進め方について協議</p>
<p>(令和3年)</p> <p>3月</p> <p>4月</p> <p>7月</p> <p>8月</p>	<p>リカレント教育事業の推進に先立ち、デジタル化やDX関連のワークショップを開催し、各企業において解消したいと考える具体の業務課題を収集</p> <p>大手電機メーカーとIT教育推進・地域ニーズに関する打合せ 地域IT教育企業とIT教育推進・地域ニーズに関する打合せ</p> <p>福井労働局・ハローワークと連携・地域ニーズに関する打合せ (資料 4-3 参照)</p> <p>福井県情報システム工業会と地域ニーズに関する打合せ</p>

資料4-1：福井大学の将来像設計にあたっての企業経営者へのアンケート調査 (令和元年12月16日、関係箇所のみ一部抜粋)

本アンケート調査は、今後10年間の社会変化を見越して、本学の役割や機能、そのための組織・規模を検討するにあたり、県内外の関連企業346社の経営者に対し、人材育成や研究等に係るニーズ把握のために、令和元年11月に実施したもので、101社から回答があった。

1. リカレント教育(社会人の学び直し)についてお尋ねします。

- ① 福井大学では、社会人の方を対象としたリカレント教育(社会人の学び直し)に、今後、力を入れていく予定です。御社におかれまして、福井大学を活用して社員や職員の教育を行おうと考えられた場合、どのような分野、内容を希望されますか？(複数選択可)

(結果概要)リカレント教育の希望分野について、「AIやIoT、ICT関連」分野が最も多く、約7割の企業がこの分野の教育を希望している。また、「経営学等のマネジメント関連」についても、約半数の企業が希望しており、マネジメント人材の教育についても関心が高い。次いで、多様性が必要とされる今後に向けて、「様々な分野の基礎関連」が多く、また、海外展開企業が多い福井県の地域性を反映して、「語学・コミュニケーション関連」や「海外情勢や海外事業関連」の分野に関心が高い。

(回答数)	
AIやIoT、ICT関連	72 71.3%
経営学等のマネジメント関連	50 49.5%
知的財産関連	23 22.8%
MBA・社会保険労務士といった資格取得関連	13 12.9%
語学・コミュニケーション関連	30 29.7%
海外情勢や海外事業関連	20 19.8%
様々な分野の基礎関連	35 34.7%
医療・福祉系の基礎関連	5 5.0%
その他	2 2.0%

- ・まず福大の強みとしてのリカレント教育がどこにあるのかを教えてくださいと感じます。
- ・工学部機械科で学習するような基礎知識
- ・専門分野(有機化学)

- ② リカレント教育に社員や職員の方を派遣しようとする動機についてご記入ください(複数選択可)。また、その分野についてもご記入ください。

(結果概要)リカレント教育を受けさせたいと考える動機について、「現状の担当分野の基礎知識の向上」の回答数が最も多く、回答企業数の半数以上となっている。また、分野についても、①での回答と同様に、「AI、IoT、ICT関連」分野が多い。次に多かった動機は、「専門知識の向上」であり、その分野も「AI、IoT、ICT関連」であり、多くの企業がSociety 5.0とIndustry 4.0への対応を課題と捉えている。

(回答数)	
現状の担当分野の基礎知識の向上	58 57.4%
分野	<ul style="list-style-type: none"> ・AI、IoT、ICT関連(7) ・ビッグデータ ・ソフトウェア(2) ・経営、経営層(2) ・管理職のマネジメント教育 ・EC事業、管理業務 ・従業員の問題意識、目的意識にもとづく分野 ・開発職における知的財産権に関わるもの ・知的財産(2) ・製造・営業 ・語学(2)
	<ul style="list-style-type: none"> ・工学系基礎知識 ・電気工学 ・機械工学 ・機械製造 ・建築・土木に関する知識や資格勉強 ・建築学 ・繊維(ニット)工業 ・医療系基礎知識 ・医療、福祉 ・金融全般 ・体系的に知識を習得出来ていない
現状の担当の分野外の基礎知識の向上	37 36.6%
分野	<ul style="list-style-type: none"> ・AI、IoT、ICT関連(6) ・経営学等のマネジメント ・経営学(2) ・経営として戦略を考える基本知識不足 ・MBA・社会保険労務士といった資格取得関連 ・MBA・経営学 ・知的財産 ・製造・営業
	<ul style="list-style-type: none"> ・語学 ・語学力が弱い人がほとんど ・語学・コミュニケーション関連 ・グローバル人材の育成 ・海外事業強化 ・海外情勢や海外事業関連(2) ・オフショアに向けてグローバルな知識向上 ・従業員の問題意識、目的意識にもとづく分野 ・様々な分野の基礎知識 ・具体的にないが視野を広げるため ・温暖化防止の基礎知識

専門知識の向上	46	45.5%
分野	<ul style="list-style-type: none"> ・AIやIoT、ICT関連(9) ・自動化、省力化 ・日々進化するデジタル技術 ・経営学(2) ・マネジメント関連(3) ・経営及びマネジメント力向上(2) ・管理者・後継者育成 ・従業員の問題意識、目的意識にもとづく分野 ・知的財産関連(3) ・法務、労務 ・社会保険労務士等の資格取得(2) ・社会保険労務士 ・語学・コミュニケーション関連(2) ・海外情勢や海外事業関連 	<ul style="list-style-type: none"> ・繊維(ニット)工業 ・材料(新規) ・有機化学 ・半導体製造(組立)の効率化、材料ごとの特性と生産性の向上 ・物理学の部門 ・ファクトリーオートメーション制御システムの設計 ・機械設計 ・機械加工 ・機械設計、部品製作(SUS)、機械組立 ・電気・電子設計 ・ソフトウェア設計 ・CFRPによる軽量化成形技術及び性能評価方法 ・生産工学、統計的手法を含む生産性向上関連 ・工学 ・マテハン ・社会資本(公共施設)整備分野 ・工務部局
定年後に備えた社員のスキル、能力等向上の支援	3	3.0%
分野		
その他	3	3.0%
分野	<ul style="list-style-type: none"> ・営業分野における様々な顧客とのコミュニケーション ・後継者育成 ・現状は派遣しようと考えていません。ただ、コミュニケーション能力が低い社員が多いと感じているため①は回答しています。 ・まず、現在、どのようなカリキュラムをお考えですか。 	

資料４－２：福井大学同窓経営者の会のリカレント教育(社員教育)についてのアンケート調査結果(令和２年１０月２９日、関係箇所のみ一部抜粋)

１－１ 企業におけるDXに関する学び

Q1 上記のような学びに興味がありますか。

業種1	県内外	①参加したい	②興味がある	③興味が無い	④その他
1 建築・建設	1 県内企業			6	1
	2 県外企業		1	2	1
2 製造	1 県内企業			7	1
	2 県外企業		1		1
3 その他	1 県内企業			2	
総計		2	17	4	1

Q2 経営課題の解決等のために、どのようなテクノロジーに興味がありますか。(複数選択可)

業種1	県内外	①クラウドサービス	②IoT	③AI	④その他
1 建築・建設	1 県内企業	4	3	4	
	2 県外企業	2	4	2	
2 製造	1 県内企業		5	5	
	2 県外企業	2	1	2	1
3 その他	1 県内企業	1	1	2	
総計		9	14	15	1

1 - 2 企業における社員のデジタル化スキルの底上げに関する学び

Q1 イ. その際の課題（複数選択可）

業種1	県内外	①方法が分からない	②業務の見直しが分からない	③SEに頼りきり	④学ばせ方が分からない	⑤マンパワー・予算不足	⑥その他
1 建築・建設	1 県内企業	3	3	2	4	4	1
	2 県外企業	3	1	1	1	1	
2 製造	1 県内企業	2	3	4	3	3	
	2 県外企業	1		1	1	1	
3 その他	1 県内企業				1	1	
総計		9	7	8	10	10	1

Q2 デジタル化を進めるに当たり、経営者や社員の方が必要な知識やスキルを学ぶことが出来るとしたら、どのような内容・方法を希望されますか。（複数選択可）

業種1	県内外	①基礎から	②全体をモデル的に	③企業グループでケーススタディ型	④オーダーメイド	⑤セミナー・ワークショップ	⑥オンデマンド	⑦土日利用
1 建築・建設	1 県内企業	1	2	3	3	1		1
	2 県外企業	1	1	2	1	2	2	1
2 製造	1 県内企業	1	4		3		2	
	2 県外企業	1	1					1
3 その他	1 県内企業			1			1	
総計		4	8	6	7	3	5	3

Q3 上記の学びはどのような方を対象にしたいと考えておられますか。（複数選択可）

業種1	県内外	①経営者や幹部職員	②中堅職員	③若手職員	④その他
1 建築・建設	1 県内企業	6	3	3	
	2 県外企業	3	2		
2 製造	1 県内企業	2	5	3	
	2 県外企業	1	2		
3 その他	1 県内企業	1	1	1	
総計		13	13	7	

資料4-3：地域企業が求める職種と有効求人倍率について
(県内のある地域のハローワークのデータ（抜粋）)

職種別有効求人・求職状況(令和3年6月)

フルタイム			職 種	パート		
有効 求人数	有効 求職者数	求人倍率		有効 求人数	有効 求職者数	求人倍率
1,106	686	1.61	職 業 計	1,505	592	2.54
3	5	0.60	A 管理的職業	0	0	-
213	66	3.23	B 専門的・技術的職業	41	36	1.14
10	3	3.33	07開発技術者	0	0	-
20	15	1.33	08製造技術者	0	4	-
66	6	11.00	09建築・土木技術者等	0	2	-
23	7	3.29	10情報処理・通信技術者	0	2	-
5	0	-	12医師・薬剤師等	3	0	-
36	9	4.00	13保健師、助産師等	15	7	2.14
11	2	5.50	14医療技術者	5	4	1.25
1	3	0.33	15その他の保健医療	2	2	1.00
28	5	5.60	16社会福祉の専門的職業	12	11	1.09
6	9	0.67	22芸術家、デザイナー等	1	1	1.00
4	6	0.67	05.06.17～21.23.24その他の専門的職業	3	3	1.00
91	124	0.73	C 事務的職業	56	87	0.64
58	108	0.54	25一般事務員	27	81	0.33
8	6	1.33	26会計事務員	1	2	0.50
14	5	2.80	27生産関連事務員	22	2	11.00
9	1	9.00	28営業・販売関連事務員	3	1	3.00
2	1	2.00	30運輸・郵便事務	2	0	-
0	3	-	31事務用機器操作の職業	1	1	1.00
134	26	5.15	D 販売の職業	695	14	49.64
82	11	7.45	32商品販売の職業	695	13	53.46
20	2	10.00	33販売類似の職業	0	0	-
32	13	2.46	34営業の職業	0	1	-
148	50	2.96	E サービスの職業	125	64	1.95
55	22	2.95	36介護サービスの職業	45	20	2.25
13	2	6.50	37保健医療サービス	4	0	-
14	0	-	38生活衛生サービス	12	0	-
20	16	1.25	39飲食調理の職業	24	27	0.89
33	9	3.67	40接客・給仕の職業	33	11	3.00
1	0	-	41居住施設・ビルの管理	1	2	0.50
2	1	2.00	42その他のサービス	6	4	1.50
17	7	2.43	F 保安の職業	0	6	-
14	7	2.00	G 農林漁業の職業	14	5	2.80
179	112	1.60	H 生産工程の職業	68	33	2.06
8	3	2.67	49生産設備（金属）	0	0	-
15	2	7.50	50生産設備（金属除く）	3	2	1.50
12	0	-	51生産設備（機械）	0	0	-
36	10	3.60	52金属材料製造等	4	2	2.00
43	25	1.72	54製品製造・加工処理	50	16	3.13
21	2	10.50	57機械組立の職業	0	1	-
12	9	1.33	60機械整備・修理の職業	0	0	-
2	1	2.00	61製品検査（金属）	2	0	-
7	4	1.75	62製品検査（金属除く）	8	2	4.00
3	4	0.75	63機械検査の職業	1	1	1.00
20	52	0.38	64生産関連・生産類似	0	9	-
115	23	5.00	I 輸送・機械運転の職業	14	11	1.27
77	17	4.53	66自動車運転の職業	10	7	1.43
0	0	-	67船舶・航空機運転	0	0	-
6	2	3.00	68その他の輸送の職業	1	0	-
32	4	8.00	69定置・建設機械運転	3	4	0.75
107	6	17.83	J 建設・採掘の職業	1	0	-
6	0	-	70建設総体工事の職業	0	0	-
13	0	-	71建設の職業	1	0	-
18	2	9.00	72電気工事の職業	0	0	-
69	3	23.00	73土木の職業	0	0	-
85	59	1.44	K 運搬・清掃等の職業	491	143	3.43
51	32	1.59	75運搬の職業	104	11	9.45
9	4	2.25	76清掃の職業	73	25	2.92
2	1	2.00	77包装の職業	7	5	1.40
23	22	1.05	78その他の運搬等の職業	307	102	3.01
0	201	-	分類不能の職業	0	193	-

5. 事業の広報、受講者募集、申込者数及び受講者数

(1) 事業の広報

福井県、福井労働局・ハローワーク、県内経済団体・金融団体等と綿密に連携協力し、様々な媒体・方法を活用して、県内の求職者はもとより県外のU I ターン希望者に対しても幅広く事業・プログラムの広報活動を展開した。

※下記の資料5-1～5-6の配布先

福井労働局・県内ハローワーク、福井県（県外事務所（東京・京都・大阪）、福井Uターンセンターオフィス（東京・名古屋・京都・大阪・福井）、県内経済団体・金融団体等

① 広報媒体

○事業案内チラシ（資料5-1）

・部数：15,000部

（表面）

（裏面）

■A4チラシ（表）



■A4チラシ（裏）



○事業案内ポスター（チラシの表面の拡大版）

・部数：100部

○プログラムに関するQ&A（資料5-4）

- ・ 申込要件、選考方法、プログラム内容、就職先等について、申込希望者に分かりやすく解説
- ・ 部数：200部

（Q&A抜粋）

1. 申請区分等

（Q1）

受講者募集要項の「3. 受講申込区分」について、（1）失業者、（2）非正規雇用労働者、（3）希望する就職ができていない若者、転職希望者等のいずれかの区分に該当していれば、その理由は問わないのか。

（A1）

例えば、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う社会経済の悪化や就職先の業績悪化などによる雇用環境の変化が理由として考えられますが、それ以外の理由であっても結構です。理由については、受講申込理由書に簡潔に記載してください。

（Q2）

年齢、国籍など、申込資格に制限はあるのか。

（A2）

特段の制限は設けません。本プログラムでは、就業意欲のある方を募集しています。受講者募集要項に記載のとおり、講義で使用する言語は基本的に日本語であること等に十分留意の上、申請の可否をご判断ください。

2. 選考方法等

（Q3）

受講申込者数が募集人員の30名に満たない場合でも選考（面接）は行うのか。

（A3）

本プログラムでは、就業意欲のある方を募集していますので、選考を行います。

（Q4）

募集人員の30名を超えて受講生を受け入れる可能性はあるのか。

（A4）

できるだけ多くの受講者が本プログラムを修了し就業することを目指しており、質の高い教育を保障する上で、30名を上限としています。

（Q5）

どのような基準で選考するのか。

（A5）

受講者学生募集要項に記載のとおり、申込書類と面接により、申込理由を踏まえつつ、意欲・資質等を確認した上で受講の可否を決定します。

○「福井県に移住をお考えの方の交通費支援制度」(チラシ: 福井県) (資料5-5)

- ・UI ターン希望者を対象に福井県が作成
- ・部数：200部

(表面)

(裏面)

現住所 (お住まいの県)	支援上限額 (1人あたり)	現住所 (お住まいの県)	支援上限額 (1人あたり)
北海道	14,000円 (15万5,000円)	宮城県	14,000円 (15万5,000円)
青森県		大分県	
岩手県		宮崎県	
宮城県		鹿児島県	
秋田県		沖縄県	13,000円 (15万5,000円)
山形県		群馬県	
福島県		新潟県	
茨城県		鳥取県	12,000円 (15万5,000円)
栃木県		香川県	
埼玉県		静岡県	11,000円 (15万5,000円)
千葉県	岡山県	10,000円 (15万5,000円)	
東京都	長野県	10,000円 (15万5,000円)	
神奈川県	都立山県	9,000円 (15万5,000円)	
山梨県	三重県	7,000円 (15万5,000円)	
鳥取県	大坂府	6,000円 (15万5,000円)	
広島県	兵庫県	5,000円 (15万5,000円)	
山口県	富山県		
徳島県	岐阜県		
愛媛県	愛知県	5,000円 (15万5,000円)	
高知県	滋賀県		
福岡県	京都府	3,000円 (15万5,000円)	
佐賀県	奈良県		
長崎県	石川県		

○「求職者支援制度のご案内」(チラシ: 厚生労働省・都道府県労働局・ハローワーク) (資料5-6)

- ・職業訓練受講給付金給付希望者を対象に厚生労働省が作成
- ・部数：200部

(表面)

(裏面)

再就職や転職を目指す皆さまへ

求職者支援制度のご案内

月10万円 給付金 + 無料の 職業訓練 + 就職 サポート

求職者支援制度とは?

- 求職者支援制度は、再就職や転職を目指す求職者の方が、月10万円の生活支援の給付金を受給しながら、無料の職業訓練を受講する制度です。
- 訓練開始前、訓練期間中、訓練終了後まで、ハローワークが求職活動をサポートします。
- 雇われて雇用保険を受給できない方、収入が一定額以下の在職者の方などが、給付金を受給しながら訓練を受講できます。
- 給付金の支給要件を満たさない場合であっても、無料の職業訓練を受講できます。(テキスト代などは自己負担)

主な対象者の方は?

給付金を受けて訓練を受講する方	給付金を受けずに訓練を受講する方 (無料の訓練のみ受講する方)
離職者 雇用保険の適用がなかった離職者の方 フリーランス・自営業を廃業した方 雇用保険の受給が終了した方など	離職者 職や配偶者と同居して一定の世帯収入がある方など (親と同居している学卒生離職の方など)
在職者 一定額以下の収入のパートタイムで働きながら、正社員への転職を目指す方など	在職者 働いていて一定の収入のある方など (フリーランスで働きながら、正社員への転職を目指す方など)

厚生労働省・都道府県労働局・ハローワーク

制度活用の主な要件

(訓練受講の要件)

- ハローワークに求職の申込みをしていること
- 雇用保険被保険者や雇用保険受給資格者でないこと
- 労働の志と能力があること
- 職業訓練などの受講を行う必要があるとハローワークが認めたこと

(給付金の支給要件)

- 本人収入が月10万円以下 [シフト制で働く方などは月12万円以下(1)]
- 世帯全体の収入が月25万円以下
- 世帯全体の金融資産が300万円以下
- 現在住んでいるところ以外に土地・建物所有していない
- 全ての訓練開始日に出席する(やむを得ない理由がある場合も、8割以上出席する)
- 世帯の中で同時にこの給付金を受給して訓練を受けている者がいない
- 過去3年以内に、偽りその他不正の行為により、特定の給付金の支給を受けていない

主な訓練コース (求職者支援訓練)

系統	コース
IT	WEBアプリ開発科、Android/JAVAプログラミング養成科など
営業・販売・事務	OA総務事務科、営業販売科など
医療事務	医療・介護事務科、調剤事務科など
介護福祉	介護職員実務者研修科、保育スタッフ養成科など
デザイン	広告・DTPクリエイター科、WEBデザイナー科など
その他	3次元CAD活用科、イラスト養成科など

● 訓練期間は2か月から6か月(4)

● シフト制でも出勤日などを指定した訓練コースは訓練開始から15日(15日定着までの特別)

● 上記の訓練のほか、訓練期間がより長い公共職業訓練(最長2年)も受講できます

【終了者の声】

「求職がめんどくさくありませんでした。訓練も楽しかったです。訓練の授業によりスキルが身に付きました。就職が決まりました。」

「訓練を始めたばかりの頃、就職先が見つかりませんでした。訓練の授業によりスキルが身に付きました。就職が決まりました。」

「訓練の授業を始めたばかりの頃、就職先が見つかりませんでした。訓練の授業によりスキルが身に付きました。就職が決まりました。」

「訓練の授業を始めたばかりの頃、就職先が見つかりませんでした。訓練の授業によりスキルが身に付きました。就職が決まりました。」

求職者支援制度の申し込みは、ハローワークで受け付けています。まずは、住所地向けのハローワークにご相談ください。

○専用ホームページ（資料5-7）

- ・ホームページのアドレスを「you can change.me（ユーキャンチェンジドットミー）」と分かりやすく印象に残りやすいものに設定し、テレビCM、チラシ、ポスター等で「ユーキャンチェンジドットミー」を使用することで、専用ホームページへの誘導を意識付けた。
- ・掲載期間：8月4日（水）～9月6日（月）
（トップページ）

福井大学は、デジタル技術を身につけ、再就職達成を目指す人を支援するプログラムを行なっています。

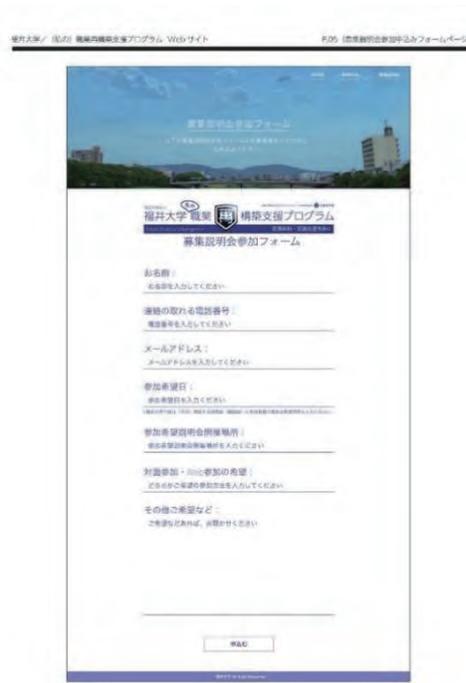
◎参加者には、2ヶ月・就業体験、計152時間以上のカリキュラムを受講して頂きます。

ただいまチャレンジする人を募集中です

対 象	就職中の卒業生・再就職希望者、転職希望者、リターンで働き始める人。
応募資格	デジタル人材へと変換し、企業へ再就職する意欲がある人。
募集期間	令和3年8月17日（火）～9月6日（月）正午
実施期間	2021年10月からの約2ヶ月間（11月以降は実施の要確認/変更/変更あり）
予定人数	30人
申込方法	以下の資料を参照し、ご記入の上、福井大学まで郵送又はご郵送ください。 <ul style="list-style-type: none"> ・受講費振替票（振替用紙） ※資料名をアップロードする。 ・受講申込書（申込書） ※ダウンロードが異なります。 ・受講申込書（申込書） ・受講料振替票（振替用紙） <p>（注）※の各種支給制度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奨学金支援制度のご案内（奨学金制度・給付型奨学金・ハローワーク） ・福利厚生制度をお考えの方の受講費支援制度（随時）
学ぶ内容	サイバーセキュリティ技術・システム開発技術・IT関連技術 ※授業内容などの詳細はこちら
費 用	受講料は無料（受講費やパソコン等は自己負担） ※Q&Aはこちら

(事業の趣旨・目的)

(説明・相談会申込フォーム)



○テレビCM (動画)

- ・単価の高い時間指定ではなく放送回数を重視し、民放1社での放送に限定することにより、プログラムの周知機会を増やした。
- ・放送局：福井テレビ
- ・放送期間：8月5日(木)～9月5日(日)
- ・放送回数：15秒×73回

○インターネット

- ・YouTube 動画広告配信 (15秒)
対象地域：福井県、石川県
配信期間：8月5日(木)～9月5日(日)
- ・Line 動画広告配信 (15秒)
対象地域：福井県、石川県
配信期間：8月5日(木)～9月5日(日)
- ・Google 画像広告配信
配信期間：8月5日(木)～9月5日(日)

②広報の方法・工夫

募集期間（8月17日（火）から9月6日（月）正午まで）を見据えつつ、募集開始前に専用ホームページを開設しテレビCMの放送を開始するとともに、希望者の都合（時間・方法）に合わせて個別の説明・相談会（対面又はオンライン）を平日に随時受け付ける等、様々な方法を活用し工夫して広報活動を展開した。

○「福井大学」における広報

- ・専用ホームページへのアクセス窓口を本学ホームページのトップページに掲載

掲載期間：8月4日（水）～9月6日（月）

資料5-8：本学ホームページのトップページのバナー



- ・教育・スポーツ記者クラブでの記者会見の開催

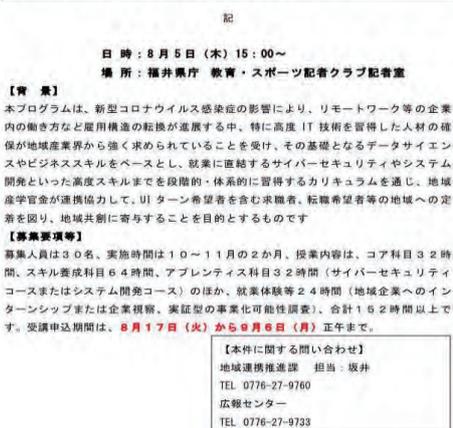
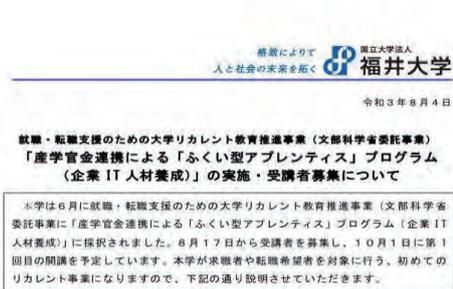
日時：令和3年8月5日（木）15：00～15：45

場所：福井県庁 教育・スポーツ記者クラブ記者室

説明者：事業総括責任者、プログラム開発・事業実施責任者、事業ディレクター

参加者：福井新聞社、中日新聞、朝日新聞社、福井テレビ

資料5-9：記者会見通知文書



- ・ 求職者に対する説明・相談会開催（対面又はオンライン）
期 間：8月9日（月）～9月3日（金）までの平日に随時受付
場 所：福井大学文京キャンパス（対面）又はオンライン
説明者：プログラム開発・事業実施責任者、事業ディレクター
応募方法：ホームページの参加フォームから申込（資料5-7参照）
参加者：対面16名、オンライン18名 計34名（実人数は33名）
※うち、県外在住の相談者（UIターン希望者）は9名
- ・ 福井労働局、県内ハローワーク担当者への説明会開催
プログラムの概要及び養成される人材像について説明
日 時：8月10日（火）13：00～13：45
場 所：ハローワーク福井
説明者：プログラム開発・事業実施責任者、事業ディレクター
参加者：福井労働局、ハローワーク福井等の担当者 計5名
- ・ ハローワーク三国の担当者への説明会開催
プログラムの概要及び養成される人材像について説明
日 時：8月24日（火）13：30～14：15
場 所：ハローワーク三国
説明者：プログラム開発・事業実施責任者、事業ディレクター
参加者：ハローワーク三国の所長及び担当者3名

- ・ U I ターン希望者に対する県外説明会開催（1回目：東京）
 - 日 時：9月1日（水）19：00～20：00
 - 場 所：中央区立産業会館
 - 説明者：プログラム開発・事業実施責任者、事業ディレクター
 - 参加者：（新型コロナウイルス感染症の感染状況の悪化により中止）

資料5-10：東京会場チラシ



- ・ U I ターン希望者に対する県外説明会開催（2回目：大阪）
 - 日 時：9月2日（木）19：00～20：00
 - 場 所：福井県大阪事務所
 - 説明者：プログラム開発・事業実施責任者、事業ディレクター
 - 参加者：（新型コロナウイルス感染症の感染状況の悪化により中止）
- ・ 企業インターンシップ受入依頼を兼ねた企業に対する広報
 - 本学と教育研究面で関係の深い企業のほか、事業実施委員会委員からの就職に結びつき易い企業を確保すべきとの提言を受け、IT関連団体の企業にも依頼を行った。主な依頼先は次のとおり。
 - 日 時：7月15日（木）
 - 対 象：福井大学産学官連携本部協力会会員企業 約240社
 - 事業概要を添付して受入依頼文書をメール送信
 - 日 時：8月17日（火）
 - 対 象：一般社団法人福井県情報システム工業会会員企業 約60社
 - 受講ガイドを添付して受入依頼文書をメール送信
 - ※受入を承諾した企業には、本学関係者が出向き、事業・プログラム概

要を詳細に説明

○「福井県」による広報

- ・福井県の就職活動サイトや移住サイトへの掲載、登録者へのメール配信
- ・県外事務所、福井Uターンセンターオフィス、県人会を通じたUIターン希望者への広報

資料5-11：県外事務所、福井Uターンセンターオフィス等への周知依頼文書

令和3年8月12日
福井県の各県外事務所 御中
福井Uターンセンターの各オフィス 御中
国立大学法人福井大学
「福井大学 私の職業再構築支援プログラム」のUIターン希望者への周知のお願い
<p>本学は、本年度、文部科学省の採択を受け、標記プログラム（正式名称：産学官金連携による「ふくい型アプレンティス」プログラム（企業IT人材養成））を実施することといたしました。当プログラムは、新型コロナウイルス感染症の影響により、リモートワーク等の企業内の働き方など雇用構造の転換が進展する中、特に高度IT技術を習得した人材の確保が地域産業界から強く求められていることを受け、その基礎となるデータサイエンスやビジネススキルをベースとし、就業に直結するサイバーセキュリティやシステム開発といった高度スキルまでを段階的・体系的に習得するカリキュラムを通じ、地域産学官金が連携協力して、UIターン希望者を含む失業者、非正規雇用労働者、転職希望者等の地域への定着を図り、地域共創に寄与することを目的とするものです。</p> <p>プログラムは、募集定員は30名、実施時期は10～11月の2か月、授業の内容はコア科目、スキル養成科目、アプレンティス科目（サイバーセキュリティコースまたはシステム開発コース）のほか、就業体験等24時間以上（地域企業へのインターンシップまたは企業視察、実証型の事業化可能性調査）、合計152時間以上です。社会人の受講も想定しているため、授業時間は金曜日午後、土、日曜日を中心に開講いたします。</p> <p>つきましては、受講者募集要項、説明会チラシ等を送付しますので、UIターン希望者へ周知くださるようお願いいたします。また、併せて当該地域の福井県人会へも周知いただければ幸いに存じます。</p> <p>なお、プログラムの詳細は、ホームページ (https://youcanchange.me) をご参照ください。</p> <p>(送付資料)</p> <p>○受講者募集要項、求職者支援制度のご案内、福井県に移住をお考えの方の交通費支援制度、福井大学私の職業再構築支援プログラム受講ガイド 5セット</p> <p>○福井大学 私の職業再構築支援プログラムチラシ 10枚、ポスター 1枚</p> <p>○福井大学 私の職業再構築支援プログラム受講者説明会・相談会チラシ（東京会場、大阪会場）及びUIターン希望者への案内文 5部</p>

(UI ターン希望者への周知文書)

令和3年8月12日

福井県への UI ターン希望者の皆様へ

国立大学法人福井大学

私の
「福井大学 職業再構築支援プログラム」の受講のお願い

本学は、本年度、文部科学省の採択を受け、標記プログラムを実施することといたしました。当プログラムは、IT の基礎をベースに就業に直結するサイバーセキュリティやシステム開発といった高度スキルまでを段階的・体系的に習得することができます。新型コロナウイルス感染症の影響により、雇用構造の転換の中、特に高度 IT 技術を習得した人材が求められています。本カリキュラムを通じ、地域産学官金が連携協力して、UI ターン希望者を含む求職者、非正規雇用労働者、転職希望者等の地域への定着を目指します。

プログラムは募集定員30名、実施時期10～11月の2か月、授業は金曜日午後、土、日曜日を中心に開講いたします。授業の内容はコア科目、スキル養成科目、アプレンティス科目のほか、就業体験等24時間以上（地域企業へのインターンシップまたは企業視察、実証型の事業化可能性調査）、合計152時間以上です。このうち、高度専門スキルを習得するアプレンティス科目は、受講者自身でコース選択していただきます（サイバーセキュリティコースまたはシステム開発コース）。

【福井大学 私の職業再構築支援プログラムホームページ】

URL : <https://youcanchange.me>

県内企業では高度にサイバーセキュリティに精通した担当者の配置が課題となっていること、県内にシステム開発系企業が多いこと等、いずれも県内企業のニーズが高く、これらの人材の確保が企業に強く求められています。この機会に高度 IT 技術習得を目指して、是非当プログラムの受講をお願いいたします。

なお、別添チラシのとおり、東京、大阪で UI ターン希望者向け説明会・相談会を開催します。詳しくプログラム内容を知りたいという方はご参加ください。また、お電話やメールでのご相談もお待ちしております。

○「福井労働局・ハローワーク」による広報

- ・求職登録者への広報、ホームページへの掲載
- ・県内の求職者に対するスキルアップセミナーの開催

日 時：8月23日（月）15：00～15：30

場 所：ハローワーク福井

説明者：プログラム開発・事業実施責任者、事業ディレクター

応募方法：ホームページの参加フォームから申込（資料5-7参照）

参加者：事前応募11名及び当日参加者約20名を含め30名程度が参加

○県内経済団体・金融団体による広報

- ・福井県に縁のある首都圏在住者で構成される「イエロー会」会員への事業・プログラム概要のメール配信
- ・各経済団体・金融団体参加企業へのメール配信等

③受講者への経済的支援・配慮

○交通費の支援（福井県）

選考面接を受けるため、または住まい探しのため来県する場合など、移住前の下見や現地活動に該当する場合には、県が実施する交通費助成の対象となる場合がある旨募集要項に記載し、「福井県に移住をお考えの方の交通費支援制度」（チラシ：福井県）（資料5－5参照）を募集要項と同時配布するとともに、チラシをホームページに掲載した。

○住居の支援（福井県）

移住先探しや受講中の住居探し等について、福井暮らしはたらくサポートセンターにて相談を受ける旨、募集要項に記載した。（相談内容に応じ、地域の不動産事業者、関係部署等を紹介）。

また、嶺南地区居住の申込者については、大学生の制度に準じた取扱い（嶺北地区の福井県職員住宅の貸出し）の可否について、個別に相談受付を行った。

○職業訓練受講給付金受給の支援

一定の要件を満たせば国の求職者支援制度における職業訓練受講給付金を受給することができること、給付金の受給希望があれば、給付金の受給手続きのため、速やかに居住地を管轄する公共職業安定所（ハローワーク）へ相談に出向いてほしいことを募集要項に記載し、「求職者支援制度のご案内」（チラシ：厚生労働省・都道府県労働局・ハローワーク）（資料5－6参照）を募集要項と同時配布するとともに、チラシをホームページに掲載した。

（2）受講者募集及び申込者数

①受講者募集

○募集人員・対象者

募集人員は30名とし、対象者は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い就業に影響を受けた等の理由により、（1）失業者、（2）非正規雇用労働者、（3）希望する就職ができていない若者、転職希望者等（UIターン希望者を含む）のいずれかに該当する者とした。

○申込期間・方法

申込期間については、福井労働局から、申込者が募集人員に達することが最も重要であること、また、通常の職業訓練は入校日の概ね1ヶ月前から募集を開始し募集期間を1ヶ月程度設けていること、従ってこのプログラムについてもできるだけ長い募集期間を確保することが重要であるとの提言があった。

これを受け、プログラム開始までのスケジュールが厳しい状況の中、8月17日（火）から9月6日（月）正午までの約20日間を確保した。

申込方法については、申込書類（受講申込票、受講申込理由書及び希望科目調査票）をワード・エクセル形式でホームページに掲載し、それを活用して作成・プリントアウトできるように手続きの簡素化を図った。

②申込者数

十分な募集期間の確保、申込方法の簡素化、Q&Aによる分かりやすい説明、様々な媒体・方法を活用した申込希望者に配慮した広報の効果等により、募集人員30名を大幅に上回る57名の申込者があった。

資料5-12：申込者57名の内訳

- ・年代別
20代：20名、30代：15名、40代：9名、50代：9名、60代：4名
- ・男女別
男：38名、女：19名
- ・申込区分別
失業等により職を持たない者：19名、非正規雇用労働者：11名、
正規雇用労働者：27名
- ・U I ターン希望者
Uターン希望者：11名、Iターン希望者：2名
※Uターン希望者11名のうち3名は申込時点で既に県内に転居済

（3）選考及び受講者数

①選考

○選考方法・日時

選考は面接とし、希望コース（サイバーセキュリティコース又はシステム開発コース）毎に5人程度ずつの班を編制し、1班当たり25分の集団面接を行った。なお、県外者及び嶺南地区居住者については、希望によりWebによる面接を行った。日時については、申込者が職業に就いていることに配慮し、本人の都合に合わせて次のいずれかに面接日時を割り振った。

9月10日（金）13：10～17：00 産学官連携本部3階会議室

9月11日（土）9：10～11：35 産学官連携本部3階研修室

○面接者

本学関係者が面接者となるほか、雇用側の観点も参考とするため、企業インターンシップ受入承諾企業及び県内経済団体の関係者5名に同席を依頼した。

○面接の評定

面接評定票に基づき、評価項目（意欲、就業能力）について評価し、併せて、面接前質問シート（授業出席の可否、就業・転職の希望・意志）等を踏まえて面接者毎に合否の評定を行った。また、同席の企業関係者等は、意欲、就業能力、自社へのインターンシップ受入の可否等について、意見・要望等を述べた。

資料5-13：面接前質問シート

面接をスムーズに実施するため、以下の事前質問にご回答願います。本情報は面接時およびその後の事業報告等に使用いたしますが、その場合は個人が特定されない形で記載および集計します。

	※番号	お名前
質問 1	本プログラムをどこでお知りになりましたか？ 該当するもの <u>すべて</u> に○をしてください。	1. ご家族、親戚に勧められて 2. ハローワーク（場所：_____） 3. テレビのコマーシャル 4. 新聞広告等（掲載紙：_____） 5. SNS・ホームページ（検索含） 6. その他：_____
質問 2	本プログラムは、金曜日（19:40以降）、土曜日・日曜日（午前・午後）に必修科目があります。 現時点における10～11月の出席可否のご予定について、該当番号に○をしてください。 （当日の体調不良による欠席は含みません）	1. すべての授業に出席可能 2. ほぼすべての授業に出席可能 3. 2/3以上の授業の出席が可能 4. 2/3以上の出席が難しい 5. その他：_____
質問 3	本プログラムの一部の授業は、金曜日午後（12:40～17:10）または土日のどちらかにクラスを振り分けます。クラス分けの参考として、金曜日午後のご都合をご回答ください。	1. 金曜日 12:40～14:50 に受講可能 2. 金曜日 15:00～17:10 に受講可能 3. 上記の1と2ではなく土日を希望 4. その他：_____
質問 4	就業ならびに転職は、本プログラムの連携機関の支援のもと、基本にご自身の活動が中心になりますが、就業ならびに転職を希望されている時期について、該当番号に○をしてください。 （選択肢4は、5年程度以内のご希望を目安にご回答ください）	1. 可能ならできる限り早く（今すぐ） 2. 可能なら3ヶ月以内を希望（年内） 3. 可能なら6カ月以内を希望 4. 将来的に就業または転職の予定 5. 現在は就業・転職の希望はない 6. その他：_____
質問 5	本日の面接に際し、面接担当者に事前に伝えたいことがある場合はご記載ください。	

○合否判定資料（原案）の作成

評価項目（意欲、就業能力）に係る面接者の評定と面接前質問シート（就業・転職の希望・意志）（資料5-13参照）の評定を基礎とし、面接前質問シート（授業出席の可否）も考慮しつつ序列化し、かつ、面接者の中で合否判定が割れた者、受講の必要性・妥当性に疑義がある者について、同席の企業関係者の

意見・要望等を参考に検討の上、合否（保留を含む）判定資料（原案）を作成した。

②受講者数

○合否判定

公平・公正の観点から、9月15日（水）に第2回事業実施委員会を開催し、合否判定資料（原案）に基づき合否を協議し、次のとおり合格者を決定した。

- ・サイバーセキュリティコース 16名
※16名中1名から、プログラム開始前（9月21日（火））に一身上の都合により受講辞退の申出があった。
- ・システム開発コース 16名

資料5-14：合格者（受講者）31名の内訳

- ・年代別
20代：14名、30代：11名、40代：4名、50代：2名
- ・男女別
男：18名、女：13名
- ・申込区分別
失業等により職を持たない者：12名、非正規雇用労働者：7名、
正規雇用労働者：12名
- ・U I ターン希望者
Uターン希望者：7名、Iターン希望者：1名
※Uターン希望者7名のうち2名は申込時点で既に県内に転居済

○本学の数値目標

本学の受講者に関する数値目標は30名とした。上記のとおり申込者数が57名と募集人員30名を大幅に上回り、結果として受講者数は32名（後日プログラム開始前に1名辞退し31名となった。）となり、数値目標を達成した。

6. プログラムの実施・運営及び修了率

(1) 受講者オリエンテーションの実施

受講者に対し、プログラムを円滑に実施するため、次のとおり受講者オリエンテーションを実施した。

資料6-1：オリエンテーションの概要

①日時

9月24日（金）19：40～20：40

②場所

Web（Zoom）により実施（県外者への配慮及び新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため）

③説明事項・説明者等

- 事業総括責任者挨拶（福井大学理事／副学長）
- プログラムの内容（プログラム開発・事業実施責任者）
 - ・クラス分け及び時間割
 - ・「キャリア概論」担当教員の紹介
 - ・オンラインコンテンツの利用方法
- 受講者に係る生活上の留意点（シニアメンター）
 - ・新型コロナウイルス感染防止に向けた行動のお願い
 - ・その他
- 質疑応答

当日配付資料（抜粋）

（オンデマンドコンテンツ一覧）

（資料1）

オンデマンドコンテンツ一覧

（WORD-4 コンテンツ）

1. 文章作成
見出しの作成方法
社外秘等の透かし文字入力方法
アウトラインの作成
ルーラーの使い方
2. 圧縮保存
ファイルパスワードの作成
エクセルをワードに取り込む
3. 表示の作成
脚注の付け方
ページ開始番号の作成
図表番号、図表目次の作成
4. 文章作成応用
段組の作成
ハイパーリンクの作成
ヘッダーフッターの使い方

（EXCEL 編-7 コンテンツ）

1. エクセルについて
1-1 エクセルとは
1-2 文字の入力・編集
1-3 社外秘等の透かし文字挿入
1-4 データの保存
1-5 画像圧縮・ファイルサイズ圧縮
2. 表を作る
2-1 セルの結合
2-2 表の作り方の基本を学ぶ
2-3 表の作成
3. 関数を学ぶ
3-1 SUM 関数
3-2 average
3-3 その他
4. 表を使いこなす
4-1 コピー&ペースト
4-2 フィルター機能・データソート
4-3 テーブルの作成
5. グラフの作成
5-1 グラフを作成する
5-2 グラフを修正する
6. 見積書・請求書・納品書の作成
6-1 書類作成
6-2 複数シートのページジャンプ・目次作成
7. 印刷をする
7-1 保存形式の変更
7-2 印刷について

(10月授業時間割)

(資料1-2)

大学リカレント教育推進事業時間割

1週目	10月1日	10月2日	10月3日	10月2日
2週目	10月8日	10月9日	10月10日	10月9日
3週目	10月15日	10月16日	10月17日	10月16日
4週目	10月22日	10月23日	10月24日	10月23日

	金	土(1)	日	土(2)
9:50~10:50		サイバーセキュリティ基礎 (クラスB:共用講義棟 2F 演習室 /1、2週目, 産学連携本部棟 3F 研修 室/3、4週目)		ビジネスマナー (クラスA:共用 講義棟 1F K120講 義室)
11:00~12:00				
12:40~13:40	サイバーセキュリティ基礎 (クラスA:共用講義棟 2F 演習室 /1、2週目, 産学連携本部棟 3F 研修 室/3、4週目)		簿記 (産学官連携本部 棟 3F 研修室)	ビジネスマナー (クラスB:共用 講義棟 1F K120講 義室)
13:50~14:50				
15:00~16:00	ビジネスマナー (クラスC:共用 講義棟 1F K120講 義室)	データリテラシー (共用講義棟 2F 演習室)	データサイエンス 基礎(共用講義棟 1F K120講義室)	
16:10~17:10				
17:20~18:20	プログラミング基 礎 (共用講義棟 2F 演習室)	サイバーセキュリ ティ理論 (産学官連携本部 棟 3F 研修室)	English Communication (産学官連携本部 棟 3F 研修室)	
18:30~19:30				
19:40~20:40	地域産業論 (共用講義棟 3F K120講義室)			
20:50~21:50	キャリア概論 (産学官連携本部棟 1F 交流室、 1F 創会議室、3F 研修室)			

10月第5週以降 (月曜~金曜)	企業インターンシップ(各インターンシップ先企業)
10月第5週以降 (月曜~日曜)	事業化可能性調査(産学官連携本部棟 3F 研修室)

10月	必修科目
	選択必修、または必修のクラス分け科目
	選択科目

講師控室:産学官連携本部 3F 会議室

受講者自習室:産学官連携本部棟 1F 交流室および1F 創会議室(土日)

図書館利用:希望者は各自で図書館にて登録のこと

※休講・補講等は都度連絡を行います。

(2) 新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた取組

新型コロナウイルス感染症拡大防止に向け、以下のような取組を行った。

①選考面接に向けての注意喚起

募集要項に次のとおり面接当日の注意事項を記載した。

資料6-2：募集要項（抜粋）

- 文京キャンパス内では、必ずマスクを着用してください。(アレルギー等やむを得ない理由でマスクの着用が困難な場合は、前日までにその旨申し出てください。)。また、他者との接触・会話は極力控えてください。
- 選考当日、次のいずれかの状態にある者は、選考を受けることができません。
 - ・新型コロナウイルス感染症に罹患し、選考当日までに医師から治癒したと診断されていない方
 - ・選考日時時点で保健所等から新型コロナウイルス感染症患者の濃厚接触者に該当するとされている方
 - ・選考当日の検温で、37.5度以上の熱がある方
 - ・37.5度以上の熱はないものの、咳等の症状や、新型コロナウイルス感染症発症時にみられる諸症状等がある者

②選考面接欠席者への配慮

募集要項に次のとおり配慮することを記載した。

資料6-3：募集要項（抜粋）

- やむを得ない事情により選考を欠席することとなる方については、個別相談の上決定しますので、事前に「10. 問合せ・申込書類提出先」へお問い合わせください。

③選考面接時における注意喚起

面接終了時に面接者から次のとおり、プログラム実施上の注意事項を説明した。

資料6-4：説明内容

- 9月9日(木)に政府から、新型コロナウイルス感染対策として、東京都など19都道府県の緊急事態宣言を9月30日(木)まで延長し、また、福島県など8県のまん延防止等重点措置を9月30日(木)まで延長等するとの発表が行われた。また、福井県においても、福井県独自の緊急事態宣言を9月12日(日)で解除し、9月13日(月)から9月30日(木)まで特別警報に切り替える旨の発表があった。
- 本学のプログラムが開始される10月1日(金)以降の緊急事態宣言や

まん延防止等重点措置の状況によっては、リスク管理の観点から、プログラムの受講に制限を加えざるを得ない事態も想定される。なお、10月1日（金）以降も上記宣言や措置が継続する場合のプログラム受講に係る取扱いについては、関係機関とも協議の上、おっってお知らせする。

○合格した場合、毎週週末にプログラムを受講するために県外から本学に通う予定の者は挙手願いたい（氏名と都道府県名を確認）。

④日常生活における注意喚起

9月24日（金）に実施した受講者オリエンテーションの「受講者に係る生活上の留意点」の中で、新型コロナウイルス感染症拡大防止に向け、次のとおり注意喚起を行った。

資料6-5：当日配付資料（抜粋）

1. 新型コロナウイルス感染防止に向けた行動のお願い

本学では、多くの学生や教職員が活動しており、感染防止を目的として行動指針を策定しています。受講者の皆様には「新型コロナウイルス感染防止に向けた学生の行動指針」（本学ホームページ

<https://www.u-fukui.ac.jp/covid19/> 参照）に沿った行動の徹底をお願いします。

特に次の点についてご留意願います。

(1) 健康チェック表（本学ホームページ

<https://www.u-fukui.ac.jp/covid19/> 参照）により、明日以降、毎日の健康チェックを行うこと。

(2) マスクの着用を必須とし、食事時など、マスクを外す際は会話をしないこと。

(3) 教室に入室する際は、手指消毒薬により消毒すること。

(4) 発熱・咳・全身倦怠感等風邪様の症状がみられる場合や罹患者・濃厚接触者の疑いがある場合等は、来学せず自宅で休養すること。

(5) なるべくワクチンの2回接種を心がけること。

(6) 県内や学内の感染状況によっては、休講措置等により登学できない場合があります。その際はメールでお知らせしますので、常にメールの確認をお願いします。

⑤授業実施時における授業環境の配慮

3密を回避するため、次の取組を徹底した。

資料6-6：取組内容

- 密閉の回避（換気の徹底）
 - ・授業開始の30分程度前から開始まで教室の窓及び出入口を全開した。
 - ・気候上可能な限り、常時（困難なときは、30分～1時間毎に10分程度）2方向の窓及び出入口を開けた。
 - ・教室に換気扇やサーキュレーターが備わっている場合は、常時稼働させた。
- 密集の回避（身体的距離の確保）
 - ・受講者の座席間隔を2メートル程度（一つおき着席等）空けるように工夫した。
- 密接の回避（マスクの着用）
 - ・受講者、講義担当教員及びメンター等は、常時マスクを着用した。
 - ・教卓上にアクリル板を設置した。
- その他
 - ・教室の出入口に手指消毒液を配置した。
 - ・授業終了後、教室の机、椅子、パソコンのマウス、教卓を消毒液で消毒した。

（3）修学・生活上の配慮及び注意喚起

①修学・生活上の配慮及び注意事項に係る周知、実施

9月24日（金）に実施した受講者オリエンテーションの「受講者に係る生活上の留意点」の中で、受講者の修学・生活上の配慮、注意事項を説明し実施した。

資料 6-7 : 当日配付資料 (抜粋)

2. その他

- (1) 10 月 1 日 (金) に受講者証をお渡しする予定です。受講者証は本プログラムの受講者であることを証明するものですので、来学時は常時携帯してください。
- (2) 受講者への連絡は、基本的にメールで行いますので、常にメールを確認するようお願いいたします。台風等により休講する場合もメールにより連絡します。
- (3) やむを得ない事情により自家用車で入構することを認められた方を除き、基本的に公共交通機関等を利用して登学してください。
- (4) 下記の日時に図書館の利用が可能ですのでご希望の方は、図書館の出入りロウカウンターにおいて、入館のための必要な手続きを行ってください。資料の貸出も可能ですので、平日の 17 時までにはカウンターで利用カード発行の手続きを行ってください。

(開館時間) 平日 9 : 00~22 : 00
土・日曜日 13 : 00~16 : 00

- (5) 生協の営業時間は下記の福井大学生生活協同組合のホームページ及びツイッターにて周知されていますので、各自ご確認ください。なお、お弁当は教室で食べていただいて結構ですが(ただし、パソコンルームを除きます。)、ゴミ等の後始末をきちんと行ってください。

<http://www.fu-coop.or.jp/>

- (6) やむを得ず授業を欠席する場合は、必ず地域連携推進課(メール：hrep@ml.u-fukui.ac.jp)に連絡してください。
- (7) 構内は禁煙です。なお、喫煙所はありません。
- (8) 授業で使用する教室がある建物以外には、基本的に立ち入らないようお願いします。
- (9) 企業インターンシップ受講希望者については、受入企業とのマッチングを進める上で必要なため、申込書類等に記載された個人情報を実業に提供することもありますので、ご了承ください。
- (10) 最寄りのハローワークで求職登録を行ってください。必ずしも必要としないとお考えの場合は、この限りではありません。
- (11) UI ターン者については、交通費の支援のほか、移住に伴う支援もありますので、福井県のホームページ等で確認してください。

②課題提出等に係る共通ファイルの設定

授業担当講師が事前に授業用資料を本学に送付する際や受講者が授業課題を提出する際等に、ファイル容量が大きいためメールによる送付・提出が困難な場合も想定されるため、共通ファイルを設定し講師や受講者が容易にアップロードできるように配慮した。

(4) 事業実施委員会の開催

当事業・プログラムを円滑に進めるため、県内の産学官金の関係者で構成する事業実施委員会を開催し、受講者確保の方策、プログラムの開発・実施、就職支援・成果物の検証等の重要事項について検討・実施した。

①開催状況

○第1回委員会

- ・日時：令和3年7月30日（金）Web会議
- ・議事：1. 事業概要について
2. 受講者募集要項等について

○第2回委員会

- ・日時：令和3年9月15日（水）Web会議
- ・議事：1. プログラム受講に係る合否判定について

○第3回委員会

- ・日時：令和3年11月16日（火）書面会議
- ・議事：1. プログラム進捗状況について

○第4回委員会

- ・日時：令和3年12月24日（金）書面会議
- ・議事：1. プログラム進捗状況について

○第5回委員会

- ・日時：令和4年1月18日（火）書面会議
- ・議事：1. プログラム修了判定について

○第6回委員会

- ・日時：令和4年2月22日（火）Web会議
- ・議事：1. 事業実績報告書の提出について
2. 事業の振り返り及び次年度の取組について

○第7回委員会

- ・日時：令和4年3月 日（ ）書面会議（予定）
- ・議事：1. 就職状況について

(5) 受講者アンケート（中間・最終）の実施

①中間アンケート

プログラム前半（10月）が終了したことを受け、受講者の意見を踏まえ後半（11月）の授業改善に活かすため、次のとおり受講者アンケート（中間）を実施した。

- アンケート期間：10月24日（日）～11月7日（日）
- 回答者数（率）：27名（87%）
- 質問事項・回答：要約版のとおり

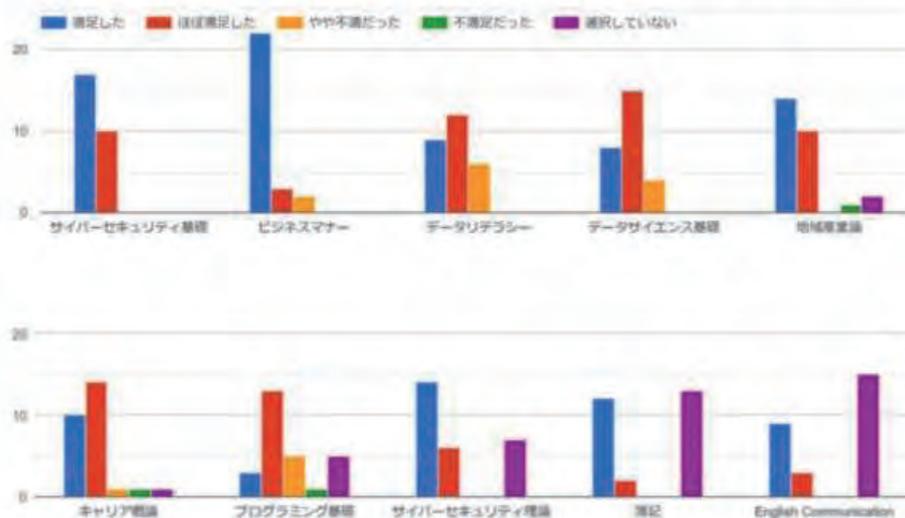
○結果を受けた対応：

- ・ 結果の概要及び意見・要望を踏まえた改善実施内容を受講者に口頭で報告
- ・ 授業スケジュール等、すぐに対応できない、または法制度上の課題をクリアしなければならない意見・要望は今後のリカレント教育に活用予定
- ・ 授業環境等の改善に係る意見・要望については、次のように可能なものから対応
 - ・ 受講者からの質問等に速やかに対応するため、学生メンターが授業時間中、教室に常時待機
 - ・ 複数の関係者による確実な出欠確認
 - ・ きめ細かな教室の暖房管理

資料6-8：中間アンケート結果（要約版）



問3. 授業に対する満足度についてご回答ください。なお、受講していない科目については、「選択していない」を選んでください。



「やや不満だった」「不満だった」を選んだ科目がある場合、その科目名と理由をお書きください。

(要約版として主なものを抽出)

- ・難しい言葉と数式が多く、理解が難しかった。実際のデータを活用した実操作（演習）がもう少し多ければ理解が進んだのではないかと。また、内容が重複しているところがあった。（データリテラシー、データサイエンス基礎など）
- ・プログラミングの基本的な構文や書き方を、説明だけでなく実践を通して自力で書くことができる力を付けられるような時間をもう少し確保してほしい。（プログラミング基礎など）
- ・受講者自らがハード機材（こどもパソコン）を作成してハードの仕組みを理解するとともに、それを使ってお互いに通信し合い、サイバー攻撃・制御を実践した講義は勉強になり大変満足した。（サイバーセキュリティ基礎）
- ・大切な講義ではあるが、もう少し講義時間を減らしてもよいのではないかと。（ビジネスマナー）

質問 4. その他プログラム全般（授業環境、運営方法等）について、自由に意見をお書きください。

（要約版として主なものを抽出）

- ・休憩時間が10分と短いため、授業終了後に講師に質問する時間があまりなく、また次の授業に向けて教室を移動しなければならず、窮屈だった。
- ・講義内容が盛りだくさんのため、講師の進行ペースが速くなりがちで、説明が早口で説明不足の場面もあり、1コマ60分の授業が8回、計8時間では、講義時間が足りない印象を受けた。
- ・仕事をもちながら2か月間、毎週3日の講義は体力的にきつい。2週毎に3か月間開講するなど、もう少し余裕のあるプログラムにしてほしい。
- ・合格発表からプログラム開始までの時間が短く、引っ越しが間に合わなかった。
- ・授業を録画して後で聴講できる仕組みがあるとよかった。また、座学についてはオンデマンドでの対応を可としてほしい。
- ・パソコン演習や実験の際に、操作等の質問がある受講者が手をあげた時に、スタッフがすぐ駆けつけてきてもらえるように、常時教室に待機し気を配っていてもらえるとうれしい。
- ・毎時間、会場に講義の時間と教室の貼り紙がしてあり、教室に迷うこともなく、わかりやすかった。
- ・理解が難しい講義もあったが、内容も濃く、今後さらにスキルを付けていく上で、きっかけや自身の糧となったことは間違いないと感じた。
- ・実際に画面で操作しながらの授業だったので理解しやすかった。
- ・内容が濃い授業ばかりで、受講して本当によかったと感じている。運営スタッフの皆さんの存在がとても励みになっている。

②最終アンケート

プログラムが全て終了したことを受け、プログラムの検証・分析を行うため、次のとおり受講者アンケート（最終）を実施した。

○アンケート期間：12月17日（金）～12月27日（月）

○回答者数（率）：27名（87%）

○質問事項・回答：要約版のとおり

資料6-9：最終アンケート結果（要約版：抜粋）

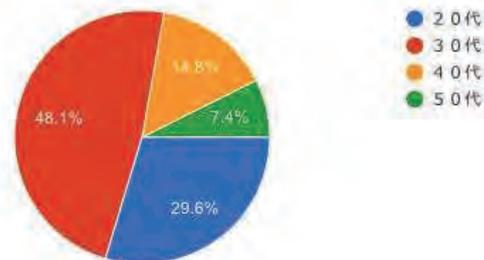
【要約版】

福井型アプレンティス地域共創リカレント教育推進事業
「産学官金連携による「ふくい型アプレンティス」プログラム（企業IT人材養成）」に係る受講者アンケート

回答：27件

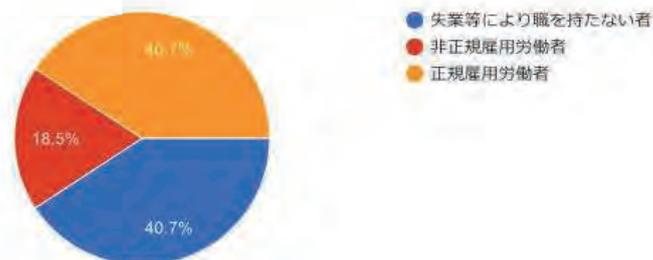
質問1. あなたの年代は？

27件の回答



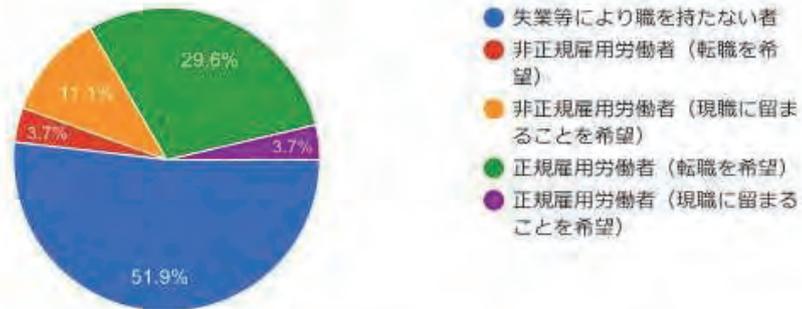
質問2. あなたの受講申込み時の就労状況は？

27件の回答

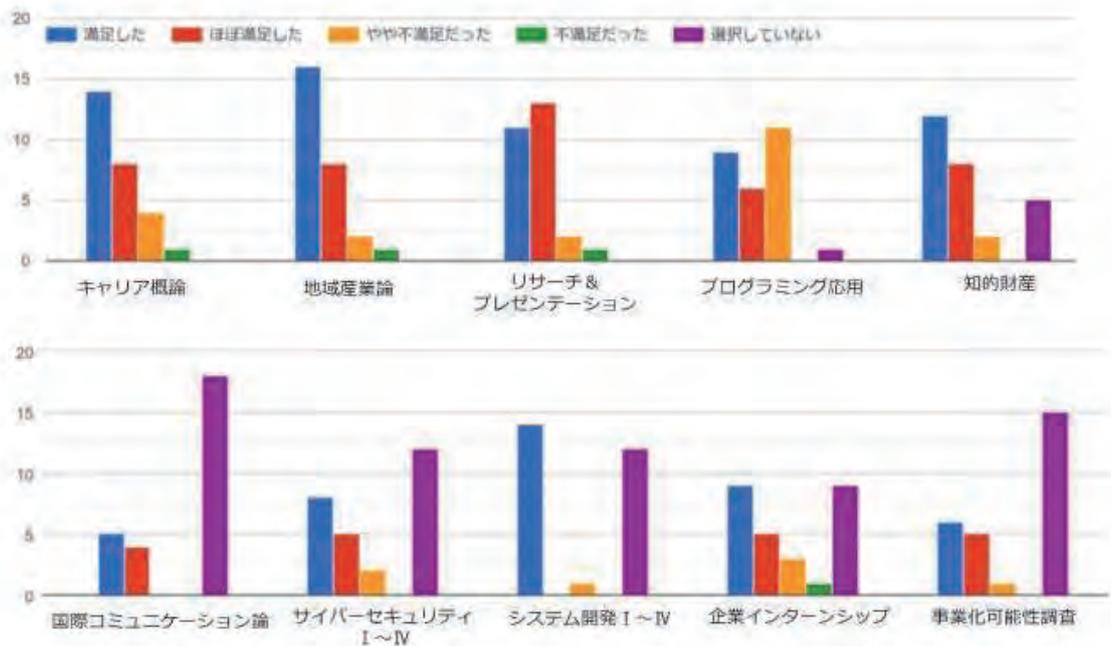


質問3. あなたの現在（プログラム終了時（11月末））の就労状況は？

27件の回答



問4. 授業（10月開講のものを除く）に対する満足度についてご回答ください。なお、受講していない科目については、「選択していない」を選んでください。



「満足した」を選択した科目名とその理由を記入してください。

地域産業論：福井の現状や今後について、実際に県の方の考えを聞くことが出来て勉強になりました。

リサーチ&プレゼンテーション：インタビューには色々な手法や大切にすべき観点があるということを知ることができました。先生の経験談を色々お聞きすることが出来たのも良かったです。

プログラミング応用：難しい内容でしたが、分かりやすく教えていただきありがたかったです。プログラミング言語によって使用用途が異なるということが分かりました。

知的財産：弁理士の先生から直接知的財産権のことを聞く機会というのは普段なかなかないので、大変貴重な経験が出来たと思います。いただいた資料も今後大切に活用していきたいです。

システム開発：希望していたシステム開発を受講でき、先生方の説明が分かりやすく、ロボットを使用した内容でとても楽しく受講できました。また、ものを作り出すうえで必要な要素について段階を踏んで丁寧に構築していくことが大事であると学べ、それがプログラムだけではなくどんな内容にでも通ずることであると改めて理解できたことはとても勉強になりました。

国際コミュニケーション論：自分の価値観と人の価値観の違い、地域ごとの考えの違いに気が付けたため。

キャリア概論：個人的に適切なお助言をいただきました。また、嶺北地方の地域のものづくり技術やその発展について学ばせていただきました。なぜ、嶺北地方が、多くの技術を産み出して発展し、経済を回していけるのかという分析もできたような気がします。

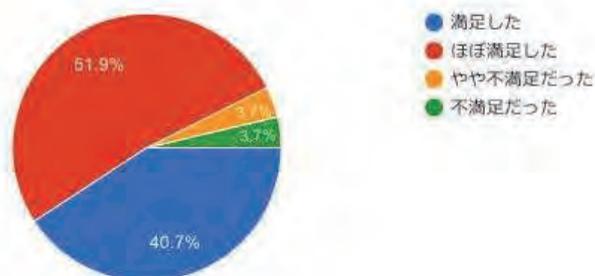
事業化可能性調査：グループで取り組んだことで、それぞれの知識を集めプレゼンできた。新事業の考え方、進め方を学べるとは思っていなかった。他の科目も同様に、仕事に直結するかしないかではなく、学んだことがない、知らなかったことを学ぶことができた。本や参考書では得られないことばかりで、とても興味深いものだった。

サイバーセキュリティ：授業内容、進め方が大変分かりやすく、2人体制であったので疑問点にもその場で対応可能であった。

インターンシップ：日頃は見ることがない現場や作業を体験出来た。

質問5. プログラム全体に対する満足度についてご回答ください。

27 件の回答



「満足した」を選んだ理由を教えてください。

学びにおいて大きな収穫がありました。「そういうことか！」と不得手の部分も多く克服できました。また、教えてくださる先生方の親心のようなものには本当に頭が下がりましたし、関係者皆様の学生に対する気付きやご配慮にも心から感謝しおしてました。学んだことは、今後なんらかの形で地域社会にご恩返ししていきたいと思っています。ありがとうございました。

独学では学べないことを学ぶことが出来ました。

ITの幅広い基礎知識を身に着ける中で自分の進みたい道を見つける事が出来たと共に、仲間が出来た事も自分にとっては凄くありがたい事でした。携わったすべての方に感謝しかありません。ありがとうございました。

基礎的な知識を学ぶことができました。ここから自主学习できそうです。

質問 6. その他プログラムに関し、自由に意見をお書きください。

働いている人、遠方の方がもっと学びやすいように、オンライン、アーカイブなどがあったほうが良い。

おおよそ行き届いた吟味されたプログラムであったと思います。初めての試みでこれだけのプロジェクトをご用意できる福井大学はやはりすごいです。

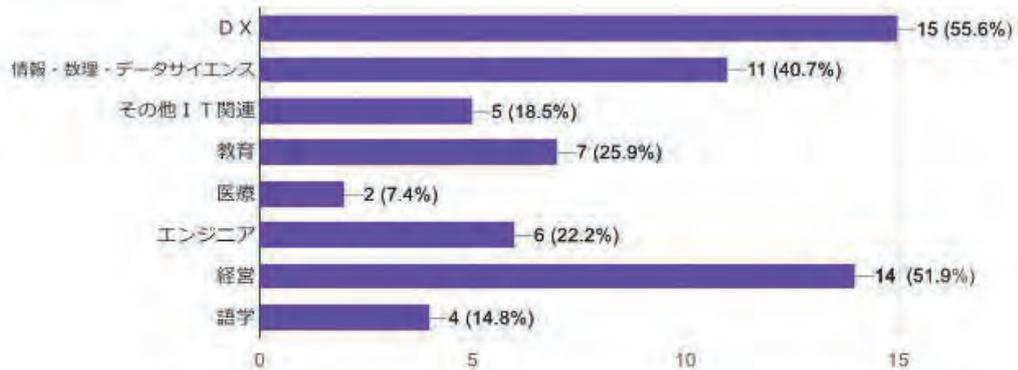
講義内容が重複していたり、基礎から応用への流れに繋がりがなかったり、時間割を把握していないなど講師間での連携がとれてなかった印象がありました。講義そのものは素晴らしかったのですが、その点は少し残念でした。

2ヶ月間は短すぎました。事前課題を充実させたりすればより効率的に学べないでしょうか。

先生方やスタッフの皆様が本当に温かく、楽しく大学に通うことが出来ました。本当にありがとうございました。

質問7. 今後、福井大学に実施を期待するリカレント教育プログラムの専攻分野は何ですか。該当する内容を選択してください（複数回答可）。

27件の回答



「その他IT関連」を選んだ場合はその分野を記入してください。

4件の回答

デジタルマーケティング

情報セキュリティ、プログラミング、ネットワーク構築

今回のプログラムはシラバスが被ることがあり理解を深められたが、その分実践的な授業を受けてみたかった。

システムエンジニア、プログラマー

「エンジニア」を選んだ場合はその分野を記入してください。

4件の回答

システム構築

電気系やIT系

電気工事、機械系、配管系（物理）、システムエンジニア

電子機械系

(6) 修了率

受講者によって、情報技能習熟度など初期のスキルに幅があること、就職を希望する企業種・職種等が様々であることなど、プログラム運営が難しい状況に対応するため、ワード、エクセル、パワーポイント等スキルを高めるオンデマンドコンテンツを作成して常時視聴することができる環境を構築したこと、授業時間や休憩時間に質問を受け付ける学生メンターを配置したこと、中間アンケート結果を踏まえ授業環境を改善したこと、企業インターンシップ受入企業との丁寧なマッチングや職歴が浅い又ははない受講者に対する本学関係者による事前の模擬面談の実施等、手厚い支援を行ったことが効果を上げ、受講者 31 名中 27 名 (87%) がプログラムを修了した。

なお、修了が認定されなかった 4 名についても、修了に必要な授業 (152 時間) は最後まで受講したものの、企業インターンシップ受入企業への採用が叶わなかったことにより、成果報告書や課題の作成意欲が低下し提出できなかったことによるものであった。

7. 就職支援及び就職率

(1) 就職支援の取組

就職支援については、福井労働局及びハローワークによる職業斡旋のほか、県内経済・金融団体等の協力も得つつ、企業インターンシップ受入企業への働きかけ等、次のような取組を展開した。

①企業インターンシップ受入企業への働きかけ

授業科目「企業インターンシップ」受講者は、当該受入先企業への就職に結びつく可能性が高いため、次のような工夫をして就職の支援に当たった。

○企業インターンシップ受入企業の確保

受講者の就職を担保するためには、一定程度以上の受入企業数を確保する必要があるため、福井大学産学官連携本部協力会会員企業を始め関係団体の企業に依頼した結果、25社を確保した（資料3-2参照）。

○受講者に対する企業インターンシップ受講希望企業アンケートの実施

受講者の就職も念頭に置きつつ、受講者と受入企業とのマッチングを円滑に進めるための参考材料とするため、9月19日（日）に受講者に対し、当日現在で受入を承諾している21社の名簿を添付して「企業インターンシップ」受講者に係る意向調査票（資料3-3参照）による調査を行った。これに対し、現在、正規雇用職員として勤務しており企業側にとって他社の社員の受入に支障があると考えられる等の理由により事業化可能性調査を選択した者9名を除く22名が企業インターンシップを選択し、企業インターンシップの受講を希望する企業名を回答した。

○受講者と受入企業とのマッチング

「企業インターンシップ」受講者に係る意向調査票の結果、選考面接時に同席した受入承諾企業の担当者の意見（自社への企業インターンシップ受入の可否等）及び受講者の職歴等を参考に、各受講者に最も相応しいと考えられる企業インターンシップ受入企業を割り振り、ミスマッチを防ぐために必要に応じ当該企業と本人との事前面談を経て、受入企業を決定した。受入企業には、本学担当者が出向き、雇用も念頭においた受入を要請した。なお、マッチングの結果、企業インターンシップ受入企業と条件が合わない等の理由により、結果として21名が企業インターンシップを受講することとなった。

○企業インターンシップ受講に向けた留意事項の周知

受講者に対しては、受入企業への就職も視野に受講に当たっての心構え（①なぜその企業を希望したのか、②当該企業に雇用された場合、自分のこれまでの経歴がどのように活かせるのか、③現在、プログラムではどのような授業を受講しているのか等を質問された場合の回答を整理しておくこと。）を全員に説明するとともに、受講直前にもメールにより再度指導した。また、職歴の浅い

又はない受講者に対しては、事前に本学関係者による模擬面談を行った。終了後には、受講者に企業インターンシップの内容、感想、受入企業側からの雇用選考への応募案内の有無等を報告させた。

②事業化可能性調査先への就職

「事業化可能性調査」を受講した者は10名であった。事業化可能性調査は、地域の企業を多面的に分析し、その企業における新規事業を市場規模、ペルソナ、実現可能性、中期事業計画までの一連の提案を行うものである。

企業を調査し提言を行う中で、当企業の目に留まり採用される可能性の高い受講者もいる（2月15日現在）。

③福井労働局・ハローワークとの連携・協力

○県内ハローワーク担当者に対し、本事業のプログラム内容や身に付く知識・スキル等のプログラムの理解を深める説明の機会を設けた。

○就職支援に関する打合せ

11月28日（日）をもってプログラムの授業が終了することを踏まえ、次の取組として受講者の就職支援を行っていく必要があるため、福井大学と福井労働局・ハローワーク福井の関係者が集まり、具体策について打合せを行った。

資料7-1：打合せ内容等

1. 日時

令和3年11月25日（木） 10：30～11：30

2. 場所

福井労働局

3. 打合せの内容・結果

プログラム受講者のみを対象として採用希望企業を募り、マッチングの場を設けてはどうかとの福井大学からの提案について検討した結果、企業と受講生の間の方向性を位置付けずにそのようなマッチングの場を設けても、企業側のニーズと受講者側のニーズは様々でありミスマッチを起こす可能性が高く、むしろ、受講者一人一人の事情に合わせて相応しい企業の紹介（就職斡旋）を行うことが最も有効な手段であると考えられること、そのため、ハローワーク福井を中心窓口としてプログラム受講者の就職斡旋を実施していくことで合意した。

併せて、福井大学とハローワーク福井の関係者でさらに具体策を検討した結果、11月26日（金）の授業終了後、受講者に対し次のとおり説明するとともに、翌27日（土）及び12月10日（金）の2回、メールで周知し取り組むこととした。

- ・先ずは12月1日（水）から15日（水）までを対象（強化）期間として相談を受け付けるので、必ずその期間内にハローワーク福井を訪問してほしいこと。また、対象期間後も就職斡旋は継続していくこと。
- ・既にハローワーク福井や県内の他のハローワークに求職登録・相談している受講者も、改めて必ずこの期間に訪問してほしいこと（今後、ハローワーク福井が受講者の情報を集約し、県内の他のハローワークとの連絡・調整を行っていくため）。その上で、受講者の居住地などの事情に応じ、県内の他のハローワークも紹介していくことになること。
- ・月初めは一般の訪問者も多くなること。時間についても昼前や閉庁時間直前は避け、仲間でまとまることなく分散して訪問してほしいこと（事前に空き時間等を電話で確認して訪問すること。）
- ・求職登録をしていない受講者は、事前にパソコン又はスマートフォンを使い「ハローワークインターネットサービス」から、必ず求職登録を完了してから訪問してほしいこと（相談の場で行うこととなった場合、登録に20～30分要し、十分な相談時間の確保ができなくなるため）。
- ・訪問する際は、本学から提供した身分証を携帯し、プログラム受講者であることを告げてほしいこと。

4. 訪問・相談人数

上記周知の結果、対象（強化）期間（12月1日（水）から15日（水）まで）の間のハローワーク福井への訪問・相談者数は13名となった。

④ふくいジョブステーション（福井県人材確保支援センター）及びその取組の案内

ハローワークの取組のほか、ふくいジョブステーション（福井県人材確保支援センター）の紹介並びにその取組について、次のとおり12月7日（火）にメールで周知し、その後、随時追加の情報を提供した。

資料7-2：周知内容

- 当センターは、人材の採用や定着、就職に関する支援サービスをワンストップで提供する公的機関で、就職未経験から転職まで一人ひとりに寄り添った支援を心掛けており、気軽に相談できる機関であること（予約制のため待ち時間もなし）。
- 当面の取組として、12月23日（木）13時より福井商工会議所にて「ミニ合同企業説明会」が開催されること、ミニ合同企業説明会は毎月1回開催されること、企業ブースを回って人事担当者と直接話すことができるので、新た

な出会いや自分では気付かなかった仕事の方向性などを知ることができ、企業と自分の理解を深めるチャンスとなること、また、この説明会は雇用保険の求職活動実績になること。

⑤福井大学独自の取組

企業インターンシップ受入企業に就職できなかった受講者等に対し、本学と教育研究面で連携・協力している企業との様々なつながりを活用した本学独自の企業紹介も行った。

⑥自主的活動

上記までの取組のほか、自分自身で相応しい企業を探し出し、就職活動を行う受講者もいた。

⑦キャリアコンサルティングの実施

- ハローワークでは、プログラム受講申込時、受講中、受講後の就職相談強化期間等において、相談に来た受講者に対する就職意識、キャリア形成に係る意識付けなどを行った。9月24日（金）に実施した受講者オリエンテーションでも受講者全員に対し最寄りのハローワークで求職登録を行うよう指導しており（資料6-7参照）、必要に応じ各受講者がハローワークに出向き、キャリアコンサルティングを受けた。全ての授業が終了した後に設けた強化期間（12月1日（水）から15日（水）まで）においては、ハローワーク福井を訪問・相談した受講者13名がキャリアコンサルティングを受けた（資料7-1参照）。
- 企業インターンシップ受講者に対しては、受入先企業への就職も視野に受講に当たっての心構え（なぜその企業を希望したのか等を質問された場合の回答を整理しておくこと。）を全員に説明するとともに、受講直前にもメールにより再度指導した。また、職歴の浅い又はない受講者に対しては、事前に本学関係者による模擬面談を行った（「①企業インターンシップ受入企業への働きかけ」参照）。
- 「キャリア概論」では、5～6名の少人数クラス分けによるメンター制を取り入れ、各担任が毎回一人を指名し、企業インターンシップ受入企業等、特定の企業の調査・分析及び発表を行わせ、他の受講者も交えて、当該企業を調査対象とした理由、就職希望の有無、就職に向けてのこれまでのキャリアやプログラムで学び身に付けたスキル・能力の活かし方等について意見交換する中で、キャリア形成のヒントを得、また他の発表者の経験を自分の今後に活かす機会となり、実質を伴ったキャリアコンサルティングの場となった。

（2）就職率

本学の就職率の数値目標は80%とした。上記（1）の取組の結果、修了者27名のうち、受講開始時に非正規雇用労働者である者及び失業者等の職を持たない者18

名に対し就職又は内定を受けた者は8名（正規雇用労働者5名、非正規雇用労働者2名、非正規雇用労働者から正規雇用労働者となった者1名。2月15日現在）、その割合は44%となり、プログラム修了（令和4年1月21日）後3か月以内の数値目標（80%）の達成に向けて、今後も手厚い就職支援を継続する予定である。なお、就職率算定の対象にはならないが、正規雇用労働者9名のうち5名が本プログラムの成果を活かして転職しており、この点も踏まえれば本事業の趣旨に沿った一定の成果が得られたものと考えている。

（3）その他

①就業先企業アンケート

受講者が就職した企業のうち9社（2月15日現在）に対し、このプログラムにより身に付けたスキル・能力が雇用に至った要因となったか等を質問項目として、プログラム内容の検証・分析を行うとともに、今後のリカレント教育の改善に資するため、次のとおりアンケートを実施した。

○アンケート期間：1月6日（木）～2月15日（火）

○回答企業数　　：9社

○質問事項・回答：アンケート結果のとおり

質問4. このようなプログラムの受講により、ITスキル、ビジネスマナー等の総合的な人間力が育まれた人材を今後も雇用したいと思いますか。該当する番号を○で囲んでください。

(1) 思う (9社)

(2) 思わない

「思わない」を選んだ場合は、理由をお書きください。

--

質問5. 今回のプログラムの内容・レベル等について、意見・要望があればお書きください。

○カリキュラムの目指すところ、また応募者の思いと就業体験として受け入れる企業の実際とでは、やはりギャップがあり、リカレント教育としてうまく機能したのか否かという観点ではやや疑問が残る。(1社)
--

質問6. 今後、福井大学に実施を期待するリカレント教育プログラムの専攻分野は何ですか。該当する番号を○で囲んでください。(複数回答可)。

(1) DX (5社)

(2) 情報・数理・データサイエンス (2社)

(3) その他IT関連(分野:) (6社)

分野: ○HPの情報発信力 (1社)

○ソフトウェア・インフラ (1社)

○IoT、AI (1社)

○インフラエンジニア (1社)

○企業内のIT機器の連携、機器毎のプログラムの連携による効率化

(1社)

(4) 教育

(5) 医療 (1社)

(6) エンジニア(分野:) (1社)

(7) 経営 (1社)

(8) 語学

(9) その他 () (3社)

分野: ○農業 (1社)

○看護・介護 (1社)

○年代別に創業・事業化に対する適正分野とそれぞれの分野における経営ノウハウを学ぶことができる講座 (1社)

②就業先企業・企業インターンシップ受入先企業の担当者と就業者等との意見交換会の開催

受講者が就職した企業及び企業インターンシップ受入企業の担当者を招いて就業者やプログラム実施関係者と意見交換を行い、プログラム内容の検証・分析を行うとともに、今後のリカレント教育の改善に資するため、次のとおり意見交換会を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染状況の急激な悪化のため、中止した。

資料 7-4 : 意見交換会の概要

1. 日時

令和4年1月21日（金）

20時～20時45分

2. 場所

アカデミーホール集会室（文京キャンパス）

3. 次第

プログラムに関し、参加者によるフリートーク

4. 参加者

- ・プログラム修了者（21名）
- ・事業総括責任者、事業実施委員会委員、プログラム開発・事業実施責任者、キャリア概論クラス担任（4名）
- ・就業先企業・企業インターンシップ受入先企業の担当者（7名）

8. 成果と課題

(1) 事業概要

①成果

○本学が事業を通じて達成を目指す定量的な数値目標について、次のとおり達成した。

- ・新型コロナウイルス感染状況の悪化等にもかかわらず、1プログラムを計画どおり令和3年10月1日から実施し令和4年1月21日に修了した。受講者の修了率も87%（受講者31名のうち27名が修了）と高く、プログラムが円滑に実施されたことを反映している。
- ・効果的な広報活動や可能な限り申込希望者の要望に応じて開催した個別説明会により、募集人員30名を大幅に上回る57名の申込者があり、選考の上、目標値30名に対し31名の受講者を決定した。
- ・雇用側の視点を反映した選考面接の実施、企業へのプログラム内容や身に付く知識・スキルの説明、「キャリア概論」におけるキャリアコンサルティングの実施、労働局・ハローワークと連携・協力した手厚い就職支援等により、目標値80%に対し就職率は44%（2月15日現在）となり、プログラム修了（令和4年1月21日）後3か月以内の目標値達成に向けて、引き続き取り組んでいく予定である。なお、就職率算定の対象にはならないが、正規雇用労働者9名のうち5名が本プログラムの成果を活かして転職しており、この点も踏まえれば本事業の趣旨に沿った一定の成果が得られたものと考えている。
- ・受講者の情報技能習熟度など初期のスキルの個人差を勘案した手厚い受講支援、コースをサイバーセキュリティとシステム開発の選択制とするなど専門性を高めるプログラム等の工夫により、受講者及び就業先企業の満足度は、目標値80%に対しそれぞれ93%、89%となり、目標値を上回った。

②課題

- 学内教員を授業担当講師に活用することは通常業務への負荷となるため、インセンティブ供与やバイアウト制度による財源を含めた支援があることが望ましい。またプログラム実行にあたっては職員の支援も必須であり教職協働という観点からも職員に対するインセンティブも併せて考慮する必要があると考えている。今後は退職教員の利活用など教員リソースの確保の方策を検討する必要がある。
- 委託事業の採択後、7月中旬の契約からプログラムの開始（10月1日）までのスケジュールが厳しく、受講者・運営者双方にとって余裕のないプログラムとなったので、今後はその点に配慮が必要である。
- 職業訓練受講給付金制度により授業時間数を1か月あたり60時間以上とする

必要があり、また失業者等無職の者に加え職業を有する転職希望者との受講の両立を図るため、週末を中心としたカリキュラムにせざるを得ず、正規雇用労働者、非正規雇用労働者を問わず職業を有する受講者にとってはかなりの負担となった。

- 事業の数値目標として就職率を掲げること自体は、事業の趣旨に鑑みやむを得ないが、そのことだけに囚われると事業の本質を見誤る恐れがある。事業の真の効果を測るためには、就業後も追跡調査をすることが重要であり、それを担保する財源（人件費等）を確保する方策の検討が必要である。

(2) 連携体制

①取組の概要

- 県内の産（福井県経営者協会、福井大学産学官連携本部協力会、福井大学同窓経営者の会）、学（県内高等教育機関）、官（福井労働局・ハローワーク、福井県）、金（福井県銀行協会）が、各々の役割を果たすとともに、調整・取りまとめ役となる事業実施委員会が中心となって事業を運営した。

②成果

- 事業の広報、受講者募集、受講者の選考、プログラムの運営、企業インターンシップの実施、就職支援等において、事業実施委員会の調整の下、各機関が連携を密にして取り組んだことにより、募集人員を大幅に上回る申込者数、高い修了率、就職率、受講者・就業先企業の満足度が得られた。

③課題

- 事業を円滑に進め今後も当事業を継続・発展させる上で、受講者に係る就労体験の場を提供し、最終的には雇用する立場にある企業側の本事業に対する理解・協力が必要不可欠である。事業を実施する大学等や関係機関はもとより、国全体として経済界に対する事業への理解を深める取組の積極的な展開が必要である。

(3) プログラムの内容

①取組の概要

- 本事業では、令和3年10月、11月の2カ月間を、就業活動前の教育期間として、選択科目を含め1人当たり152時間の教育プログラムを実施した。

(企業インターンシップ)

- 企業インターンシップ受講者は、当受入企業への就職に結びつく可能性が高く、一定程度以上の受入企業数を確保するため、福井大学産学官連携本部協力会会員企業を始め関係団体の企業に受入を依頼した結果、25社を確保した。
- 受講者と受入企業とのマッチングを円滑に進めるため、受講者に対し企業インターンシップ受入承諾企業の中から受講を希望する企業について順位を付し

て回答を要請した。この結果に加え、選考面接時に同席した受入承諾企業の担当者の意見（自社への企業インターンシップ受入の可否等）及び受講者の職歴等を参考に各受講者に最も相応しいと考えられる企業インターンシップ受入企業を割り振り、必要に応じ当該企業と本人との事前面談を経て、受入企業を決定した。

- 受講者に対しては、受入先企業への就職も視野に受講に当たっての心構え（①なぜその企業を希望したのか、②当該企業に雇用された場合、自分のこれまでの経歴がどのように活かせるのか、③現在、プログラムではどのような授業を受講しているのか等を質問された場合の回答を整理しておくこと。）を全員に説明するとともに、受講直前にもメールにより再度指導した。また、職歴の浅い又はない受講者に対しては、事前に本学関係者による模擬面談を実施した。
- 終了後には、受講者に企業インターンシップの内容、感想、受入企業側からの雇用選考への応募案内の有無等の報告を要請した。また、受入企業には、受入期間・研修内容等を記載した受入証明書の提出を要請した。

（事業化可能性調査）

- 受講者 10 名が、1 名または 2～3 名で地域の企業を多面的に分析し、その企業における新規事業について、市場規模、ペルソナ、実現可能性、中期事業計画までの一連の提案を取りまとめ、中間発表会を経て最終発表会で成果発表を行った。

②成果

（企業インターンシップ）

- 受入企業を一定数（25 社）確保し、かつ、受講者と受入企業とのマッチングを、時間的余裕がない中にあってもできるだけ丁寧に行った結果、お互いの条件が合わず事業化可能性調査に変更する事案も含めて、マッチングの手続きを概ね円滑に進めることができ、また、企業インターンシップ自体も特段のトラブルもなく全員が最後まで受講した。
- 受講者による企業インターンシップの成果発表について、受講者 21 名のうちプログラム未修了者 4 名を除く 17 名が、1 月 21 日（金）に本学関係者、事業実施委員会委員のほか、受入先・就業先企業 7 社の担当者の参加も得て本学で実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染状況の急激な悪化のため、中止した。このため、授業評価については、提出済の成果報告書を基に各クラス担当教員が行うとともに、担当クラス以外の受講者に係る成果報告書も相互に確認した結果、17 名全員が認定（合格）された。

資料 8-1 : 企業インターンシップ成果報告書

研修内容:エンジニアリング事業部による 設計学習/営業研修

OPLC (Programmable Logic Controller)による制御設計

- ・パライトを使った設備稼働状況IoT化
- ・信号機制御(タッチパネル画面設計/信号機点灯消灯制御設計)

○ロボット制御設計

- ・産業用ロボットと協働ロボットの違い
- ・協働ロボット チャッキング動作制御設計

○営業研修

- ・制御盤製作 協力会社様との打ち合わせ
- ・老朽化設備 モーター更新のためのお客様現地確認



より良い「くらし」づくりのサポーターとして
お客様に対して提案力が重要(モノ売り 技術売りだけでダメ)

・セキュリティについて

→ DDoS攻撃、Webサイト改ざん攻撃などについて

→ 他人事だと思わず、日頃からサイバーセキュリティに関心を持つと思った

・転職者からのアドバイス

→ 企業研究の仕方や面接時のコツなど

→ 自身の就職活動にも生かすことができた

・「良いフォームとは？」を考える

→ この思考は要求分析をする際にも役立つと思った

→ アプリやWebサイトなどの好きな機能や嫌いな機能を考える重要性に気付いた

・Webフォームを改修する

→ 多面的な視点で考えることが重要だと考えた

→ 実際に自分が使っているアプリやWebサイトなどを日頃から観察しようと思った

・業務内容: Graphic Design WEB Design Total Produce

・研修内容: ホームページへの情報入力、ECサイトへの情報入力、写真撮影に同行しアテンド

・気づき: ①自分たちの自己満足のデザインでなく、お客様の要望を細かく聞いて、大切にしていることを残しながら、さらに良いかたちを提案していくことが重要
②ホームページは管理者とユーザー双方が、使いやすくないといけない

得られた成果: 今までの経験からお客様の思いを代弁することができ、より良いホームページ制作へ貢献ができた

福井大学リカレント教育プログラム 企業インターンシップ成果報告

2022/1/21

会社紹介	部署紹介	インターン内容
<p>製造業・繊維 素材メーカー(成形製品の製造)</p> <p>・創業22年目 (創業者が現CEO 非上場)</p> <p>・事業所数 国内33 海外13</p> <p>本工場の理由</p> <p>・自社製造の企業への興味</p> <p>・HPD印象 (デザイン/ブランディング/海外展開)</p> <p>・自社ECサイト有</p>	<p>産業素材部門</p> <p>FRP※の基材製造</p> <p>→ 鉄筋コンクリート = 鉄筋 + コンクリート</p> <p>FRP = 基材 + 樹脂(プラスチック)</p> <p>基材の種類</p> <p>→ 炭素(カーボン)繊維(CFRP)/ガラス繊維(GFRP)</p> <p>製品例</p> <p>→ 高級車のルーフ-航空機のファンケース</p> <p>製造品</p> <p>→ 大量生産前のサンプル品の製造</p> <p>実験及びデータ取り(=新素材開発)</p> <p>知財関係業務(特許出願など)</p>	<p>部品部補出業務</p> <p>JIS規格によるFRP試験品の引張試験※2</p> <p>→ 工場の実験室にて、実験の実施</p> <p>データまとめ</p> <p>→ 上記実験で得たデータ(大量のCSVデータ)を、報告書に利用可能な形に変換(Excel/グラフ化)</p> <p>アプリ開発※3:製造ラインの調整</p> <p>→ オペレーターごとの部品種や数量の違いを実現するため、規格計「開閉」パートのパラメータ調整手作業にて行う部分も</p>
<p>得られた成果・気づき</p> <p>自身の(バックグラウンドが私大出身かつ前職が完成品(自動車)を仕入れて販売する販売職であったため、繊維産業は勿論、製造業の自社生産・開発の現場に立ち入ること未知の体験で、新しい知識と発見に恵まれたインターンとなった。本プログラムでの学習が生きた点としては、データまとめ(データテラナーデータサイエンス基礎)や知財関係(特許制度)が主に学ばれた。海外出身者としては、製造業論で産学官連携を学ぶ機会が自分たち同期生と比べて多かった。また、プログラム全体を通して、国内出身の受講者の積極的な交流と親近性に驚かされた。受け入れ企業側からの丁寧なコミュニケーションに改めて気づきを感じた。今回のインターン実現のためにご協力いただいたプログラム関係者や受け入れて下さった皆様、そして受講生の仲間たち改めて深く感謝申し上げます。</p>		

研修内容 ○○にて福井県産の工芸品を販売 出展ブースの設置解体

- 1日目 什器の組み立てを行いブース設置を行いました。
- 2日目 ピラ配り、店頭での活気だし、商品説明、レジ作業を行いました。
- 3日目 昨日同様の作業と出展ブースの解体を行いました。
- 4日目 zoomにて改善点、反省点の共有

今回のインターンシップでa.department store 福井県の工芸品販売を行いました。店頭での呼び込みや接客、ポップの位置などを客観視したイベントブースの改善などを期間中に行い、研修最終日に社長を交えての意見交換やSNSでのトークライブイベントに出させていただきました。

研修で私が学んだことは、相手を楽しませることです。何かを買って貰うために買って良かったと思って貰うことが大事なんだと知りました。その為に押し売りするのではなく、相手を楽しませて笑顔にして、この人から買いたいと思って貰うことが大事なのだとわかりました。

研修を終え内定を頂きましたが今後とも初心を忘れずに頑張ろうと思います。

インターンシップ内容

感想 現場の雰囲気や新情報を知れた。

1days: 企業説明&工場見学

- ・企業説明 (新卒向け)
- ・本社工場の製造設備を見学

2days: 複合製造部で就業体験

- ・段ボールのバリ取り、組み立て

3days: ○○の工場見学&就業体験

- ・○○を見学
- ・カット作業 梱包

4days: 開発部、生産技術部の見学&体験

- ・部署について説明
- ・物性検査体験

現場の雰囲気

- ・目線がハッキリしていて働きやすそうだった。
- ・バイトなど立場に関係なく働けそうだった。

新情報

- ・入社後の配属 入社2~3年 異外施設 → 本配属
- ・転職者や中途採用は多い。
- ・バイトから正社員への登用は積極的な姿勢。

企業へ貢献できたこと

- ・製品のPR動画を作成した。
- ・掃除など積極的に仕事を引き受けた。

研修内容

- ・初日と2日目はシステムを納品する直前のテストを経験させていただいた。大きすぎるなどの理由で用意できない機材については、代わりのものを用意し、実際のものと同定してテストを行なった。
- ・最終日には、自分でパソコンに初期から入っているような電卓を作り、その後どんな機能を追加したいか・できるのかを考え、要件定義をした。

得られた成果

- ・システム納品前のテストなどを体験させていただいた事で、プログラムで学んでいた流れを実際に体験することができ、大変良い経験になった。
- ・担当していただいた部門の方々とお話しさせていただいたことで、現場ではどのような雰囲気でお仕事をされているのかを直接感じることができた。



インターンシップ先からいただいた資料

研修内容

- ・会社紹介及び見学、商品説明、県民衛星プロジェクト説明、Excel講習、資料作成、発表

得られた成果・気づき

- ・様々な立場の人に活躍の場があり、人を大事にする様子の深さを感じた。その為の努力が有休取得や休日の多さなどの働きやすさとしても現れている。
- ・システム開発において情報通信技術も必要だが、それ以外にもシステム提供先の業界の現状、顧客ごとのニーズを正確に把握し対応することが重要である。
- ・業界No.1の商品（総合スポーツクラブシステム）など安定感のある事業がありながら衛星プロジェクトに取り組むなど、現状維持ではなく挑戦する向上心がある会社である。その姿勢が社員一人一人に届いており、それぞれの立場で高い意識（現状維持ではなく改善する姿勢）をもって仕事に取り組んでいる姿があった。そこに会社の力強さの本質があると感じた。その姿と重要性を体験できたことが大きな学びであった。

研修内容

営業先への月刊〇〇や新聞枠への掲載の持ち込み営業

CMや特番などの参加持ち込み営業

ギフトカタログの掲載営業から写真撮影

↓

気づき・成果

今回、担当社員さんと一緒に営業に回わり年末の新聞掲載の持込を見学させていただきました。担当社員さんと営業所の方たちの熱意がすごく、レイアウトのサンプル作成一つとっても印刷する紙質の違いで、実際に掲載される色合いなどが違いが出るため、実際の紙質に近い物を用意しサンプルを作って何度も意見を交換し合うのだそうです。

また、ギフトカタログや月刊〇〇への写真掲載の写真撮影にも最初から立ち合い撮影担当者・依頼者・担当社員さんで何度もレイアウトを変えたり、位置取りを変えたりしながら1枚の写真を取るのに数時間を要したりとその作りにての熱意が伝わりました。

自分もPR部の社員の方々のように一つ一つの仕事内容に熱意を持ちより完成度の高い仕事結果がたせるよう努力していきたいとおもいます。

■

ソフトウェア開発・運用。全国の地方自治体向けの業務用パッケージシステム、和洋菓子専門店向けPOSシステム、物流倉庫向け在庫管理システム

事業内容

- ◆架空のWEBショップのデザインをお客様の要望を加味して使いやすいつページに修正する 【使用ソフト：EXCEL】
- ◆高齢者支援サービスシステムをお客様の要望を加味してフォーム、プログラムを変更する 【使用ソフト：ACCESS】

研修内容

- ◆複数に分かれていた検索画面を1画面で検索できるように、またジャンル別でも検索できるようデザインした。ランキングやおススメなど売上げにつながるよう画面設計を工夫した。そのままHTMLで表現できるようリアルタイムにこだわり修正した。
- ◆ACCESSの設定の変更や、既存のプログラム内の変数の定義を調べ修正した。2つのコンボボックスの選択数が増加して変更できるようにプログラムを修正したり、注意喚起メッセージボックスがでるようWEB年で調べプログラムを修正した。

得られた成果

- ◆エンドユーザーにとっての使いやすさ、エンジニア側の後の運用を考慮すると画面数は極力少なくするほうが良い。またアクセシビリティ対応、読み上げ機能についても考慮し、ハンディのある人にも使いやすいシステムにすることが大切である。

気づき

- ◆新たな開発案件より、既存システムの修正の割合が多いので他の人に読みやすいコードを書くこと、自分の技術不足の自覚や新たなプログラミング言語を学び仕事の幅を広げていく姿勢がエンジニアには大切である。

研修内容

- ・システム開発、セキュリティについての講義
- ・電卓アプリ作成(プログラミング初挑戦)

得られた成果

- ・システムの設計、開発、試験の具体的な工程の理解
- ・セキュリティソフトの動作の理解
- ・システム開発に必要な考え方の習得
- ・実際に利用するイメージを持つ
- ・ソースコードは分かりやすさを意識する

作製した電卓アプリ

インターンシップ 成果発表

1日目

- ▶ 銀行の仕事とは
- ▶ システム形態、情報管理やセキュリティ
- ▶ 転職経験のある先輩方からの話
- ▶ 銀行のシステム部門に求められる人材とは

2-3日目

- ▶ 事業内容、数字から見る企業紹介、求められる人材、社員教育
- ▶ webフォームにおけるUI/UX
- ▶ 【実践】webフォームの改修

気づき

- ユーザーの視点に立ったモノづくり
- 技術+人間性（コミュニケーション力・時間配分等の管理能力）が必要
- 普段からデジタル社会への興味を速く持ち、変化・成長を楽しむことの大切さ

・インターン研修内容

1) 業務内容の説明

4つの部署があり、それぞれの特徴やどのような業務を行っているかといった説明を受けました。
地域と密着性の高い部署から、大手ベンダーとの仕事など、幅広く取り扱っていることが伺えました。

2) システム開発に関する座学

システム開発の大まかな流れの説明を受けました。

3) Visual Studioでのプログラミング実習

統合開発環境を使って簡単なアプリを作成しました。
まず簡単な画面上で作成したボタンをクリックすると「HELLO WORLD!」と表示されるものから作成しました。続いては簡単な計算アプリとして、2つのテキストボックスに入力した数値を足し算して答えを表示する物を作りました。基本的には最初にヒントを与えられて、あとはネット検索して調べるといった感じです。
最後は電卓アプリを作成しました。単純に電卓といっても、いざ作るとなると非常に複雑で約3日間は試行錯誤する内にあったという間に時間が経過していきました。インターンとしては斬新な内容と感じましたが、想像していたよりも遙かに大きな経験が出来たと感じました。

研修内容

システム開発を主にしているという事で、今回の研修ではITという言葉を使って電卓のシステム開発を行いました。

得られた成果

プログラミングの基礎である、構築の考え方や考えを実行に移す際に必要になる技術面も教えて頂いて学ぶことが出来、他の言語にも活かしてより深くプログラミングについて理解出来るようになりました。

気づき

プログラミングで作成する物は、最終の結果は同じでも考え次第で、人によって工程異なっていたりと、実際に経験するまで分からなかった部分を知ることが出来、すごく楽しかったです。
今回私は考え方の部分に置いて、アレンジを加える所までいけませんでした。知識を増やしていけば自分の考えや企業が必要とするものを、全てプログラミングで行える点も面白いと感じました。

研修内容

1日目: めっき技術紹介、めっき体験、めっき分析体験

2日目: 半導体めっき加工生産システム概要説明、クリーンワークの教育、ウエハハンドリング、めっき実験

3日目: めっき実験、外観確認と測厚測定、品質検査について、自動外観検査機の説明

得られた成果

製造工程内は自動化の設備の導入が進んでいる。自動外観検査機にはAI機能が搭載されていて、人が製造現場でどのように活用されているのかわかることができた。自動外観検査機は、ある設定値からAIによって予測判断を行い、不良品の良品を自動で判断することができる。人による作業は体調や気分の変化によって判断ミスが発生しうるが、自動判断によって判断ミスの低減、工数削減や作業効率アップにつながる。一方で、自動外観検査機には種かく初期設定をする必要があり、動かすまでに時間を要するため事前準備がとても重要であることを学んだ。

気づき

〇〇では自社の生産工程進捗管理システムや、工程の自動化装置の導入、文書管理の電子化によるペーパーレスを実現していて、製造現場にITを積極的に取り入れていることが印象的。自動化装置などの開発は自社で行っているため、実際に使用する作業者が使いやすいようシステム設定ができています。自動化を進める動きがとられていて、業種にも対応しようとしているため常に先を競って新しいことに挑戦し続けている地産地消型の成長企業だと感じました。

<h3>事業内容</h3> <ul style="list-style-type: none"> • 電設資材、通信機器、制御機器の販売や、それらを組み合わせたシステムソリューションの販売 • オフィス環境設備商品の販売 <h3>内部部署</h3> <ul style="list-style-type: none"> • ぐんざいコラが事業部...電気工事で使用する部品の販売 • エンジニアリング事業部...産業用制御部品の販売や設計 • 業務部...商品の仕入れや在庫管理 • 管理部...経理や福利厚生各種手続 	<h3>研修で得られた成果・気づきなど</h3> <p>■B to Bのルートセールスが主な営業活動で、普段からよく関わっている方々とのやり取りが多いように思えた。そのため、今自分が従事している、広く社会一般のお客様を対象としたB to Cのサービス業では実感することが少ない、相手側との信頼関係を体感した。</p> <p>■セキュリティについて、部署や業務によって情報へのアクセス権限を設定し、不必要なデータアクセスを防いでいた。仮想プライベートクラウド(VPC)や統合脅威管理(UTM)を活用して社内独自のシステムを構築していた。</p> <p>■環境マネジメントシステム(ISO14000)取得や館内節電などの環境対策、インターン受入れによる人材育成、ノー残業デーの導入など、社会の課題にも積極的にかかわっている印象を受けた。</p>
<h3>研修内容</h3> <p>各部署の業務を幅広く体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ■各事業部の営業 <ul style="list-style-type: none"> • 販売した制御機器を載せる棚を、依頼主と確認する業務に同行 • 依頼主、施工業者との実地調査に同行 ■業務部での商品管理 <ul style="list-style-type: none"> • 商品の仕入れ業務や、入荷した商品の種類や個数の確認などの検品業務体験 • 売掛金・買掛金のデータ処理 ■組織内セキュリティシステムの説明 	

研修内容

- 設置されたカメラから送信され、フォルダ内に保存された画像をHTMLを使って表示する
(2021年1月9日6時1分~6時10分の10枚)
- [日付変更]ボタンをつけて2021年1月10日の画像に切り替わるようにする
(2021年1月10日6時1分~6時10分の10枚)
- HTMLページを2枚作成し、[日付変更]ボタンによって1ページと2ページを行き来できるようにした

成果

- HTMLでフォルダから写真の挿入(パスの理解)
- ボタンの作成(ページの切り替え・文字のサイズ変更)
- フォント、色の変更
- 画面の中央に画像、文字が来るように設定

感想

見本や参考物がない状態で、自分で完成図を想像して1からプログラムを書いていくことが難しかった。プログラムを書き直し上手く動作したときに楽しさを感じた。

(事業化可能性調査)

○転職希望者は現職を持っているため、企業インターンシップにおいて受入企業側の就業時間に合わせることができないことから、県内企業の新規事業を新規提案する事業化可能性調査を行った。以下の内容を授業時間 24 時間における調査方法の説明と成果発表の他に、各自（各チーム）が別途の時間において企業調査・市場調査とプレゼンテーション資料を作成した。

- 1 対象企業を決定する
 - 2 多角的展開に関しての必要性と可能性、将来的な成長性、資本余力などを検討する
 - 3 対象企業の強み、弱み、機会、脅威を洗い出す
 - 4 技術・商品・サービス・市場などを多面的に考察する
 - 5 対象企業の戦略を知る
 - 6 全社戦略を把握したうえで、事業戦略、製品戦略につなげる
 - 7 新規事業コンセプトの作成
 - 8 チーム（個人で取り組む場合も協力）でアイデアの数を出す
 - 9 アイデアの絞り込みと優先順位を決定する
 - 10 「市場の成長性」や「競合他社の状況」「アイデアの実現性」について評価し決定する
 - 11 提供価値を顕在化する
 - 12 「顧客がだれか」「顧客が満足する価値はあるか」「詳細な顧客像」を描く
 - 13 マーケティングと仕組みづくりを考える
 - 14 どのように顧客に認知してもらい、購入させ、リピートさせるのか、そのための仕組みを描く
 - 15 財務計画（5年間のロードマップ）を、投資額と売上、費用、利益面から説明する
- 受講者の中間発表、最終発表において、受講者 10 名（6 チーム）全員が実施し、合格した。

資料8-2：（最終発表資料より その1（3名））

SWOT分析	
Strength(強み) <ul style="list-style-type: none"> 福井では類似企業なし 店舗にてデントの実サイズがわかる 県内技術コラボ(アウトドアナイフ、サングラス) 複数の店舗でジャンル分け 福井県(山・川・海) オリジナルブランドあり アウトドア用品のフリマイベント開催 福井の土地の安さを活かした広い店舗 防災用品として使用できる 新規事業展開に積極的(飲食店) 中学生に課外授業で指導経験あり 	Weakness(弱み) <ul style="list-style-type: none"> 一度購入するとすぐには買い換えない ECサイトの商品展開がわかりにくい オリジナルブランドの商品展開が少ない ECは他社との差別化が難しい セレクトショップなので新規参入しやすい SDGsへの取り組み、アピールがされていない EC/店舗名/社名がバラバラ WEBサイトに遷移リンクがない 始める時ハードル高い
Opportunity(機会) <ul style="list-style-type: none"> アウトドアブーム キャンプ場・グランピング施設が多くある コロナ 自治体との連携 アウトドア用品、買い揃えたいくなる YouTubeへの投稿 クラウドファンディング達成(坂井市海浜自然公園) 	Threat(脅威) <ul style="list-style-type: none"> 同業他社(好日山荘、モンベル、セビオなど) アウトドアブームが去った後 自然界の変化(熊などの害獣) 自然災害



アイデアの絞り込みと優先順位の決定

	市場の成長性	競合他社の状況	アイデアの実現性	アウトドア好きになるか
キャンプ場女性専用エリア	◎	○	○	◎
アウトドアフェスティバル	○	○	◎	○
狩猟体験	△	○	○	○
青空ごはん	△	○	◎	○
防災グッズの展開	◎	△	○	△

財務計画

単位:円

	2022年/2月期	2023年/2月期	2024年/2月期	2025年/2月期	2026年/2月期
①売上高	17,798,400	22,248,000	31,147,200	32,259,600	35,596,800
②売上原価	8,908,000	8,630,000	9,134,000	9,197,000	9,386,000
③売上総利益 (①-②)	8,890,400	13,618,000	22,013,200	23,062,600	26,210,800
④販売費及び 一般管理費	4,680,000	4,240,000	4,040,000	4,040,000	4,040,000
⑤営業利益 (③-④)	4,210,400	9,378,000	17,973,200	19,022,600	22,170,800
⑥売上高内訳	来場人数:1440人 平均単価:12,360円	来場人数:1800人 平均単価:12,360円	来場人数:2520人 平均単価:12,360円	来場人数:2610人 平均単価:12,360円	来場人数:2880人 平均単価:12,360円

(最終発表資料より その2 (2名))

<p>強み</p> <p>送り出した感がある、恥ずかしくない 世間体を守った 立派なお葬式ができる 規模に合わせて予算を決める 面構えが良い 宗旨・宗派問わない キッズルームがある 会員価格がある 顧客はクレームを言いにくい 口コミの力が強い 式以外にも売れる商品がある 宗派をよく知っている 顧客は全てを委ねる傾向有り 相談が多岐にわたる 2040年までは増える 接客スキルが高い 長年に渡り色々な要望に応えてきた</p>	<p>弱み</p> <p>カスタマイズの金額が不明瞭 遠方の親戚が間に合わない しきたりが分からない 式場が限られている 馴染みの場所で式が出来ない 高齢になれば、友人も少なくなるブランド力が弱い 対象者がわからない(必要とされるのが契約数時間前) 土地で利用者が限られる 宗教観が薄れている(ほほないかも) 肉体労働 地域が変われば風習が違う 代わり映えしない、大きな差別化が難しい</p>
<p>機会</p> <p>故人に思いをはせる 喪主の機会は少ない 家族が逝去して初めて利用する 参列機会の減少 (近所の葬式には不参加等) 県内7ヶ所にある 子供から高齢者まで参列し、葬儀を体験できる 必ずあるライブイベント 高齢化でますます増える 特典会員の募集で早期顧客獲得 ステークホルダーが多数のため販促が一緒にしやすい</p>	<p>脅威</p> <p>相談場所の数店が高い 家族が亡くなった事を第三者に知られる 世間様の見えないうる圧力 人付き合いは苦手 葬儀社の言いなりになるしかない 高額の支払い 親世代、子世代の宗教観の違い (宗派、菩提寺知らない) 葬儀以外の他業種を手広くやっている他社がいる 感染症が流行して規模が縮小され、簡素化された 参列者の減少 (香典返しや供物の減少) 安い料金パックの出現 失敗すると信頼がなくなる</p>

	明瞭金額	参加者の満足感	目新し感	世間の目
① 必要な物だけチョイス バスル方式でカスタマイズする 葬儀プラン	○	○	×	○
② 自宅葬 家族だけで最後の時間を過ごす	△	○	○	△
③ 直葬+お別れの会 家族だけと縁がある人で偲ぶハイ ブリット	○	◎	○	△

いつものリビングから、愛する人を送り出しましょう
最後の時間をご家族だけでお過ごしいただけます



(最終発表資料より その3 (2名))

SWOT分析

内部環境	<p>世界観 (トレンドに左右されない)</p> <p>コアなファン層 (年間100万円購入するプラチナメンバー300人)</p> <p>土曜寄附オンラインサロン(月1回)が開催されている</p> <p>商品のレゾナンス (完全受注生産・ファミリーセール1点物・コラボ服)</p> <p>1週間に1回新商品が出る</p> <p>クラシカルな分野のため一部を取り入れると女性らしい上品さが生まれる</p> <p>社長や社員(会社全体)で顧客からの声を取り入れ参考になっている</p> <p>大規模商業施設に店舗が設置されている</p> <p>通販全体での公式通販サイトの売上が80%を占めている</p>	<p>縫製があまり・毛玉になりやすい</p> <p>男の子&男性・ユニセックスのラインがない</p> <p>公式通販サイトとアプリがごちゃごちゃ(視線が散漫)</p> <p>写真のテキストに統一感が欠けている(可読性の高さ)</p> <p>アプリがAppleStoreのみ(スマホファーストである)</p> <p>スキントーン(肌の色)に合わせるのが難しい(合わない肌色が発生する)</p> <p>体型を選ぶ服が多い</p> <p>世界観が強く好き嫌いがハッキリしており万人受けしない</p>
	外部環境	<p>他企業とのコラボ頻度多数(認知度の上昇)</p> <p>DtoCブランド取扱</p> <p>サステナブル(廃棄0運動)</p> <p>廃棄0プロジェクトの一端として完全受注生産を導入</p> <p>廃棄0プロジェクトの一端として不要な洋服を回収し古着として再販または生地を再活用</p> <p>完全受注生産時にはAI技術を活用した着用感がわかる動画・写真を用意(3D・CGデザイン「バーチャルクローゼット(豊島株式会社)」を活用)</p>

SWOTクロス分析

機会	<p>S 強み</p> <p>コラボ×完全受注生産 ↳新しい商品が早く購買意欲をかきたてる</p> <p>コラボ×世界観×完全受注生産 ↳洋服に合うクラシカルなデザインの精工取扱いのコラボ</p> <p>サステナブル×コアファン ↳古い服を回収してくれるため新商品に手を出しやすくなる</p> <p>サステナブル×AI技術×通販 ↳自分の体形を入力したら着用感を表示できるようになればより販路を利用やすくなる</p> <p>完全受注生産×顧客の声 ↳自分たちの声が反映され商品化されると嬉しい</p> <p>DtoC×実店舗 ↳通販専用商品を実店舗で確認することができるイベント</p>	<p>W 弱み</p> <p>コラボ×公式通販サイト ↳コラボからの顧客が使いづらく&嫌ひやかなお店に入りづらく購入を滞らせる</p> <p>コラボ×男児の服 ↳ヒーローものとのコラボで男の子の年齢層を狙う</p> <p>AI技術×スキントーン&体型 ↳3DCGのモデルは白いため、体型と肌の色を気にしている顧客は購入しづらい</p> <p>受注生産×万人受けしない ↳実用性を考えられた服や時計などの小物の取り扱いがあるため、アンティークラインが好きな人は購入の可能性がある</p> <p>サステナブル×競合 ↳最初から再利用目的の生産体制?</p> <p>サステナブル×子供服 ↳成長が早い子供服を回収してくれる</p>
	脅威	<p>競合他社×オンラインミーティング ↳上顧客を抱え込みできる</p> <p>競合他社×1週間に1回新商品 ↳常に新商品を提供しマネタイズ化しないよう顧客離れを防ぐ</p> <p>上顧客が離れたとき×オンラインミーティング ↳月1回のMT・意見交換・ハグなどの付加価値で差を出す</p> <p>受注生産×上顧客 ↳上顧客層の受注生産を行う</p> <p>アパレル支出の減少×1週間に1回の新商品×コアファン ↳顧客の購買意欲をかきたてる</p> <p>物流が福井×通販の売上増 ↳工場と親近性を生かした物流体制</p>

消費者購入プロセス



新事業にかかる経営計画(1店舗)

	撮影スポットの拡散		ドネーション		
	キャラクターの確立・展開				
	2022/3 ~ 2023/2	2023/3 ~ 2024/2	2024/3 ~ 2025/2	2025/3 ~ 2026/2	2026/3 ~ 2027/2
①売上高	57,600	59,100	60,396	64,836	68,960
②売上原価	9,660	8,460	9,710	10,410	8,420
③売上総利益 ①-②	47,940	50,640	50,686	54,426	60,540
④販売及び一般管理費	13,500	13,500	13,500	13,500	13,500
⑤営業利益 ③-④	34,440	37,140	37,186	40,926	47,040

(千円)

(最終発表資料より その4 (1名))

現状分析 顧客

20代女性
中学生から愛用しています。独特な世界観でかわいい。ガーリーテイスト、ロリィタ、ヴィンテージレトロなど私に合った洋服が安く買えます。

30代女性
ブランドの世界観が好き。薔薇の刺繍やフリルが気に入っています。最近はシンプルな物を多く着るようになったが、自分の好きな服を着るとすごく気持ちが上がります。

10代女性
店舗やお嬢様みたいに綺麗なモデルさんを見て興味を持ちました。母も知っているブランドで今は一緒に見に行っています。お店も定員さんもすごく可愛くて早くお店に行きたいです。

デジタルチケット購入ページ

あなたにオススメのチケット

<p>Disney 雪の女王 SELECTION</p> <p>チケット価格: 420,552円</p> <p>定員: 10人</p> <p>残り: 3席</p>	<p>LONDON TOYS</p> <p>チケット価格: 1,885,516円</p> <p>定員: 179人</p> <p>残り: 5席</p>	<p>Jinnokids</p> <p>チケット価格: 3,084,820円</p> <p>定員: 276人</p> <p>残り: 5席</p>	<p>POETIQUE</p> <p>チケット価格: 2,804,190円</p> <p>定員: 283人</p> <p>残り: 22席</p>
---	--	--	--

スタッフ推薦のチケット

<p>かくはく</p> <p>チケット価格: 536,440円</p> <p>定員: 12人</p> <p>残り: 3席</p>	<p>チケット価格: 1,209,448円</p> <p>定員: 60人</p> <p>残り: 8席</p>	<p>チケット価格: 844,840円</p> <p>定員: 120人</p> <p>残り: 20席</p>	<p>チケット価格: 1,006,440円</p> <p>定員: 276人</p> <p>残り: 6席</p>
--	--	--	---

(最終発表資料より その5 (1名))

5. アイデアの絞り込み

「4」で行った課題特定材料より、**新規事業として成立する「配食サービス」を選びました。**

これは、アイディッシュ株式会社様の「インカートックシステム」を契約、導入致します。これを可能にすると、以下のようなステップアップを行えるところですが、今回は新規事業を求められておりますので、次のスライドに示す流れで進めます。



顧客課題の解決



表を行った。このため、10月第5週以降からの企業インターンシップ開始に向けて、受講者と企業インターンシップ受入企業とのマッチングについて必ずしも十分な時間を確保することができなかった。

- 企業インターンシップ受入企業を25社確保したものの、受講者の職歴、情報技能習熟度など初期のスキル、就業能力、就きたい企業種・職種等が様々で、一人一人の事情が異なっており、マッチングに苦慮した。
- 事業を円滑に進め今後も当事業を継続・発展させる上で、受講者に係る就労体験の場を提供し、最終的には雇用する立場にある企業側の本事業に対する理解・協力が必要不可欠である。事業を実施する大学等や関係機関はもとより、国全体として経済界に対する事業への理解を深める取組の積極的な展開が必要である。

(4) 事業の広報、受講者募集、申込者数及び受講者数

((4) - 1) 事業の広報、受講者募集及び申込者数

①取組の概要

福井県、福井労働局・ハローワーク、県内経済団体・金融団体等と綿密に連携協力し、様々な媒体・方法を活用して、県内の求職者はもとより県外のUIターン希望者に対しても幅広く事業・プログラムの広報活動を展開した。

○媒体

チラシ・ポスター、受講ガイド、受講者募集要項、プログラムに関するQ&A、交通費支援制度に関するチラシ、求職者支援制度に関するチラシ、専用ホームページ、テレビCM、インターネット

○方法

・本学

専用ホームページの開設、テレビCMの放送、YouTube、Lineによる動画配信、Googleによる画像配信、教育・スポーツ記者クラブでの記者会見の開催、福井労働局・県内ハローワーク担当者への事業説明会の開催、申込希望者への説明・相談会の開催（対面・オンライン）

・福井県

福井県の就職活動サイトや移住サイトへの掲載・登録者へのメール配信、県外事務所、福井Uターンセンターオフィス、県人会を通じたUIターン希望者への広報

・福井労働局・県内ハローワーク

求職登録者への広報、ホームページへの掲載、県内の求職者に対するスキルアップセミナーの開催

・県内経済団体・金融団体

福井県に縁のある首都圏在住者で構成される「イエロー会」会員へのメー

ル配信、各団体参加企業へのメール配信

○具体的取組

- ・受講ガイドブックには、申込者の獲得を図るため、プログラムの目的、受講科目・時間割等の講義内容、講師の紹介、企業インターンシップ受入を承諾した企業名を掲載
- ・申込要件、選考方法、プログラム内容、就職先等について、申込希望者に分かりやすく解説したプログラムに関するQ&Aを作成し、受講ガイドブックやホームページに掲載
- ・Uターン希望者を獲得するため、「福井県に移住をお考えの方の交通費支援制度」（チラシ：福井県）も活用し、県外事務所、福井Uターンセンターオフィス等を通じて首都圏を中心として県外にも広く広報。また、移住先探しや受講中の住居探し等について、福井暮らしはたらくサポートセンターにて相談を受ける旨、募集要項に記載
- ・職業訓練受講給付金給付対象者に周知するため、「求職者支援制度のご案内」（チラシ：厚生労働省・都道府県労働局・ハローワーク）により広報
- ・プログラム開始までのスケジュールが厳しい状況の中、申込者の利便性に配慮し、申込期間として8月17日（火）から9月6日（月）正午まで約20日間を確保
- ・募集期間開始前に専用ホームページを開設しテレビCMを放送
- ・専用ホームページのアドレスを「you can change.me（ユーキャンチェンジドットミー）」と分かりやすく印象に残りやすいものに設定し、テレビCM、チラシ、ポスター等で「ユーキャンチェンジドットミー」を使用することで、専用ホームページへの誘導を意識付け
- ・申込希望者への説明・相談会について、希望者個々の都合（時間・方法）に合わせて8月9日（月）～9月3日（金）までの平日に対面又はオンラインのいずれでも随時受付
- ・福井大学産学官連携本部協力会会員企業を始め関係団体の企業等に対し、企業インターンシップ受入依頼文書を送付する際、受講ガイドブック等を添付して事業内容を周知・広報。また、受入を承諾した企業に出向き、受講ガイドブック等により事業の趣旨・内容、養成される人材像を詳細に説明
- ・申込方法については、申込書類をワード・エクセル形式でホームページに掲載し、それを活用して作成・プリントアウトできるように手続きを簡素化

②成果

- 募集人員30名を大幅に上回る57名の申込者があった。年齢構成は20代から60代まで幅広く、就労区分も失業等により職を持たない者19名（33%）、非正規雇用労働者11名（19%）、正規雇用労働者27名（47%）と様々であった。

男女比についても女性が 19 名（33%）と男性に偏ることなく、またU I ターン希望者をターゲットとした広報戦略が功を奏し該当者が 13 名（23%）いた。

○申込者 57 名に対し、どのようにこのプログラムを知ったかについて面接前アンケート（複数回答可）を実施した結果は次のとおりであり、上記①の取組がそれぞれ一定の効果があったことが判明した。

- ・テレビCM：29 名
- ・SNS、HP：15 名
- ・家族・親族の勧め：13 名
- ・新聞広告等：10 名
- ・ハローワーク：3 名
- ・その他：4 名（Uターンセンター等）

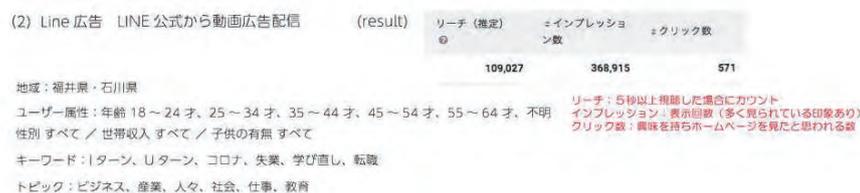
なお、情報化時代を反映し、インターネット広報に対し、次のとおり多くのアクセスがあった。

調査期間：8月5日（木）～9月5日（日）

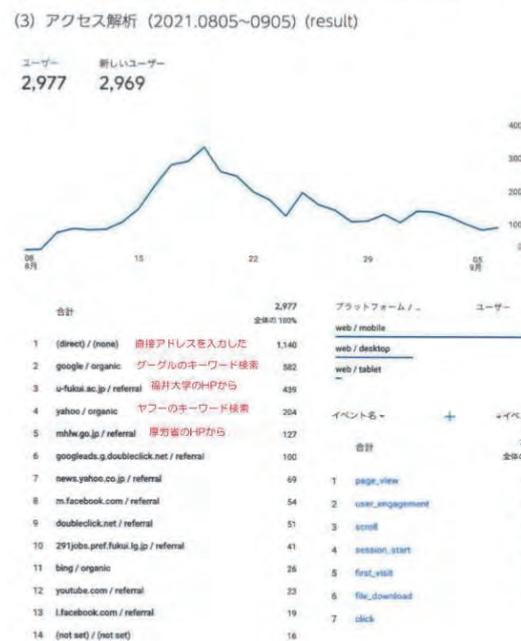
- ・YouTube 動画広告配信（15 秒）
 - 表示回数：38,100 件
 - 視聴回数：5,480 件（5 秒以上）
 - 対象地域：福井県、石川県
- ・Line 動画広告配信（15 秒）
 - 表示回数：368,915 件
 - 視聴回数：109,027 件（5 秒以上）
 - 対象地域：福井県、石川県
- ・専用ホームページ
 - アクセスユーザー数：2,977 人
 - アクセス延べ件数：31,585 件

資料 8-3 : インターネット広報に係るアクセス状況

福井大学リカレント教育事業 web 状況報告 2021.0805~0905 媒体毎のアクセス解析



福井大学リカレント教育事業 web 状況報告 2021.0805~0905



○説明・相談会への参加者は、ハローワーク福井での説明会のほか、平日に随時、対面又はオンラインのいずれでも受け付けたこともあり、対面 27 名、オンライン 18 名、合計 45 名 (ただし、一人で 2 回参加した者が 1 名おり、実人数は

44名)となり、うちオンラインによる県外在住の参加者も9名あった。説明・相談会参加者44名のうち31名(70%)が受講申込を行っており、事前の丁寧な説明や相談を行ったことが申込者獲得に一定の効果を発揮したことが判明した。

- 説明・相談会への参加者数、申込者数に鑑み、IT分野のリカレント教育に対するニーズが高いこと、UIターン希望者が一定の割合で存在することが判明した。

③課題

- 今回は委託事業の採択後、7月中旬の契約からプログラム開始(10月1日(金))までのスケジュールが厳しく、募集開始(8月17日(火))前の広報を必ずしも十分に行うことができず、申込者数に多少の影響を与えたことは否めない。

(4) - 2) 選考及び受講者数

①取組の概要

- 当初一人ずつ面接を行う予定であったが、申込者数が57名と大幅に募集人員を上回ったことを受け、希望コース毎に5人程度の班を編制し班毎に集団面接を行った。なお、県外者及び嶺南地区居住者には便宜を図り、希望によりWebによる面接を可能とした。また、申込者には職業に就いている者が多数いることから、本人の都合に合わせて金曜日午後又は土曜日に面接日を割り振った。
- 事業の最終目標が受講者の就職であること、また、受講者と企業インターンシップ受入企業とのマッチングを円滑に行う必要があることから、選考に当たって雇用側の観点、意見・要望も取り入れるため、企業インターンシップ受入承諾企業及び県内経済団体の関係者5名に面接への同席を依頼した。選考に当たって、この5名による自社へのインターンシップ受入れの可否等の意見を参考にした。
- 最終選考は、意欲、就業能力、受講の必要性・妥当性、就業・転職の希望・意志、授業出席の可否等、様々な観点からの評価結果を踏まえて、事業実施委員会において行った。

②成果

- 申込者数が57名と募集人員30名を大幅に上回り、結果として受講者数はサイバーセキュリティコース16名、システム開発コース16名、合計32名(後日プログラム開始前にサイバーセキュリティコースの1名が辞退し31名となった。)となり、数値目標の30名を達成した。
- 受講者の年齢構成は20代から50代まで幅広く、就労区分も失業等により職を持たない者12名(39%)、非正規雇用労働者7名(22%)、正規雇用労働者12名(39%)と様々であった。女性が13名(42%)と4割を占め、またUIターン希望者をターゲットとした広報戦略が功を奏し県外居住者も8名(26%)い

た。

- 面接については、就業者にも配慮した丁寧な方法を工夫したことにより、一人の欠席もなく、57名全員が出席した。
- 企業関係者による自社への企業インターンシップ受入の可否等の意見が、合否判定や受講者の企業インターンシップ受入企業の割振を円滑に行う上で大いに参考になった。
- 職業訓練受講給付金制度の周知・徹底を図った結果、1名が給付対象者となった。

③課題

- 今回は委託事業の採択後、7月中旬の契約からプログラム開始（10月1日）までのスケジュールが厳しく、募集期間（8月17日（火）～9月6日（月）正午）後の面接（9月10日（金）、11日（土））、最終選考（9月15日（水））、合格発表（9月16日（木））のスケジュールがタイトになり、作業が繁雑となった。また、合格発表からプログラム開始（10月1日（金））までが半月しかなく、受講者のプログラム受講に向けての準備に支障が生じたことは否めない。
- 専門性の高い科目を外部委託していたこともあり、多数の受講希望者に対し、定員の上限を大きく引き上げることができなかった。

（5）プログラムの実施・運営及び修了率

①取組の概要

- 県外者や就業者に配慮するとともに新型コロナウイルス感染拡大防止のため、9月24日（金）の19時40分からWebによる受講者オリエンテーションを実施し、プログラムの内容（クラス分け及び時間割、オンラインコンテンツの利用方法、生活上の留意点等）について説明した。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止に向け、募集要項に選考面接に向けての注意事項を記載、選考面接時に今後の感染状況を踏まえた本学のプログラム実施方針について説明、オリエンテーション時に受講者としての日常生活上の注意点を説明する等、様々な機会を活用して注意喚起を徹底した。また、授業期間中は、教室での3密の回避、教室出入口への手指消毒液配置、授業終了後の机、椅子、パソコンのマウス、教卓の消毒等、感染防止に向けた受講環境の維持を徹底した。
- 学生メンターや事業担当スタッフが、常時教室に待機する等、受講者からの質問や要望に答えられる体制を構築した。また、受講者が教室に迷わないように建物及び教室の出入口に毎時間、講義名と時間の貼り紙をし、授業開始前に教室の冷暖房管理の徹底を図る等、手厚く支援した。
- 受講者の情報技能習熟度など初期スキルに幅がある中、受講者全員がプログラムを円滑に受講し修了を可能とするため、ワード、エクセル、パワーポイント、

- SPSS（統計ソフト）などスキルを高めるオンデマンドコンテンツを作成し、いつでも視聴できる環境を構築した。
- 受講者証を配付して携帯させ、図書館の利用を認めるとともに、必要がある者には自家用車による入構を認める等、修学環境に配慮した。
 - 授業内容、プログラムの運営方法、受講環境等について受講者の意見を聴取し、プログラムの検証・分析、後半の授業改善、今後のリカレント教育の改善に活かすため、受講者に対する中間アンケート及び最終アンケートを実施した（資料6-8、6-9参照）。
 - プログラムの二つのコース名に「DS」、「DX」等の名称は使用せず、「システム開発」、「サイバーセキュリティ」という具体的な内容を付すことにより、受講目的をイメージしやすいコース名とした。

②成果

- ワード・エクセル等のオンデマンドコンテンツの作成、修学に関する学生メンターや事業担当スタッフによる手厚い支援、新型コロナウイルス感染拡大防止の徹底等に十分留意して取り組んだことにより、アンケート結果では、修学環境に関する受講者からの大きな不満はほとんどなく、運営スタッフの存在・手厚い支援への感謝の意見が数多く寄せられた。また、プログラム全体に対する満足度について、最終アンケート結果では「満足した」（11名）、「ほぼ満足した」（14名）、合計25名（93%）と受講者の高い満足が得られたことが確認できた（資料6-9参照）。
- 受講者に新型コロナウイルス感染症罹患者が発生することもなく、全員が最後まで必要な授業を受講した。
- 上記①の取組が効果をあげ、修了者は31名中27名（87%）となった。
- 本学の取組の評判を知り、総務省福井行政監視行政相談センター所長及び主任行政相談官が11月13日（土）午前中にサイバーセキュリティコース及びシステム開発コースの授業を視察した。
- 文部科学省より委託を受け、当事業の実施状況等に関する取りまとめを実施している野村総合研究所委託調査事務局から、ニーズ調査の実施方法や効果的な広報・周知、実効的な運営体制構築に関し参考となる優良事例等の調査において、本学の取組が参考になるのではないかとの理由により、1月11日（火）にインタビューを受けた。
- 就業先企業アンケート結果（2月15日現在）では、質問「このプログラムにより、ITスキル、ビジネスマナー等の総合的な人間力が育まれたことが、今回の雇用（内定）に至った重要な要因となりましたか」に対し9社中8社（89%）が「非常に重要であった」「重要であった」と回答し、また質問「このようなプログラムの受講により、ITスキル、ビジネスマナー等の総合的な人間力が育ま

れた人材を今後も雇用しやすいと思いますか」に対し9社中9社(100%)が「思う」と回答しており、当プログラムが養成する人材への企業側の雇用ニーズが高いことが判明した。また、今後実施してほしいリカレントプログラムの分野について、IT系(IT関連6社、DX5社、情報・数理・データサイエンス2社)が多いことが判明し、今後の本学の取組の方向性を決定する上での参考となった(資料7-3参照)。

③課題

- 受講者アンケート結果では、授業と授業の間の休憩時間が10分と短いため、講師への質問時間や教室移動時間がなく窮屈だった、合格発表からプログラム開始までの時間が短く引越しが間に合わなかった、授業を録画して後で聴講できる仕組みがあるとよかった等の受講スケジュール・環境に関する意見があったが、すぐに対応できないものや法制度上の課題をクリアしなければならないものもあり、今後のリカレント教育に活かすこととした(資料6-8、6-9参照)。
- 説明・相談会参加者のうち、オンラインによる県外在住者(U I ターン希望者)が一定数存在していたが、当時、首都圏や大都市を中心として新型コロナウイルス感染状況が悪化していたため、プログラム受講のため本学に通うことができない恐れもあり、申込みを取りやめた受講希望者も相当数いた。10月からのプログラム開始に向けて、幸運にも県内外の新型コロナウイルス感染状況が好転したため、2か月間のプログラムを対面授業で無事終えることができたが、感染状況が悪化した状況の中で、U I ターン希望者も受講できるプログラムを行うことができないのか、さらなる検討が必要である。
- リカレント教育を実施するための退職教員活用制度の確立など教員リソースの確保策を検討する必要がある。学内教員の活用は通常業務への負荷となるため、インセンティブ供与やバイアウト制度による財源を含めた支援が必要である。
- 今回は、委託事業の採択後、7月中旬の契約からプログラムの開始(10月1日(金))までのスケジュールが厳しく、受講者・運営者双方にとって余裕のないプログラムとなったので、今後はその点に配慮が必要である。

(6) 就職支援及び就職率

①取組の概要

- 「企業インターンシップ」受講者は当該受入先企業への就職に結びつく可能性が高いため、次のとおり受入企業の確保、受講者と受入企業とのマッチング、受講者への参加に当たっての心構えの指導等に取り組んだ。
 - ・受入企業として、福井大学産学官連携本部協力会会員企業を始め関係団体の企業等に依頼し、25社を確保した。

- ・受講者と受入企業とのミスマッチを回避しマッチングを円滑に進めるため、受講者に対し受入承諾企業の中から受講希望企業について順位を付して回答を要請した。この結果に加え、選考面接時に同席した受入承諾企業関係者の意見（自社へのインターンシップ受入の可否等）及び受講者の職歴等を参考に受講者の受入企業を割り振り、必要に応じ当該企業と本人との事前面談を経て、受入企業を決定した。
 - ・受講者に対しては、受入企業への就職も視野に受講に当たっての心構え（①なぜその企業を希望したのか、②当該企業に雇用された場合、自分のこれまでの経歴がどのように活かせるのか、③現在、プログラムではどのような授業を受講しているのか等を質問された場合の回答を整理しておくこと。）を「キャリア概論」時に説明するとともに、受講直前にもメールにより再度指導した。また、職歴の浅い又はない受講者に対しては、事前に本学関係者による模擬面談を実施した。終了後には、受講者に企業インターンシップの内容、感想のほか企業側からの雇用選考への応募案内の有無等の報告を要請した。
- プログラム修了後に本格化する就職支援について、福井労働局及び県内ハローワークと具体策の検討を行った結果、受講者一人一人の希望や事情に合わせて就職斡旋を行うことが最も有効な手段であるとの結論となり、ハローワーク福井を中心窓口としてプログラム受講者の就職斡旋を実施することを決定した。具体的には、次のとおり受講者に周知し実施した。
- ・12月1日から15日までを対象（強化）期間として相談を受け付けるので、必ずその期間内にハローワーク福井を訪問してほしい。なお、対象期間後も就職斡旋は継続する。
 - ・既にハローワーク福井や県内の他のハローワークに求職登録・相談している受講者についても、今後、ハローワーク福井が受講者の情報を集約し、県内の他のハローワークとの連絡・調整を行っていくため、改めて必ずこの期間に訪問してほしい。その上で受講者の居住地などの事情に応じ、県内の他のハローワークも紹介していくことになる。
- ふくいジョブステーション（福井県人材確保支援センター）の紹介並びにその取組について、受講者に周知した。
- 本学独自の取組として、企業インターンシップ受入企業に就職できなかった受講者等に対し、本学と教育研究面で連携・協力している企業との様々なつながりを活用した本学独自の企業紹介を実施した。
- キャリアコンサルティングとして、次のとおり取り組んだ。
- ・県内ハローワーク担当者に対し、本事業のプログラム内容や身に付く知識・スキル等の理解を深める説明を行った。ハローワークでは、プログラム受講

申込時、受講中、受講後の就職相談強化期間等において、相談に来た受講者に対する就職意識、キャリア形成に係る意識付けなどを実施した。受講者オリエンテーションでも受講者全員に対し最寄りのハローワークで求職登録を行うよう指導しており、受講者は随時ハローワークに出向き、キャリアコンサルティングを受けた。

- ・「企業インターンシップ」受講者に対しては、前述したとおり、受入企業への就職も視野に受講に当たっての心構えを全員に説明するとともに、受講直前にも再度メールで指導した。また、職歴の浅い又はない受講者に対しては、事前に本学関係者による模擬面談を実施した。
 - ・「キャリア概論」では、5～6名の少人数クラス分けによるメンター制を取り入れ、各担任が毎回一人を指名し、企業インターンシップ受入企業等、特定の企業の調査・分析及び発表を行わせ、他の受講者も交えて、当該企業を調査対象とした理由、就職希望の有無、就職に向けてのこれまでのキャリアやプログラムで学び身に付けたスキル・能力の活かし方等について意見交換を行った。キャリア形成のヒントを得、また他の発表者の経験を自分の今後活かす機会となり、実質を伴ったキャリアコンサルティングの場として機能した。
 - ・前述したとおり、福井労働局・ハローワーク福井と協議し、対象（強化）期間を設けて、ハローワーク福井を中心窓口として受講者の就職斡旋を行うこととし、受講者全員に周知した。この期間にハローワーク福井を訪問・相談した受講者はキャリアコンサルティングを受けた。
- 受講者が就職した企業のうち9社（2月15日現在）に対し、プログラム内容の検証・分析を行うとともに今後のリカレント教育の改善に資するため、このプログラムにより身に付けたスキル・能力が雇用に至った要因となったか等を質問項目として、アンケートを実施した（資料7-3参照）。
- 受講者が就職した企業及び企業インターンシップ受入企業の担当者（7社）を招いて受講者やプログラム実施関係者と意見交換を行い、プログラム内容の検証・分析を行い、今後のリカレント教育の改善に資するため、1月21日（金）に本学関係者、事業実施委員会委員を交えて、本学で意見交換会を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染状況の悪化に伴い中止した。

②成果

- 企業インターンシップ受入企業の十分な確保及び受講者との丁寧なマッチングを行ったこと、事業化可能性調査において、企業を調査し当企業に提言を行う中で、当企業の目に留まったこと、福井労働局・ハローワーク福井との連携・協力の下で、訪問・相談対象（強化）期間を設け、ハローワーク福井を中心窓口として取り組んだこと等、様々な取組により、修了者27名のうち、受講開

始時に非正規雇用労働者及び失業者等の職を持たない者 18 名に対する就職又は内定を受けた者は 8 名（正規雇用労働者 5 名、非正規雇用労働者 2 名、非正規雇用労働者から正規雇用労働者となった者 1 名。2 月 15 日現在）、その割合は 44% となり、プログラム修了（令和 4 年 1 月 21 日）後 3 か月以内の数値目標（80%）達成に向けて、引き続き手厚い就職支援を継続する予定としている。なお、就職率算定の対象にはならないが、正規雇用労働者 9 名のうち 5 名が本プログラムの成果を活かして転職しており、この点も踏まえれば本事業の趣旨に沿った一定の成果が得られたものと考えている。

③課題

- 受講者の経歴、情報技能習熟度など初期のスキル、就業能力、就業を希望する企業種・職種等が様々であり、企業インターンシップ受入企業とのマッチング及び就職支援が難しい。特に、就職に結びつきやすい企業インターンシップに関し、受入企業とのマッチングを十分な時間をかけて丁寧に実施する必要がある。また、就職支援の面では、企業に対し当プログラムの内容や身に付くスキル・能力の理解を深めることが重要であり、その上で求職企業と受講者とのマッチングを進めることが必要不可欠である。受講者の知識・スキルとキャリア採用として企業が希望する人材像（新卒に比して社会人としての経験、技能習熟度が深い）との差をどう埋めていくかが大きな課題である。
- 事業の数値目標として就職率を掲げること自体は、事業の趣旨に鑑みやむを得ないが、そのことだけに囚われると事業の本質を見誤る恐れがある。事業の真の効果を測るためには、就業後も追跡調査をすることが重要であり、それを担保する財源（人件費等）を確保する方策の検討が必要である。
- 事業を円滑に進め今後も本事業を継続・発展させる上で、受講者に係る就労体験の場を提供し、最終的には雇用する立場にある企業側の本事業に対する理解・協力が必要不可欠である。事業を実施する大学等や関係機関はもとより、国全体として経済界に対する事業への理解を深める取組の積極的な展開が必要である。

9. 今後の展望

「4. 地域ニーズの把握」にて記載のとおり、福井大学では令和元年よりリカレント教育実施に至るニーズ調査（地域企業において必要な人材の調査）を行ってきており、令和3年度にリカレント教育推進本部を設置した。これまでの市民開放講座等に加え、社会人が時代の変化に合わせて学び直すことができるリカレント教育の機会を提供し、人材育成を通して地域社会と大学との連携をより一層深めるプログラムを推進している。

（プログラムコース：令和3年度）

- ・データサイエンス・AI 入門
- ・社会人にも役立つリベラルアーツ
- ・地域創生と持続可能な社会づくり

(<https://www.u-fukui.ac.jp/news/65923/>より)

これらのプログラムの主たる対象は、福井大学同窓経営者の会会員企業に所属する社員や、地域の市民であり、このたび本事業で行った失業者や転職希望者を主たる対象とした取り組みは初めての試みであった。

「8. 成果と課題」で記載したとおり、初めての試みであるがゆえに試行錯誤の末に克服した課題も存在したものの、設定した受講者数を大きく上回る申込者数と、受講者の高い満足度から、一定の成果を挙げたといえる。本年の取り組みをもとに、上記に示した令和3年度の本学の社会人向けおよび市民向けのリカレント教育に加え、本事業で対象とした失業者や転職希望者向けのプログラムを継続的に実施するにあたって、次の検討事項が挙げられる。

(1) 事業実施における企業側、受講者側の双方のニーズについて

① 地域企業の人材ニーズに合わせた教育の提供

厚生労働省「一般職業紹介状況」によると、福井県の有効求人倍率は、令和3年において1.55倍から1.85倍で推移しており、令和3年12月においても1.71倍と、依然、全国で群を抜いて1位という状況であり、高い水準が続いている。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
全国	1.1	1.09	1.1	1.09	1.09	1.13	1.15	1.14	1.16	1.15	1.15	1.16
東京都	1.23	1.19	1.17	1.14	1.12	1.15	1.19	1.18	1.2	1.21	1.23	1.25
福井県	1.57	1.55	1.62	1.77	1.77	1.79	1.83	1.85	1.85	1.8	1.75	1.71

2021年の有効求人倍率の推移（厚生労働省「一般職業紹介状況」より抜粋）

（数値出所：<https://www.jil.go.jp/kokunai/statistics/shuyo/0210.html>）

このような中、福井県内の多くの民間等による職業訓練機関では汎用的な IT

スキルを中心として、幅広く研修を実施している。しかしながら本学が福井労働局および県内ハローワーク担当者と県内データをもとに検討したところ、県内企業が必要としている人材は汎用的な IT スキルをもつ一般事務職ではなく、高度な IT 専門人材であった。このように地域の採用企業側の視点では、従来の職業訓練のみならず、さらに高いレベルの人材の育成が必要であることが明らかになった。

②受講者における本事業の価値の向上

次に、求職者側である受講者にとって効果的な教育の提供という視点で考察する。米国労働省によれば、アプレンティス制度は、高成長産業や新興産業の数百の職種にアクセスすることができ、実習生が実習プログラムを修了した後の平均初任給は 72,000 ドル (828 万円, 1 \$ 115 円換算)、実習終了後に 92% の雇用が維持されていると報告されており、受講生にとっても非常に魅力的なものになっている。

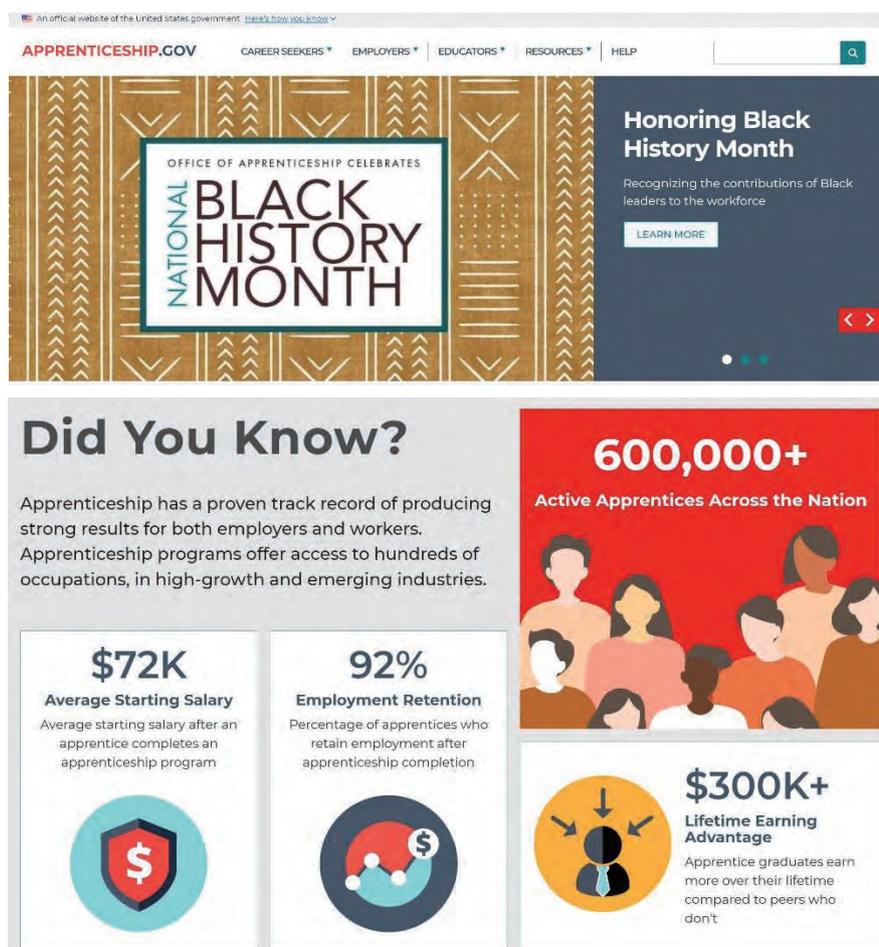


図 本学が本事業実施の参考とした米国アプレンティス制度 (<https://www.apprenticeship.gov/>、米国労働省ホームページ)。

本事業を続けていくことを検討するにあたり、扱う領域や制度設計のみならず、米国での成功モデルをより詳しく紐解き、日本に应用可能な形として、必要な関係機関が担うべき役割や変更点を整理していく必要がある。

以上より、地域のその時々の実情に応じ福井労働局や業界団体と協議の上の設定を行い、経営実務を中心とした社会経験や中小企業政策の専門性、大学教務等に精通した教職員が連携し適切なカリキュラムを設計し運営を担っていくことにより、今後さらに効果的に機能することを想定している。

(2) 事業採算性の問題

① 受益者の特定が難しい課題

大学として限られた資源の中でリカレント教育を行うにあたり、事業採算性の議論を無視することはできない。本学が令和3年度に行っている「データサイエンス・AI 入門」では、福井大学同窓経営者の会の会員企業を対象にしているが、特定の企業の社員を受講生の対象とした場合は受益者たる個人および企業が明確であり、企業側も相応の費用負担が可能である。

一方で本事業の場合、福井県企業全体としてみた場合の受益者という捉え方は可能であるものの、育成された受講者がどの企業に就職するのか未確定な部分が多く、また新規採用ゆえに企業側がその能力を適切に把握することも困難が伴うことから、特定の企業側に事業実施の負担を依頼することが難しい。

② 失業者、転職希望者に対する広報費用

特定の企業集団（福井大学同窓経営者の会、福井大学産学官連携本部協力会、福井県の特定産業の集合体である業界団体等）に所属する社員等を対象とした研修と異なり、本事業では不特定多数の失業者や、潜在的な転職希望をもつ転職希望者を対象とするため、広報による受講者のニーズの掘り起こしに相応の費用を必要とする。

以上①、②の課題を考えると、本事業の採算性の困難さおよび、雇用・地方共創政策として公的な財政支援の継続を必要とする

福井大学
私の職業再構築支援プログラム

受講無料・受講者選考あり

福井大学は、デジタル技術を身につけ、再就職達成を目指す人を支援するプログラムを行なっています。
 ◎参加者には、2ヶ月・就業体験、計152時間以上のカリキュラムを受講して頂きます。
ただいまチャレンジする人を募集中です

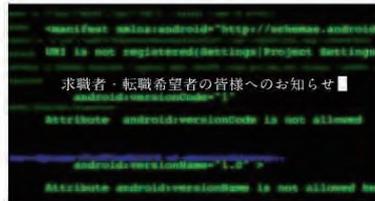
対 象	就職中の中高生・再就職希望者、転職希望者、10ヶ年で職歴を築きたい人。
志望資格	デジタル人材へと変換し、企業へ再就職する意欲がある人。
募集期間	令和3年8月17日(火)～9月6日(月) 正午
実施期間	2021年10月からの約2ヶ月間(11:00～18:00(土日祝日を除く)※※)
予定人数	30人
申込方法	次の4つの資料を参照し、①記入の上、福井大学まで郵送又はご持参ください。 ・受講希望書書式 ※資料名をフロッピーするとダウンロードが容易です。 ・受講申込書(申込書式) ・受講申込書(申込書式) ・履歴書調査票(申込書式) (※・※の各種申請書) ・就職支援制度のご案内(学生数値・郵送の受付時間・ハローワーク) ・資料室に居住を希望の方の受講支援制度(随時見)
学ぶ内容	サイバーセキュリティ技術・システム開発技術・IT関連技術 ※授業内容などの詳細はこちら
費 用	受講料は無料(受講費やパソコン費は自己負担) ※Q&Aはこちら

(専用ホームページのトップページ)

「福井大学職業再構築支援プログラム」篇 15秒

「テレビ」ですから、きちんと機能させるために、エンターテイメントの要素を演出として加えています。きちんと伝えるためにも、デジタル空間を想像させるコードが闊列・顔出す中に、伝えるべきメッセージだけが白色で表れます。すべての文字は、たくさんの人がタイピングしているように動いています。

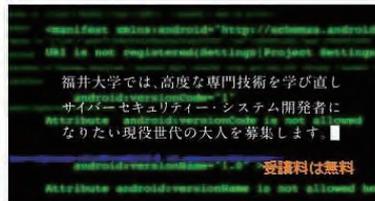
色遣いは、
白・黒・R(っぽいオレンジ)・
G・Bの5色のみです。



SE(打鍵音):

タタタ、タタタタ...

S:
福井大学では、高度な専門技術を学び直し
サイバーセキュリティ・システム開発者
になりたい現役世代の大人を募集します。

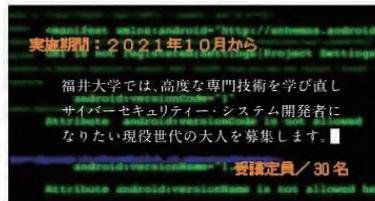


NA(女性)

「求職者、
転職希望者の皆さんに、
お知らせです」

S: 受講料は無料

S: 実施期間:
2021年10月から

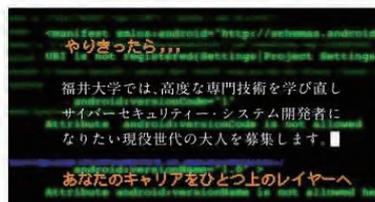


NA(女性)

「2ヶ月間、
本気で学び尽くせたら、
スペシャリストになる
ファストパスを
手に入れられる」

S: 受講定員/30名

S: やりきったら...



S: あなたのキャリアを
ひとつ上のレイヤーへ

NA(女性)

「そんな、
チャンスがあります」

S: 週末・夜間が主
S: 144時間の講義と就業体験



NA(女性)

「福井大学、
ユーキャンチェンジ、
ドットミーで検索」

logo: シグネチャー
S: URL

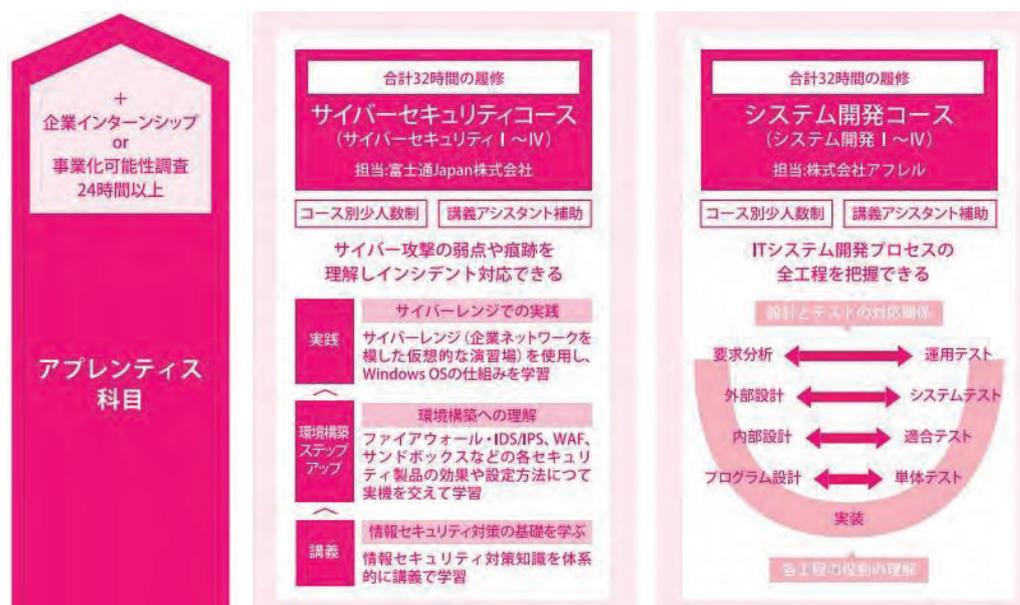


※ナレーションの原稿文字数は、
上記で目一杯です。

(テレビCM)

③学外リソースの取り込みにかかる費用

民間で行われている一般的な職業訓練とは異なる内容をカリキュラムにするとはいえ、大学教員による授業の提供だけでは、受講者の就業受け入れ先となる企業側の人材ニーズを満たすことは難しい。実際に、本事業では大学教職員による授業、キャリアアドバイスに加え、特定の高度 IT スキルにかかる企業研修を専門的に担う企業や NPO 法人と連携しプログラムを構築することで、受講者から 93% という高い受講満足度を得た。



(※本事業では応用としてアプレントイス科目を企業研修を専門とする企業が担当)

以上を総合すると、このたびの文部科学省による大学リカレント教育推進事業の実施は、委託事業という点で事業実施の費用を賄うことが可能であったため、同教育のニーズの高い福井県において極めて有効な政策であった。今後も同様の政策をうまく活用しつつ、地域の人材育成における本学の役割を担っていきたい。

